Photo essay

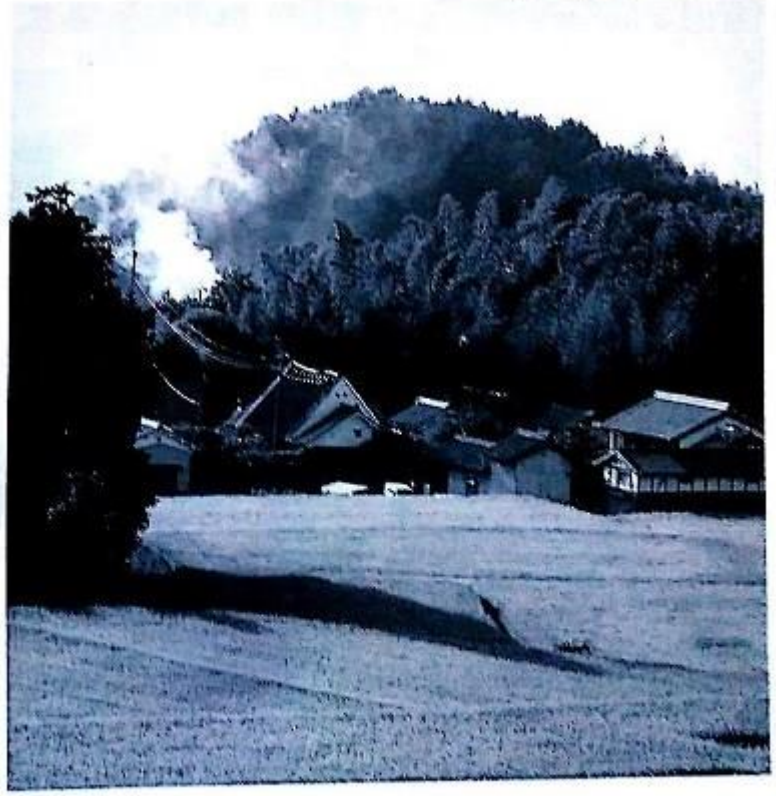
夏後様

題字　中田蘭石
撮影　由井　収
文　松永恵一

川原寺跡

「風薫る」から「風涼し」のころ
に変わると、緑陰が恋しくなる
木立の中に入ると、清涼の世界
若緑、深緑の海がゆらめくように
目前にひろがる
芳純な香りがただよってくる
雲が走り、こずえが笑いざわめき
ながらゆれている
緑や濃い茶色や山吹色やしろがね
さまざまな色をとり込ませた風が
吹き抜けて行く
水の流れはきわめてたけく爽い
水を映った緑の輝きに見とれる
なにもかも濡れ色の時にこそ
風情がある

飛鳥川　淵を早み岩にせかるる滝川のわれても末にあはむとぞ思ふ



八釣の里

季節の実景

撮影　武市通治

盛夏

吸蜜

田の神様

不動の大滝（宇治田原町）

湖畔の蓮（守山市）

薫香（青山高原）

雲表の庭園（四国・天狗塚）　尾野　益大

雲海に浮かぶ穂高連峰（白山・御前峰）　三浦　弘幸

横岳から硫黄岳への稜線（八ヶ岳）　松浦　隆康

朝の白山室堂小屋（白山）　三浦　弘幸

●目次

表紙：松田敏男「八経ヶ岳のオオヤマレンゲ」（大峰）

●作者プロフィール●1948年、京都市生まれ。京都市立芸術大学中。1987年より山岳撮影、山岳画の個展多数開催。（奈良行写真展、北アルプス燕小屋、東京ギャラリー若竹、他）
奈良山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員、一等三角点研究会会員、水墨画・刀の会会員

新ハイキング 別冊 関西の山
'96年7・8月 夏号 第29号

●グラビア
夏枝様……撮影 唐井 収 文
承命の実景（信濃）……撮影 唐井 収 文
随想（山のエッセイ）
一ヒダルガミ」のこと……松永 恵一
岩石寺縫塚巡り……武市 通治

紀行
悲沢岳・赤石岳・聖岳……松田 敏男 12
北信……横川 好行 10
編笠山と西岳……松浦 隆康 14
速報 日本霊山紀行27
秩父連峰から雁ヶ岳縦走……稲包山……遠野 孝一 19
石徹白道と中宮道……賀見 守康 24
白清大山……高橋 実 27
明快・梶ヶ森……田中 誠 30
近江側から登る鈴鹿の山々……多摩 雪雄 34
日本コバ新ルート……嵯野 明 38
日本コバ・友釣山……42
姫ヶ滝……50 52 54 56

エリア別研究
●京都北山やぶ清き補快山行記（26）
アシビ谷縦行と尾越・大見高原歩き……京都北山グループ 中村 誠文 47

●近世の古寺を歩く㉒ 旧東海道……松尾 知三郎 58
●文学歴史探訪ハイク㉙
女人大峰・稲村ヶ岳……松永 恵一 62

コースガイド
1 土佐矢筈山……尾野 益大 66
2 海ヶ峯・義老山・君尾山……山形 康之 68
3 庄長街道……柴田 昭彦 70

●関西・山越の古道を歩く㉓ 三国越・㉔京石越……寺山 矢男 73
●野の花選歌（16）初めて高山に挑戦……市川正次郎 74
●連載 青葉の山々・三葉三笑八山 三……山形 康之 78

●連載 ハイキングガイド：テーピスチューン……
せせらぎ……
新ハイ関西山行計画と報告……
バス時刻（春号）……
編集後記・広告案内……

巻頭言

京都北山のテノ口山の山頂付近には、京都市指定天然記念物の天然伏状合形（アシウスギ）が群落しています。「まるで燃え上がる炎のようだ」と京都新聞の記事で紹介されました（96年8月26日付朝刊）。一目見ようと観察に訪れる人が増えてきたようです。

ところがここ最近、登山口で山の持ち主から入山を断われたという情報を読者から聞いて残念に思っています。なんでも、登山者のマナーが悪く、観察この巨木の幹にナイフで自分の名を切り刻んだ人がいるという。そしてハイカーが必ずしも地元の村の人に歓迎されていないことも聞きました。山菜を採ったり、花や木を持ち帰ったり、また生活圏をゴミや糞尿で汚されたりと。こんなことでは、壊われるのは無理からぬことです。

山歩きをするには、そこで毎日暮らしておられる里の人々のことをよく理解し、考えた行動が望まれます。この井ノ口山付近は「京都広域森林公園」の建設ルートになっていて、林業で生活を支える人とこのような貴重な自然の保存が課題となっています。こころの優しい山歩きを実践したいものです。

新ハイキング関西（代表）村田 智彦

やませみクラブ

初心者のための 山歩きを楽しむ会

●ゆったりした行程、ペースです。
●基礎をもう一度学びたいという方も大歓迎!!
●お一人でも、どの回からでもご参加いただけます。

	期日	テーマ	予定コース	費用
11回	★一泊二日 7月31日～22日	「初めてのアルプス、フラワーウォッチング」 中央アルプス・木曾駒ガ岳 魅力ワンポイント☞比較的容易に触れるアルプスです。シナノキンバイ・ハクサンイチゲ・コバイケイソウなど高山植物が可憐な花を咲かせています。	★木曾駒ガ岳(標高2956m) (第1日歩行5時間50分/第2日歩行3時間30分) (第1日)大阪(8時発)——しらびそ——千畳敷——宝剣山荘(泊) (第2日)——駒ガ岳——千畳敷——しらびそ——大阪(20時頃着)	32,000円 (第1日の夕食、第2日の朝食付)
12回	★二泊三日 7月27日～29日	「穂高の岩稜を歩く」 北アルプス・西穂高独標～上高地 魅力ワンポイント☞優れた岩峰。西穂高独標までは比較的容易で、初夢の岩稜歩きを楽しみましょう。季節もベストシーズンでお花畑と大雪渓も豊富！下山後は上高地観光も。	★西穂高独標(標高2701m) (第2日歩行4時間/第3日歩行3時間) (第1日)大阪(8時発)——京都(9時30分発)——新穂高温泉(泊) (第2日)——西穂高口——西穂山荘——西穂高独標——西穂山荘(泊) (第3日)——上高地——大阪(21時頃着)	40,000円 (第1日の夕食、第2日の朝・昼・夕食、第3日の朝食付)
13回	★高山西日 8月8日～11日	「大雪渓を軽アイゼンで歩く」 北アルプス・白馬岳 魅力ワンポイント☞超有名な白馬の大雪渓を軽アイゼンで歩きます。チングルマ・ハクサンイチゲ・ミヤマキンポウゲ・ウルップソウなど高山植物も豊富。下山後は温泉宿で一泊するというゆったりプランです。	★白馬岳(標高2932m) (第2日歩行6時間/第3日歩行5時間) (第1日)大阪(8時発)——京都(9時30分発)——白馬(泊) (第2日)——白馬岳(泊) (第3日)——白馬大池——蓮華温泉(泊) (第4日)——大阪(18時頃着)	43,000円 (第1日の夕食、第2日の朝・昼・夕食、第3日の朝・昼・夕食、第4日の朝食付)
14回	★二泊三日 8月31日～9月1日	「3000m級の山を縦走する」 北アルプス・立山 魅力ワンポイント☞雪山としても有名な立山。標高3000mを超える立山の縦走は、すばらしい景観の連続で、高山の魅力にあふれています。	★立山(標高3015m) (第2日歩行4時間/第3日歩行4時間) (第1日)大阪(8時発)——京都(9時30分発)——室堂(泊) (第2日)——ノ谷——雄山——内蔵助山荘(泊) (第3日)——別山——室堂平——室堂——大阪(21時30分頃着)	52,000円 (第1日の夕食、第2日の朝・昼・夕食、第3日の朝食付)
15回	★三泊四日 9月13日～16日	「紅葉の北海道最高峰を縦走する」 北海道・大雪山(黒岳～旭岳) 魅力ワンポイント☞北海道の屋根といわれる大雪山。北海道ならではの広大な展望、見事な全山紅葉を思う存分楽しみながら、黒岳から旭岳へと縦走します。山麓の温泉も楽しみの一つです。	★大雪山縦走(標高2290m) (第2日歩行7時間/第3日歩行6時間) (第1日)関西空港(11時発)——千歳空港(12時55分着)——層雲峡泊(泊) (第2日)——七合目——黒岳——間宮岳——旭岳——姿見——銀泉台(泊) (第3日)——姿見——裾合平——白雲岳——沼ノ平——愛山渓温泉(泊) (第4日)——千歳空港(14時発)——関西空港(18時05分着予定)	135,000円 (第2日の夕食、第2日の朝・昼・夕食、第3日の朝・昼・夕食、第4日の朝食付)

＊以降も山行プランは続きます。詳細はお問い合わせください。
＊ベテランの山行リーダーが引率します。女性お一人でのご参加、中高年の初心者の参加を歓迎いたします。お気軽にお問い合わせください。

アミューズトラベル株式会社
〒541 大阪市中央区本町4-2-3 本町三井ビルディング8F
〒812 福岡市博多区祇園2-5-26 博多祇園ビル10F
お問い合わせ フリーダイヤル 0120-802514
FAX 06-265-3306
福岡 ☎092-414-5555 大阪 ☎06-265-3303

克

「ヒダルガミ」のこと

松尾和三郎

昨夜はぐっすりとよく寝た。朝ごはんはおいしくて、たっぷり食べた。バスに長い時間ゆられたあと、歩き始めがシンドイのは毎度のこと。しばらく歩くと調子が出てきた。眺めのよい所で昼にした。駅の売店で買った折詰めだが、おいしかった。

天気は好いし、だれに気兼ねも要らないアラインゲーエン(近辺はイタリア語でソロという)。「やっぱり山へきて良かったなあ」と、小さな幸せのようなものを感じながら歩いていると、「アレッ……アレッ……どうなったんや」と、自分でも信じられないくらい足が重くなった。

急な登り坂でもなし、暑いというほどの季節でもないのに、汗が流れる。「まだまだ登らんならんのに、こんな調子ではどないなるんやろ」と、気が気ではない。

痛をくいしばって、しゃにむに足を前に出す。こんなシンドイ思いをしたことは前にもあった。が、しかしその時は「前の晩に夜ふかしが過ぎて、酒臭に寝ていない」とか、「満員電車で2時間近く立ちんぼで、おまけにバスをはずしたので、カンカン照りの車道を登山口まで1時間余り歩いた」とか、原因はわかっていた。それにきょうのように、バカッと急にシンドくなったのではなく、初めから調子が悪かった。

そんなことを思いだしながらがんばること1時間余り。だんだん調子が戻り、さらに20～30分もすると、ホイホイと足が上がるようになった。

皆さんのなかに、このような経験をされた人はないだろうか。御自身でなくとも、小人数の仲良しグループで、いつも元気なはずの人が、ボテボテにバテた、ということはなかっただろうか。

結論から申しあげると、それは「ダリ」がとりついたのです。その正体は、地方によっていろいろに言われるが、おおかたは山中で行き倒れになった人の悪霊が、食べ物欲しさや人恋しさに、たまたま通りかかった人にとりつくのだという。

土地の人からそんなことを教えられても、祖仏に縁の薄い私は、信じられなかった。二度目も信じなかった。三度目には「ヒョッとしたらホンマかいなあ」と思うようになった。

この三十年ほどの間に、ちょっと思いだしてみても三回や四回はあった。鈴鹿の藤原岳の時は、途中でやめて山をおりた。が、駅へ着くころにはケロッと治っていた。

そんな馬鹿なことがあるものかと言う人もあるだろうが、もしそんな目に遭ったとして、どうしたらよいのか教えましょう。

各地で言われているのには、「米の飯がいいのだが、口のなかにひと口いれて、ちょっと噛んで吐き出し、ふた口目は自分が食べる」といいそうだ。何も含べるものがない時は、掌に米という字を書いて、それを口に入れるしぐさをするとよいそうだ。水があればひと口飲むか、なければ飲むしぐさをするのだそうだ。

私の場合は、何もしなかったが治った。「それは、とりついたダリが、自分の親戚りから遠いところへ連れて行かれるのを嫌がって、あなたから離れたのでしょう」と教えてもらった。「だけんど、あんまり無理すると、あぶない目に遭うよ」ですって。

近畿地方には、ダリの伝承が多い。熊野から吉野方面には特に多いようだ。十津川郷や北山川筋で山林の仕事をしている人たちが、昼食のとき木の幹に飯をひと口のせ、切り株や石の上に置いて、手を合わせてからでなければ、全員食事をしないのを何回も見た。

門前の桜の古木で有名な奈良県磯城郡町の仏隆寺から、室生寺へ通じる山越えの道は、室生寺の北巻道といわれ、今では人気のあるハイキングコースだが、仏隆寺の杖から少し登ったところの道の右下に、「三界万霊」の大きな供養碑が建っているのを御存知だろうか。文久三年(1863)の銘が入っている。あと数年で明治になる江戸時代末期だが、古老の話ではその頃、ダリにとりつかれて難儀する人が多かったので、あれを建てたのだという。

近年、一般の人たちにも知られるようになった、紀州の民俗・博物学者の南方熊楠が、熊野の霊取街道を歩いていてダリにとりつかれ、「仰向けにブッ倒れたが、幸いにも背中に負うていた植物採集の胴乱が枕になったので、岩で頭を砕くのを免れた」と書いている。

タイトルの「ヒダルガミ」、文中では「ダリ」と書いてきたが、東北地方では「ガキツキ」、中部・近畿では「ヒダル・ダル・ダリ」、四国では「ガキ」、九州では「グラシ」など、そのほかにもいろいろに言われている。最近では、ラジオ・テレビ・出版など、マスコミにも取り上げられ、「ヒダルガミ」で全国的に通用するようになってきた。

大事なことを書き忘れていました。「ダリ」にとりつかれないようにするには、空き腹で山を歩かないことです。食べ物を持たずに山を歩いてはなりません。

とにかく、この話ホンマでっせ。

克

随想 (山のエッセイ)

克

鞍馬寺経塚巡り

前中 毅

鞍馬寺は、その寺伝によれば鑑真和上の高弟・鑑禎により、宝亀元年（770）に創建されたとのことだ。初期のころは天台宗の密教寺院として隆盛し、天台宗延暦寺の開祖・伝教大師最澄も比叡山から足を運んでいる。また、源平合戦の英雄として高名な源義経が幼少期に鞍馬寺に預けられていた史実もあり、鞍馬天狗などのフィクションも交えて、この寺が歴史に登場してからの話題は豊富である。

さて、経塚だが、平安期に創建された山岳寺院には、周囲の峰々に経巻を埋納する習わしがあった。京都北山では、鬼花背の名刹・大悲山峰定寺の北方にそびえる桑谷山（924・9㍍）は経塚山との別称をもつ。峰定寺建立の際に経塚が設けられたことによるものだが、今ではその経塚の存在は確認できない。

鞍馬寺には七基あったと聞く経塚だが、今でも六基が残っている。大昔から風雪に耐えて経筒や仏像などを守り伝えてきた経塚は塚の石積みが何度も組み直され、石柱は刻字が摩滅してしまう数百年単位で造り変えられてきたことであろう。貴重な文化遺産だと評価されるべきである。

そんな魅力に惹かれて、4月のある日に「鞍馬寺経塚巡り」を計画したのだが、単に経塚の所在地だけを訪ねるのではなく、陽春の一日をたっぷりと山歩きで楽しみたく、旧花背峠からスタートした。

峠から林道を南進する。約25分で、右手の山道（鞍馬尾根縦走路）に取りつく。笹をかき分けながらのアップダウンを繰り返し、ピーク674㍍付近で眺望を楽しみ、ピーク634㍍を経て経塚① 上山内経塚に着いた。3万3千（「大原」）の地形図に鞍馬山と山名が記入されているピークに接ていて、1・5㍍ほどの高さに石積みされた塚の上には石柱が立ち、貞享二年（1685）・執行法印雄珍記立と刻字があった。勉行なるポストは、当時の鞍馬寺の最高権力者だった。

龍神池から義経背比べ石、さらに境内の参道を突っきり大杉権現へと南行する。社の前から鞍馬尾尾根（仮称）に踏み入ること約5分の所に、経塚② （貞享元年）がこんもりと盛り上がっていた。静寂のなかに野鳥の鳴唱が心地よい台地で、参道での観光客の喧騒がうそのようだ。

急坂を10分ほど南下すると分岐で、直進する尾根道は25分も歩けば叡山電鉄八瀬比叡山口駅へおりたつが、私は東へ明瞭におりていく

克

随想（山のエッセイ）

十三橋への道をとる。十三橋から鞍馬街道をくだり、左手の水汲み場手前から小道に取りつき、竜王岳（500㍍）をめざす。

地形図のコンターラインのつまりぐあいからも予測されるように、このルートはかなりの急勾配だ。しかもそれが㉝ 竜王岳経塚までゆるまないので、ワンピッチでがんばったら大汗をかいた。

そんな私を竜王岳の西のピークで迎えてくれた㉝には、施主松本某とあった。枠子抜けするほど楽になった道を8分歩いて山頂に到着すると経塚④が待っていた。元禄十四年（1701）と読みとれる石柱の形状が他の五基とは異なるが、梵字や漢字の字体は同じだ。山頂に君臨する風格のある姿は、強く印象に残った。

竜王岳から義王坂へおりた。余談になるが、鞍馬と静原・大原をつなぐこの古い峠の名の由来は、前出の最澄があるとき里人たちに見惚られ、鞍馬山から比叡山へ帰る時にこの峠にさしかかると、義王菩薩が現れたことに因む、との伝説がある。

峠からは天ヶ岳へのハイキングコースでもある尾根道を登る。すぐに経塚⑤ 白土峯経塚があり、さらに15分ほども北上すると、薄暗い小丘に石柱が佇んでいた。経塚⑥ 平迫峯経塚は石積みの塚がなく、石柱だけが台石の上に立っていた。なお、七基目の経塚はこの尾根のどこかに存在したようだ。

これで経塚巡りは終わった。下山は三角点のある戸谷峰（525・2㍍）まで登り、その北にある道標に従って静原へ向かった。10分で谷（水谷）へ。さらに10分で林道が始まる。林道を15分ほどくだると東海自然歩道に出合うが、そこから静原下ノ町のバス停はすぐだった。

最後になったが、鞍馬寺発行のパンフレットに、「国宝・鞍馬寺経塚遺物（200余点・国立博物館寄託）」とあるように、遥去の歴史や文化を現代に伝えた鞍馬寺経塚群は、まさに宝の山といえる。また、鞍馬山と竜王岳は、古来より雨乞いの山としても崇められてきた。

石を返しに行った
悪沢岳・赤石岳・聖岳

松田敏男

南アルプス

南アルプスは何度もくり返し通っている山域だが、まだ歩いていない所が残っていた。それは中盛丸山から聖岳。

1978年の夏に、椹島から赤石岳へ東尾根を登り、百間洞で連泊して、大沢岳と中盛丸山を周遊したあと、荒川岳・悪沢岳と回って、転付峠を越えた長い山旅がある。その二年後には、西沢渡から聖岳を往復している。そのあとにも三伏峠から悪沢岳を往復したり、また聖岳から南のほうへも行ったのだが、二つの場所を再訪しないまま17年が過ぎていた。二つの場所というのは、千枚岳と百間平である。これらの場所から眺めた赤石岳の印象が強烈で、そっとしておきたい気持ちがはたらいたのだと思う。

千枚岳に暗いうちに登り、明けゆく赤石岳をじっと眺め待った時の深い感動、百間平へも朝早く登って、きえざえとした赤石岳の暗い大山塊を目の前にして、時がとまったかのような、大地に身を同化させた感慨が、同じ場所に行くことにより散亡していくことを恐れていたのかもしれない。私の南アルプスの原風景なのだ。その原風景との再訪も、17年という歳月により、混濁することなく新たな出会いになると思い、まだ歩いていない稜線を歩きたいという意欲のなかに、組み込むことにした。

もう一つの目的は、悪沢岳に石を返しに行くことであった。1986年の夏に、三伏峠小屋・高山裏小屋と泊まり、軽装備で悪沢岳を往復した。こんな計画を立てる人はまれだろう。悪沢岳への極地法登山と称して、ひとり悦に入って楽しんでいた。

軽装備といっても、絵の道具があるのでそれほど軽くもないのだが、高山裏小屋から一回の休憩だけで、2時間10分で悪沢岳の頂上に立てた喜びも忘れられない。しかし、早く頂上に着きはしたものの、すでに日は高く昇ってしまっていて、赤石岳は平凡な姿になり始めていたし、荒川岳からずっと眺めていたから、感動もあまりなかった。

千枚岳より早朝の赤石岳

その悪沢岳の山頂付近で、特徴ある赤茶けた岩石の重なりの中から、小さなものをひとつ記念に持って帰ることにした。山の版画の画屋会場の芳名帳用文鎮として、最適ではないかと思ったのである。赤石岳こそ、その名の示す通り赤茶色の石が多いのだが、赤石岳には丸みのあるものが多く、一方悪沢岳のは鋭角的で、深みのある色が重厚だ。大切な宝物をザックに入れたあと、三伏峠に戻り、塩見小屋まで行って、塩見岳を往復して帰った。

今その石は、私の作業場の片隅に置いてあるのだが、その魅力的だった重厚なる赤茶色が、いつしか色あせてきたように思えてならなかった。石の表情が寂しそうだった。山に憑りたそうだった。返しに行こうと思い始めてから二年程が過ぎていた。

この二つの目的を基本にしてコースを考えてみた。わずか250㌘の石だが、最初に悪沢岳に登るほうがいいだろう。そして椹島から千枚岳へのコースは歩いていないからと、入山ルートはすぐ決まった。下山ルートは一度聖平から西沢渡だが、聖岳まで行ってから決めようと、今回は山小屋素泊まり山行にした。

椹島までは、例年なら東海フォレストのリムジンバスが畑薙第一ダムから出ている。しかし、そのずっと手前でがけ崩れがあり、道はすっ断されていて、静岡鉄道バスは八木尾又までしか入っていない。これは復旧に二年はかかるだろうということだった。八木尾又でバスを降り、少し車道を歩いたのち、大井川ヘジグザグにくだる。河原に井川山岳会のテントが張ってあり、入山届けを出した。吊り橋で対岸に渡り、また渡り返す。そして車道への急登。荷物が重いから1時間近くかかった。車道に出てしばらく歩けば、リムジンバスの乗り場だ。歩いてきた人たちが全員そろったところでリムジンバスは発車した。椹島ロッジに食事付きで宿泊するのなら、このバスは無料である。椹島ロッジは風呂に入れるが、宿泊料は8240円と、南アルプスにあっては格の値段である。5時間の車道歩きを考えれば、お世話になるしかない。

椹島ロッジで、まだ登っていない笊ヶ岳へのルートを尋ねる。エアリアマップには笊ヶ岳の西側に山小屋建設予定と記されているので、ルートが開設されているものと思われたが、山ヌケがひどく、登山道は荒れたままで通れる状態ではなく、山小屋建設の計画もなくなったということだった。この夏に椹島から笊ヶ岳を往復した人は、たった一人であるということもつけ足された。

次の日、初めてのルートを登る。駒鳥池はどんな所だろうか。赤石岳の眺めが良いという地点では、美しく赤石岳が眺められるだろうか、と期待に心は弾んだ。

登山道の尾根を林道が横切ったり、近づいたり、初めのうちは荒れた印象の尾根だったが、奥西河内の深い谷の奥に悪沢岳が姿を現わすと、感動が一気に身体の芯から湧きあがってきたのだった。

悪沢岳は南アルプス南部の中で最も標高が高いのだが、赤石山脈という言葉がある通り、赤石岳が山脈の中心的存在であるし、山塊の圧倒的な存在感や、登山道のつけ方などからみても、赤石岳に比べて悪沢岳は、標高ほどに大きな位置づけがなされていない。また主稜線上からも少しはずれ、荒川三山の一つという、まことに気の毒な扱いを受けている。だから私は三伏峠から悪沢岳をめざして極地法登山を試みたのである。また眺めも、北に派生している西小石岳へ

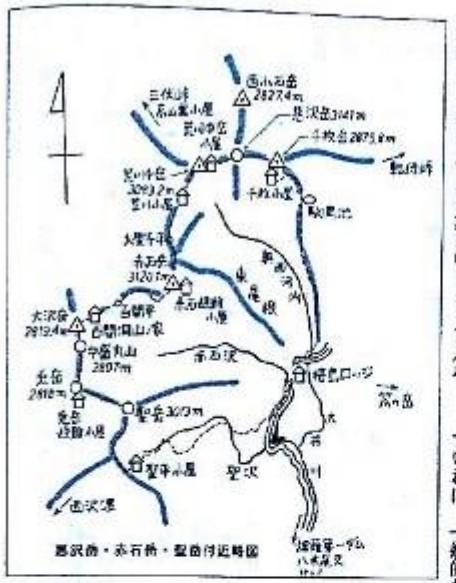
の尾根の、のびやかな美しさを配した姿などは絶景である。その悪沢岳がひとり谷の奥に朝日を受けてそびえている。おごらず泰然として、大人的風格を漂わせていた。

赤石岳を眺望できる地点に着いたころには、日が高く平板な印象になってしまっていたのだが、木々の間から眺める横長の大きな山体は、南アルプスの代表格だなあと、またあらたに思われてきてうれしくなった。

鞍鳥池は大きな枯れ木が池の中に倒れていて、その上を歩いて池の中ほどまで入れた。苔の緑色がたいへん美しく、しっとりとした静けさに包まれたいい所だった。

新しい千枚小屋は大きくて立派なものだったが、シュラフを持っていても寝具付きの素泊まりにしなければならず、4000円を支払った。

次の日は、17年前の時ほどには早く発たなかったが、真っ暗な中をダケカンバ林のジグザグ道を登り始めた。たいていの人はヘッドランプを灯して歩いているが、晴れていれば、一般的な土の道なら明かりなしで十分歩ける。むしろランプなどないほうが、五感が研ぎすまされて、大地を歩いているという喜びに浸れるというものだ。しかしその一方、ランプを灯している人がいると、登山道の位置がよくわかって便利だ。前回、版画にしたダケカンバの木があった。そのダケカンバの枝ぶりを縦横に見立てたなかに、黒い赤石岳があった。ジンジンジンジンと力が湧き上がってくる。



17年前と同じ千枚岳の頂上で赤石岳を描いた。今日は赤石岳にレンズ雲がかかっていた。それが赤く染まって朝になった。前回のような冷え込みも鳥のさえずりもなかった。赤石岳は少し不機嫌のようだったが、印象が全く違っていて、これもまた良かった。

悪沢岳に着いた時には完全な霧の中だった。ゆるやかな南斜面を少しくだって、九年間私の家にいた石を返す場所を探した。病んでいるような石が不自然に見られないように置くのに、少し手間取った。その場所からすぐには立ち去りがたくて、霧の赤石岳方面をぼうっと見ていた。まわりはイワギキョウなどがそこここに咲いている美しい所だった。

荒川中岳小屋に着く前から雨が降りだし、小屋の中で食事をさせてもらう。展望の良い所に建っているが、水が無いことがちょっとつらく、泊まらないことにした。真夏の南アルプスはいくらでも水が飲めるという安心感のある所で泊まりたいものである。

荒川岳の南の斜面のお花畑はいまひとつで、たくさんは咲いていなかったが、雨がやんだので、ゆっくり花の写真を撮りながら荒川小屋に着いた。昔ながらのこの小屋もこの夏かぎりで新築されるということだった。

赤石岳が徐々に見えてきたので、お花畑のほうに戻って絵を描いた。赤石岳の北の尾根が荒川岳との間の谷底へすっと延び、落ちていく形が、いかにもおおらかで爽快だ。

次の日はよく晴れた。前日と同じように荒川岳の山頂付近にまとわりついていた雲が赤く染まっていたので天候は下り坂かと思ったが、空はどんどん青みを増していった。大聖寺平からの登りでは、チングルマの実があちこちにヒョヒョと長毛をなびかせて、朝の露をキラキラさせていた。

赤石岳より悪沢・白峰・仙丈ヶ岳などの大観

赤石岳の三角点から少し東にはずれた、信仰のための石柱の林立した中で、悪沢岳や北部の山並みの大観、そして聖岳の姿を描写した。長時間描くことに集中していると、いつの間にか身体から水分が抜けて干上がってしまうのではないかと心配になる。

そこに荷物を置いて頂上の避難小屋を見物に行く。小屋の横の岩の上に親の雷鳥がいて、子がすぐ下のハイマツの中をヨチヨチ歩いていた。あっ、待ってて、と言って急いでカメラを取りに分岐に戻った。待っていてくれた。まず道から写して、ゆっくり岩の上に近づいてもう一枚写した。グワッグワッと声をまねたけれども、どんなふうに聞こえたのかなあ。

百間平には昼を過ぎに着く予定だったので、何の期待もしていなかった。予想に違わず、赤石岳は昼寝前の生あくびをしていたし、遠くに見える塩見岳などはかすんでいた。しかしそれでよかった。どんよりとした暑い昼下がりの百間平。ハイマツの香をいっぱい吸い込みながら、赤石岳に向かってキジ撃ちをした。

百間洞山ノ家もたいそう立派な造りだった。ここは寝具なし素泊り3000円だ。連日すさまじいいびきの人に目覚ませされ続けてきた。この小屋の造りは半個室が並んでいる形式なので、今夜は最も気がかりだった。不安は完璧に的中してしまった。どの山小屋でも夜は長かった。テントがいいなあと何度も思った。

次の日もよく晴れた。中盛丸山の頂上では、ここからが初めてのコースだと思うとうれしかった。しかし毎夜の睡眠不足と、きのうからきょうにかけての壁大の森林限界上の稜線歩きで、体調に不安があった。兎岳では絵を描いたり、避難小屋を見に行くだけの余裕があったのだが、くだり始めてにわかに体が危ないと感じるようになった。低木のわずかな陰に身をすり寄せて、お茶を飲み、アメを口にふくみ、小刻みに休んだ。最低鞍部付近は少し木も大きくなって、ゆっくり休む広さがあった。ホッとする余裕もなく、真剣に体の回復を願った。聖岳への長い登りに備えて、いっぱいお茶をつくった。最後の果物を食べ、甘味をとり、熱いお茶もしっかり飲んで、危険な状態が去ってゆくのを待った。

歩幅をせまく、荷物で体がゆれないように、低速に聖岳を登り始めた。三度目の聖岳も北側からは初めてで、この山旅もこれが最後の登りだと思うと、徐々に力も出て持続し始めた。心配も遠のいて頂上に着けた。残りの力にまた赤石岳を強く渇望が残っていた。この山頂からはっきりと赤石岳を眺めるのは初めてだ。

あとは四年前にも歩いた道をおりるのみ。樹林帯に入って最後のお茶を飲むと、さすがにホッとした。

聖岳小屋に到着。ここにも新しい山小屋が建っていたが、昔ながらの小屋のほうがいいのでそちらで泊まることにする。これまで二回とも雨に降りこめられ三連泊をした小屋だ。この山小屋は食事をつくらないということで不評のようだが、私はそれもいいと思う。山小屋はすべてがそろっているのが当然だと思っている登山者の中には、横柄な態度の人もいるからだ。井川山岳会が管理している山小屋で、素泊まり2300円とずいぶん安かった。

次の日は椹島にくだることに決めた。これまでにすれ違ってきた人たちから、信州側の山小屋とのトラブルの話を聞いていたので、同じ所に戻るのもあまり気がすすまなかったが、そのほうがスムーズに下山できるように思われた。

椹島ロッジに着いて、『静岡市の三百点100』という本を買った。もう次の夏山はどこがいいかと、私の手は忙しなく頁をめくっていた。

山小屋のリムジンバスを降りて、また大井川を渡って登り返す。八木崎又のバス停までハイペースで歩いた。全員がそろうまでの間に着替えてゆっくりしようと思っていたのである。しかし時刻表を見て、信じられないような現実を知った。静岡鉄道バスが発車するのに、4時間ほど先だった。しばらくぼう然として座っていたが、井川まで歩くことにした。平坦な車道、車が追い越していく道のりは長かった。

井川のえほん村という建物で着替えをして、久しぶりに街の食事をした。たのしいみやげも買えて、延々と歩いたことが報われた思いがした。

（平成7年8月16日～22日歩く）

△コースタイム▽

椹島（7時間30分）千枚小屋（8時間）荒川小屋（5時間）百間洞山の家（7時間30分）聖平小屋（5時間30分）椹島

△地形図▽昭文社＝「口坂見・赤石・聖岳」

前回（38号）の「白山釈迦岳」の文章を読まれた方々から、「ミヤマコゴミ」についての問いかけがたくさんありましたので、説明をさせていただきます。ミヤマコゴミは山菜ではなく、山に散乱している小さなごみのことです。以下のカタカナ語は、説明する必要はないかと思います。

教訓的、あるいは怒りをあらわにする表現を避けたかったことと、自然発生的な山登りのスタイルと受け取っていただきたかったのが、こんな表現で楽しんでみた動機です。（松田）

山の本の紹介　八倉　厚著

『定年後は山歩きを愉しみなさい』

定年後の人生をどうやって過ごすかは、人それぞれです。私は「山歩き」をおすすめします。

写真を撮る。スケッチをする。俳句や短歌を詠む。温泉に入る。花や野鳥を観察する。「山歩き」のこんな愉しさがいっぱいの本です。初心者向け。

●明日香出版社　定価1300円

お花畑の北岳

横川好行

南アルプス

平成6年8月、わが家のアイドル、あーちゃんこと妻美智代が倒れた。病名は「インスリン依存型糖尿病」。先生にきく。美智代が何をしたんですか？　なぜそんな病名がつくんですか？　美智代の場合、過労に加えて風邪のウィルスが膵臓の一部であるランゲルハンス島を痛めインスリンをつくる機能が働かなくなり、投与によってインスリンを補給しなければならなくなった。そして現代医学ではこれに効く内服薬はないという。

二か月の入院生活で彼女はすっかり変わり、人生の目的を「病に勝つこと」に切りかえた。退院後はインスリン投与、一日二回［朝ペンフィル20R　7単位、夕方ペンフィル50R　3単位］。食事は1440キロカロリー、適度な運動を忠実に実践すること、と主治医の指導を受け、毎日一万歩の責任歩行の挑戦が始まった。

日毎に歩くことに自信をつけた彼女に突然大きな目標ができた。それは平成7年4月、友人茂の次女の結婚式のときのことである。披露宴はさながら親父の同窓会の席かと見紛うばかりのにぎやかさ。そんな中で北岳山行の話が出て、日時は8月15日前後で広河原から肩の小屋泊まりの一泊二日とし……と、どんどん決まっていく。しかし、そのときはまだ他人ごとのように聞いていた。

家に帰って美智代に話すと、みんなと一緒に行こうと言う。君は元気だな北岳だよ！　No2だよ！　わかっているの？　自分はといえば山行から遠ざかって35年、またまた趣味の岩魚釣りがこうじて軽度の沢登りはやっていたが、それも15年も前のこと。とても自信がない。

「大丈夫よ、石川さんはボリタンかついで団地の階段で訓練するんでしょ」。

「何とかなるわよ！　みんなは一泊だけど、うちは二泊の予定をすればいいのよ！

北岳山荘を出発（後方は中白峰・間ノ岳）

先に行って待っていましょうよ」

三日後、訓練山行をかねて北岳を見に夜叉神峠へ下見に行こうよと言う。

雨模様の最大のなか、覚悟を決め夜叉神の森から1時間の登りに挑戦する。恒重に恒重に、この1時間15分の登りが二人の目標を決定づけてくれた。峠小屋にようやく着いた二人を南アルプスは遮ることなかった。曇り空のなかほんの一瞬、残雪の白峰三山が姿を現わした。

北岳・間ノ岳・農鳥岳、すばらしい光景だ。美智代が大喜びしている。山ってこうなんだよね！　忘れていたよ！　雪の北岳は私たちに遠い記憶をよみがえらせてくれた。

北岳をめざす訓練を始めた。訓練の第一は二人の体力・気力・装備等をしっかり合わせること。それと照準を北岳に合わせ、今の山の状況を知ること、相手は何しろ3000㍍の大物だ。美智代の血糖値の変化による体力の維持、必要カロリー量の補給、インスリン投与の時間の取り方、持ち物配分、二人の歩行ペース、特に雨具や登山靴などはきっちりと自分のものとして使いこなせること。

第二、平成7年現在の登山、山小屋の状況を知るべく、日常的に地図や山の雑誌に目を通す。山道具店にも足しげく通うこと。

第三、北岳を二泊で完登予定なら、標高差700㍍を3時間で登れること。また下山は1500㍍の急降下を5時間で難事くだれるように……と、これらの条件に合う山を選び、二人で楽しみながら体力をつけていくこと。

夜叉神峠の次の訓練山行は突然訪れた。カタクリの群生を見に御前山に行こうと美智代が言う。わが家から車利用で接近くまで登れ、尾根通しで3時間の往復。標高1405㍍は土曜日の「昼下がりの休日（情事）」。美智代はオードリー・ヘップバーンの気分ではしゃいでいる。

このあと訓練と血糖が本格的に始まった。奥多摩の「昔道を歩く会」に参加、まずはのんびりと山道を歩く。等高線がしっかりつまっている雁坂山（1473㍍）へ4時間の急登訓練、楽しみはシロヤシオのお花見。

尾根歩きを楽しみに御岳山・大岳山・鋸山・御前山から奥多摩湖への縦走訓練をした。

また装備点検を兼ね、小屋泊まりの一泊山行を計画。持ち物チェック・体力チェックを重点に、土曜日の午後からシャクナゲの三条の湯へ向かう。翌日は飛龍山から雲取山へ足を延ばした。

その後も、尾瀬・三頭山・三ツ峠へと、二か月間は北岳にしっかりと目を据え、山歩きを続ける。雑誌と地図を枕元に置き、毎晩目を通し、北岳の急登を頭に描く。

登山にもくわしい主治医の宮川先生は、急登の前に一単位（小さいおにぎり一個の量）補給すればいいですよ。山へ登ることは楽しいことです。自信をもってがんばってください、横川さん……と、先生に会うたびに元気づけられた。

そんなある日、仲間から「ヨコ、悪いけど北岳中止にしてくれ。お寺さんの戒後50周年の式典が8月15日に決まり、前日備をいれると時間がとれなくなった、悪いなあ」と連絡が入った。美智代はだれも行かなくても二人で行こうと言う。

よーし　そうしよう！　ここまで準備してきたんだ。日程は予定より一か月早め、7月16日から18日に決定した。

7月に入っても梅雨明けがはっきりしない。日は迫ってくる。美智代は毎日、テレビの天気予報を気にしている。山行日の気象状況は梅雨前線が関東南部まで下がり活

動もかなり活発、東日本は天気が変わりやすい状況……どうもかんばしくない。16日、17日は雨だろう。しかし、18日の晴天を期待して予定通り決行する。

平成7年7月16日(日)、6時45分北岳に向け車を走らせる。雨あがりの南アルプス林道は木々の緑が目を和ませてくれる。家から3時間で北岳の裏下、広河原へ到着。晴れていれば北岳を仰ぎ見られるのに小雨が降っている。

朝食後、装備最終点検。美智代！　忘れ物ないか、薬は？　注射器は？　かっこよく言っているが、自分のほうがもっと危ない。互いにチェックし合う。出発準備完了、体力・気力・装備、全て万全だ。さあ行こうか！　小雨の中、傘をさして野呂川の吊り橋を渡る。広河原山荘で登山者名簿に記入。住所・氏名・年齢、コースは、広河原－白根御池小屋泊－北岳－北岳山荘泊－八本歯コル－広河原。

いよいよ登行開始。いきなり急登が始まる。今日までの訓練が生かされるのかと思うと、二人にしか解らないうれしさがこみ上げてくる。「何を喜んでいるの、これからよ」と美智代。ワンピッチで白根御池分岐。ここからは大樺沢と別れ、樹林帯の本格的な急登が始まる。展望のない樹林の中をジグザグにぐんぐん高度をかせぐ。途中の小さなテラスでは、たびたび休憩。コーヒーを沸かし、美智代は助力源のビスケット一枚を口にする。雨は小降りになっているが、下山の人たちはぬかるんだ道をころげるようにくだっている。

登り始めて1時間30分、なかなかのペースで来ている。予定通りなら、この急登をあと1時間10分登り、その後は15分もトラバレば御池小屋、そこで今日の予定は完了する。美智代は元気そうだ。ほっとする。

13時50分、白根御池小屋着。計画通り7000㍍を3時間で登れた。木の香も新しいペンション並みのウッディな村営小屋に驚かされる。濡れた衣類やザックを整理し、小屋のまわりを散策する。雲の切れ目から鳳凰三山が望める。紅葉の時期には、ぜひとも挑戦したいと思う。夜半から激しい雨音に変わる。今日まで費やした労力を思うと、悪天候が恨しくなる。

7月17日、6時30分出発。小屋のおじさんに美智代が礼を言うと、「ゆっくり行けよ、雨はやまないが、4時間もかければ肩につけるよ」と、やさしく声をかけてくれる。

二日目の急登は、わずかな水をたたえた白根お池に別れを告げるとすぐに始まった。潅木帯を抜け、そこからは展望の利く快適なコースのはずなのに、雨で何も見えない。高度を増すにつれ花が現れる。突然、シナノキンバイの群生が。雨の中、黄色がきれいだ。「よりみち登山」よろしく、二人してはしゃぎながら写真を撮る。

時間は十分あるのに、もっともっとゆっくり歩くつもりなのに雨がせかせる。大樺沢右俣分岐、ここまで2時間の急登を無事にこなす。晴れていれば目の前には北岳が……。くやしい―　残念。

雨なのに美智代は何を見ても何をやっても楽しんでくれる。こんなに喜ぶのなら、来年は本気で北アルプス雲の平を計画しよう。

分岐からわずかで最初の目的地「草すべりのお花畑」に到着。黄色の花がいっぱいの中に、イワカガミが小さいピンクの頭をチョコンと遠慮がちに覗かせている。ときたまグロユリも顔をみせる。

8時40分、小太郎山分岐。稜線に出ると強い雨と強風。身長148㎝の小柄な美智代は飛ばされそうで立っていられない。小太郎尾根を往復し南アルプスのまん中に立とうと計画していたが、中止せざるを得ない。この雨と風ではともかく肩の小屋へ飛び込むことが肝要だ。

明日をさぞ剣をすぎめ、腰をこごめ9時30分、ようやく肩の小屋へ到着。3時間で7000㍍を予定通り完登。小屋の前の3000㍍の標識を見て、思わず「アルプス一万尺小槍の上で……」、むかしの歌が口をついて出た。

びしょ濡れで飛び込んだ二人をこころよく迎えてくれたご主人の厚意に甘えて、濡れた衣類を干し、ストーブで身体を暖めながら温かいお茶をいただく。そのあとご主人の森本さんが雨の中わざわざモタダケソウの自生地へ案内してくださり恐縮する。穏やかな森本さんと談笑し、美智代特製のパンをおいしいと言ってもらい、美智代は心から楽しんでいるようだ。

友人たちの計画ではここで一泊し、翌日登頂を予定していたが、美智代は雑誌で調べ、女の子があこがれる北岳山荘泊を希望していた。ところが小林稔侍さんそっくりの雰囲気をもつ森本さんに会い、ここのほうが良かったと思ったようだ。

10時35分、いよいよ本峰への登りにかかる。小雨、ひどいガス、何も見えない。目の前の岩を踏みしめながらただ登るだけ。がんばれ美智代！　大丈夫か、もう少しだ。

11時10分、3193㍍の北岳山頂に立った。やった！　雨でも、何も見えなくても、感動を分かちあえる二人のうれしい一瞬だ。これまでの二人の努力、綿密な準備と計画、健脚智恵と体力、これらにより、50歳をこえた二人を山はよろこんで迎えてくれた。美智代！　よくがんばった。よくやった。涙がでた。うれしかった。ほんとうにうれしかった。よかったね美智代！　ここまで予定通り来られて。ひとつだけ謝るよ、雨が降るのがわかっていたこと、ごめんね。

小休止のあと、くだりにかかる。雨はやんだがガスは切れない。お花畑の中を快調に歩く。非凡眺望を見つける。なるほどその名の通り強そうな「からだつき」だ。コースのなか、所々に北岳に近った人たちのレリーフがあり、その度に二人して頭を下げる。急ぐわけでもないのに足が速まる。相変わらず展望はない。足元に神経を集中しながら、ただただくだる。ガスの中からいきなり赤い屋根が現れた。北岳山荘だ。受け付けを済ませ夕食までの間、散歩したり、百名山のビデオを見たりして、ゆっくりと過ごす。

7月18日、最終の三日目。日が覚めると雲海から富士山が頭を出していた。風は強いが晴天だ。御来光を見に2902㍍のピークまで登る。

南アルプス最奥の山々はまだ眠っている。間ノ岳・農鳥岳が朝日に赤く染まり始め、歓声では尽くしがたい「南アルプスの美」が目の前に現れる。ピンクから淡いブルーに微妙に変化していく自然の不思議。ただうっとりと眺める。この豪華な一日の幕開きを見たくて、ここまで来たのだ。大自然の特等席で二人っきりで3000㍍の朝を楽しんだ。

6時朝食。6時30分、北岳山荘発。八本歯のコルへ向け、トラバースルートへ入る。仙丈ヶ岳が堂々とした姿を現す。雨で姿を見せてくれなかった北岳も、さすがに三日目のきょうは歓迎してくれている。夏空はあくまでも澄み、山肌はコントラストのはっきりした夏の色だ。赤ペンキの道標に従い、お花と夏空の南アルプスを満喫しながらゆっくりと歩く。北岳バットレスはこのあたりの左上だがガスで見えない。出発をもう1時間早めれば見えたかも知れない。山は早立ちが原則。いまさら後悔しても遅い。

ここまでは山腹をトラバースぎみに巻いていたが、いよいよ急降下が始まった。3000㍍から木のはしごを伝い、ぐんぐん高度をさげる。八本歯のコルをクリア。木の幹につかまりながらの急降下。楽しかった北岳の終わりは近い。大樺沢分岐着。

ここからは思深をくだる。「終わりが早すぎる、もっともっとゆっくり歩こう」。気持ちとうらはらに、足は自然に速くなる。それほどの急勾配だ。広河原を発立ちの人たちが山頂めざして登ってくる。

最後のくだりのガレ場に出る。ケガをしないように慎重に下山したい。美智代に声をかける、ここまでやれたんだ、来年は好きな山に連れてってあげるよ！　広河原山荘着。どこから下山したのか大勢の人が休憩している。

考えてみると一般のコースとは逆に歩いたのは我々二人だけだったのかも知れない。両アの良さを残す潅木帯を選び、明るい雪渓の大樺沢を下山路にしたことは、悪くはなかった。むしろ大成功だ。二日前に書いた登山者名簿に再び記入する。「7月18日無事下山、昭島市　橋川美智代・妙行」。

美智代との「北岳」が終わった。

北岳の後、翌週は槍形山のアヤメ目標、次は八ヶ岳の主峰赤岳の日帰り山行と、平成7年の夏を二人して思いきり楽しんだ。

そして美智代が再び倒れた。

9月19日再入院。高熱が一週間も続いた。原因はわからず、大勢の先生方の努力により、体力を維持しながらなんとかのりきれた。もう無理はできない。昨年とは違い、かなり疲ってしまった美智代だが、紅葉の鳳凰三山、夏色いっぱいの北アの雲の平へ行くという希望がある。がんばれ美智代。必ずいっしょに行こう。約束だよ。

（平成7年7月16日～18日歩く）

◇コースタイム◇

（1日目）広河原山荘前（20分）白根御池分岐（2時間25分）白根御池小屋（池）

（2日目）白根御池小屋（1時間50分）大樺沢分岐（20分）小太郎山分岐（50分）肩の小屋（35分）北岳山頂（20分）池山吊尾根分岐（45分）北岳山荘

（3日目）北岳山荘（1時間）八本歯のコル（30分）大樺沢分岐（3時間30分）広河原山荘

◇地形図◇昭文社＝「10甲斐駒・北岳」

文学散策と展望の山歩き

編笠山と西岳

松浦隆康

八ヶ岳

95年の夏は、家族で八ヶ岳連峰南麓の富士見高原に遊んだ。

初日は文学散策に興じた。風光明媚な富士見高原は、明治以来歌人の中心地であり、多くの歌人がこの地を訪ねている。富士見ヶ丘にある富士見公園（富士見駅から南に徒歩20分）は、伊藤左千夫の設計により、明治44年に完成した文学公園である。園内には、伊藤左千夫・島木赤彦・斎藤茂吉・森川江川の歌碑が建っている。

富士見町役場の近くには、久米正雄原作の映画「月よりの使者」によって、全国的に有名になった富士見高原療養所（富士見駅から北に徒歩10分）がある。竹久夢二の闘病生活や堀辰雄の小説『風立ちぬ』の舞台としても知られ、今なお一部の病棟は当時の面影を残している。

夕方には、宿の近くにある鳳凰屋展望台まで散歩した。目の前には雄大な南アルプスの高峰群が広がり、北方の編笠山・西岳はともに流麗な山容で行儀よく並んでいた。

夕暮れの太陽が山肌を朱に染めた。私たちは神々しい夕景に見入った。突然、次男が登頂意欲をかきたてられたのか「明日は編笠山と西岳にハイキングしよう」と言いだし、家族全員が賛成した。

次の日の早朝、標高1570㍍の観音平まで宿の車で送ってもらった。朝の光がすがすがしく、南アルプス・富士山・諏訪湖がクリアに望まれた。

編笠山頂上

観音平は、『甲斐叢書』に「編笠山ノ中腹堂平トイフ処ニ烽火台ノ址アリ」と記され、古くは堂平と呼ばれた。甲斐源氏新羅三郎義光が「凱の白矢」を献じ、武運長久を祈願した場所である。武田信玄は、大門峠の合戦前にここで戦勝を祈願した。その加護があって合戦に勝利をおさめ堂平に「矢の堂」を建立した。観音平にはこの他にも烽火台・千人岩窟などの戦国時代の遺

跡がある。

「八ヶ岳国定公園案内板」の前から歩き始める。ツリガネニンジン・ノコギリソウ・オトギリソウ・コオニユリ・イブキボウフウ・シュロソウ・ホタルサイコ・ゴゼンタチバナ・アキノキリンソウ・コバノイチヤクソウ・ヤマハハコ・ヒメトラノオなどの花々が足元を彩っている。

右に「編笠山↔観音平・延命水」の道標を見送り、進路を次第に北に変えれば、左から小淵沢町営グリーンロッジからの道が合流してくる。ミズナラ・カラマツ・コ

バウチワカエデ・ウラジロノキが茂り、展望は得られないが風通しはよい。屏風岩と呼ばれる大岩の間を通り抜ければ、富士見平からの道が合流する雲海に着く。樹林が切り開かれ、日当たりがよい。ベンチに座ると、南方に富士山が浮かんでいる。

「山梨の森林100選・編笠山の原生林」に指定されている通り、標高1900㍍あたりからシラビソ・コメツガ・ダケカンバ・トウヒの原生林になり、地の湿りを感じる。1950㍍付近から露岩が散見されるようになり、露岩上には赤ペンキで進路の矢印が記されている。ハクサンシャクナゲが現れ、暗緑色に光る苔類が地面や露岩をおおうようになれば、押手川に到着である。

トイレのある小さな平坦地で、観音平から約1時間30分の所要であった。押手川という名前は、ここを訪れた旅人が水を求めて手で苔を押したところ、清冽な冷水が湧き出たという伝説にちなむ。現在、押手川は涸れ沢になっている。右に青年小屋への巻き道を分け露岩の道を編笠山に向かえば、次第に勾配が急になる。九合目のプレートを過ぎた地点で十段の鉄梯子が現れる。山頂直下はハイマツ帯の鉄鎖登りである。

標高2524㍍の編笠山は岩礫の広々とした2等三角点峰である。眺望快晴、山頂に注ぐ光はやわらかい。子供たちは登頂できたことで有頂天になり、我を忘れている。

展望は広濶にして絶佳。南アルプスの峰々を間近に望み、北方には荒削りの権現岳、その左側に屹立するのは阿弥陀岳。両巨峰にはさまれて赤岳がひときわ高く尖峰をもたげている。

小休止の後、北に青年小屋へとくだり始める。左右はシラビソと背丈を超えるシャクナゲの叢林（やぶ）である。正面に権現岳を仰ぎ、眼下に青年小屋を見下ろしながら、一直線に急下降する。途中、右手の岩穴にはヒカリゴケが金光色に光っていた。青年小屋に近づくと巨岩母になり、ペンキの矢印に導かれる。

青年小屋前の広場には二つのトイレがある。「ここは遠い飲み屋、ビール500円・日本酒500円」という看板の文字に誘惑

西岳から八ヶ岳主峰群

されるが、親の気持ちを察することなく、子供たちは西帛をめざして歩を進める。

蕎麦畑を過り過ぎ、ヤマハハコ・ミヤマアキノキリンソウの咲く平坦な道を行けば、乙女ノ水（プレートには金命水と記されている）の水場がある。筧から軽やかな音を立てて流れ落ちる水は、冷たくてうまい。

ここからうっそうとした静かな道に変わる。見晴らしは利かないが、足元に咲くゴゼンタチバナ・セリバシオガマが心を和ませてくれる。この妙見アラシ尾根上の道は源治新道と呼ばれているが、これは旧青年小屋主の宮沢源治氏にちなむ。西岳への最後の登りは、わずか50㍍の標高差に過ぎない。

西岳山頂には石仏や石碑が並び、その一つに雷獣神社・妙見大菩薩と刻まれている。私たち以外はだれもいない山頂から、文字どおり編笠の形をした編笠山、八ヶ岳の主峰群、南アルプスの一大展望が広がる。

山頂付近の南面は、ハクサンフウロ・チシマギキョウ・ミネウスユキソウ・ヒメシャジン・コウリンカ・ウルップソウ・マツムシソウなどの高山植物が豪華なお花畑である。南西に向けて下山を始めると、すぐ右に不動清水への道標がある。砂礫地と樹林帯が交互に現れる。標高2138㍍の小広場でひと休み。

2000㍍付近では笹の下生え風景が美しい。笹原を渡る風には初秋の気配が感じられる。1920㍍付近で林道・編笠線に出る。林道を東に寄った地点から編笠山の全貌が望まれた。

林道を横切り、見晴らしのない単調な坂をくだり続ける。標高1740㍍と1590㍍付近で荒廃した二本の林道を横切る。道は次第に傾斜をゆるめ、不動清水・長命水の水場に到着する。左後方に向けて盗流しを経て編笠山に至る道がのびている。

不動清水から約100㍍進むと、左後方からの未舗装の林道に出る。信濃境駅をさす道標に従いカラマツ林の間を行く。その後も三本の道を横切るが、そのまま直進すればやがて富士見高原ゴルフ場に出る。ここからタクシーを呼べば小淵沢駅へは約30分の所要である。

駅に着いた頃には午後の日が傾き、夕べの大気がゆるやかな裾をひく編笠山・西岳を取り巻いていた。心を残して、私たちは何度もふり返った。

（平成7年8月20日歩く）

△コースタイム▽

銀座口（40分）雲海（50分）押手川（1時間30分）編笠山（30分）青年小屋（1時間）西岳（1時間50分）不動清水（1時間）富士見高原ゴルフ場（タクシー20分）小淵沢駅

△地形図▽2万5千＝八ヶ岳西部・小淵沢

△参考▽

富士見高原ゴルフ場から東に10分ほど行くと、八ヶ岳南麓で初めて天然温泉が湧出したホテル八峯苑（0266－66－2131）がある。露天風呂・ジェットバス・サウナがあり、だれでも日帰り入浴（500円）ができる。

連載

日本霊山紀行 27

稲包山

1598㍍

浅野孝一

稲包山の山頂には小さな石祠がまつられている。山頂からの展望は良く、北に苗場山、東に三国峠付近と三国山、西に野反湖周辺の山と浅間山、南方には赤城山の一帯の山々を見ることができた。

しかし、この山は厳密に言うと霊山ではない。その理由は稲包山は西上州にある霊山の稲倉山と江戸期には混同されていたからである。

以下順にその説明を試みてゆくが、まず『日本山嶽志』は「稲裏山（別稲倉山）上野国吾妻郡越後國南魚沼郡ニ跨ル、吾妻郡澤田村大字四萬ヨリ三里、南魚沼郡大字湯沢ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ連ス、標高五千三百六十三尺ヲ」と記している。

私が稲包山のことを知ったのは、高畑輝材著『山々を行く』の中の「祀事」であった。それは「西上州の山」の中の「稲包山」の文章であって、そこには「然し古書には夙に其名が記載され、『上野國志』巻之巻に、祭神。一説ニ摂社大神第二ノ鎮座ノ地ナリコノ處コリ今ノ一ノ宮ノ地ニ遷座シモフトモ云、本地ハ彌勒等覚ト、祝氏ノ説ナリ。按ニ三代實録元慶四年五月廿五日戊寅授上野國正六位上稲裏地神従五位下勲十二等皆此神社歟。」と出てるのを見ても夫と頷ける。但三代實録云々は、上野國志の編者なる林義勲の大きな錯誤であって、之は上野名跡志巻之三にもある通り上越境の稲包山（稲倉山・稲裏山）と混同したものである。」

稲包山山頂から苗場山を見る

とあるのを読んでからである。

富田永世の『上野名跡誌』は、稲裏山の割注をして『後上野名跡考等ニ稲裏地ノ神ヲ甘楽郡ノ稲倉山トイヒハ誤ナリ稲裏ハ稲包ニテ孝和年間上人登リ見シ石ノ小祠アリ上云』とあってこの記事もあきらかに誤りを伝えている。

『三代実録』とは、日本の古代史、六国史の一つで、清和・陽成・光孝三天皇の時代を記述した歴史書である。又九〇〇年代

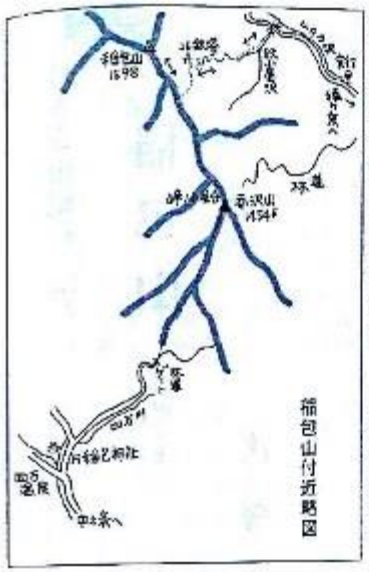
の延喜期に作成された『延喜式神名帳』の上野国甘楽郡ノ貴(ヒ)神社とあるは即ち妙義大神であることが判明しているので、史書の誤りは明らかであると考えられる。

昭和四十年代の後半、私は稲包山に登った。山頂直下に大きな稲含神社があった。四月下旬多くの里人が登っており、境内で祝杯をあげていた。

昭和五十年代には稲包山に登った。友人と二人で前日に四万温泉に泊まった。温泉街から歩いてゆくと石宮に稲包神社があった。登山道は赤沢へ越える道をたどり、赤沢山の北を越える鞍部から尾根道を北方にたどって稲包山に登り、再び往路を戻り赤沢方面にくだった。秋の晴れた日であった。

95年の秋、三国峠と稲包山の山行があったのでそれに参加した。第一日は三国峠に登り、さらに三国山頂まで足をのばした。山頂から西方の遠景の中に稲包山が見えた。

二日目は地元に住んでおられる同じ山岳間の岡田敏夫さんの案内で稲包山に登った。猿ヶ京の宿から大型車に乗って西川の支流ムタコ沢沿いの道を進み、秋小屋沢橋のたもとに車を置いた。ここが登山口であった。



稲包山付近略図

登山道は秋小屋沢沿いに登ってゆく。このコースは上部にある送電線塔への巡視路となっているので、非常に手入れがよい。

沢筋の樹林帯を抜け、右へ山の斜面を登ってゆくと鉄塔のある地点に達する。駐めの良い所である。

鉄塔から右方向に山頂をたどり、二分する登山道は左へ登ってゆく。こまざさのジグザグが終わって草原となると第5号鉄塔である。眺めはさらに広がってくる。鉄塔から左へ山の斜面をからむ水平な登山道をたどり、小沢を渡るとブナ林となり、赤沢山方面からの尾根道と合流する。

稲包山頂へは右に尾根上の登山道を進む。一つのピークを越え、登の間の急登が終わると南北に細長い山頂である。中ほどの高みに石祠と登山記念碑の石碑があった。

展望は良く、北方に谷川岳やきのう登った三国峠付近、武尊山などを眺めて山頂でのひとときを堪能した。

帰路は来た道をたどって秋小屋沢橋へくだった。私たちが利用したコースは自家用車を利用すれば、東京方面からの日帰りが可能である。

しかし、私は四万温泉で一泊して登る(四万温泉から山頂まで約5時間)二日間の山旅をおすすめしたい。そしてこの山コースとして秋小屋沢橋へくだってから15分ほど、車道をゆくと宮行の集落があり、タクシーを利用して猿ヶ京温泉またはJR上越線の後閑駅に戻ることができる。

そんなわけで、雷山であったような、なかったような山のことを書いてみた。

(平成7年5月4日～5日歩く)

△参考タイム▽

猿ヶ京—秋小屋沢登山口7・55—26号鉄塔10・20—稜線10・45～10・55—稲包山11・40～12・15—分岐12・55—26鉄塔13・15～13・30—下の鉄塔14・15—秋小屋沢登山口15・15

△地形図▽2万5千—四万

稲包山山頂の石祠

気象一口メモ

雷三日

夏は雷の季節である。雷には、その発生のメカニズムが三通りある。①熱雷②渓雷③熱界雷の三つである。

①は、強い日差しで地表が熱せられ、上昇気流ができて雷雲が発生する。②は、主に寒冷前線付近の寒暖両大気の境界で、強い上昇気流がおこり雷雲を発生させる。③は①と②の混合型で、一番スケールの大きな雷雲になったものである。

一般的に雷は、午後の後半から夕方に発生するが多い。

「雷三日」というのは、夏の雷は三日連続で発生するということで、その理由はちょっと簡単には説明できないが、もちろん、二日のこともあれば四日続きのこともある。

山での雷は怖い。2000メートル以上の岩山では特に用心がいる。例の前ぶれもなく、いきなりドカンとくることもある。そんな時アレッと思って空を見あげると、雷雲らしき雲が漂いていた、というのも珍しくない。

(松尾)

低山登山～本格トレッキングまで、
登山用品のことならおまかせ下さい。
新ハイの会員証で更に割引します。

とスキーのヨシミ
〒543 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL06(772)7231
JR天王寺駅
北出口右へ
歩道橋渡ってスグ

スリル満点の難コース

穂高連峰から槍ヶ岳縦走

鷲見守康

北アルプス

「新穂高温泉からロープウェイを使ってその日のうちに西穂から奥穂をやり、後はその勢いで槍まで行ったらどうですか」

若い頃から毎夏アルプスを歩いてきた知人の言葉だった。

昨夏、剱岳を登り、次の目標は槍ヶ岳・穂高連峰と決めていたのだが、奥穂～槍コース、あるいは西穂～奥穂～槍コースのどちらから挑戦すべきか迷っていたところだったので、すっかりその気になってしまった。

槍ヶ岳・穂高連峰の踏破は、山を歩き続けるかぎり目標となるものだから、できれば早くなしとげたい……。とりわけ、一般縦走路としては最も困難なコースといわれる西穂～奥穂コースは、年齢的にも職場事情からも今年が好機ではないか、これ以上先に延ばせば、いよいよ難しくなるかもしれない、と考えていた。

40歳から始めた山歩きも、ここ数年は毎月コンスタントに歩き続け山慣れてきたとは思うのだが、出発日が近づくにつれ不安と迷いが生じ、不安定な精神状態が続いた。

7月28日夕、各務原市の自宅を発ち、新穂高温泉に21時半頃着。マイカーの中で眠り、翌29日3時半から出発準備。5時、始発のロープウェイに乗った。

晴れわたった空に励まされ、6時40分西穂山荘から稜線を歩く。独標までは観光客もけっこう多く、笠ヶ岳に向かって「ヤッホウ!」と遊ぶ小学校低学年の子供たちや高山植物に歓声をあげる親子など、穏やかな夏の風景が繰り広げられる。独標を過ぎると家族連れはぐっと減り、中高年のパーティが目立った。西穂高岳への道を歩くのは三回目なのだが、今回が一番疲れたような気がする。それでも山頂には8時45分着で、所要時間はほぼ定通りほぼ2時間。

西穂高岳までの登山客ばかりなのか、山頂はワイワイとにぎやかであった。そのにぎやかさを避けてザックをおろし、小休止。

穂高連峰のはるかに槍ヶ岳を望む

心の中でまた不安が頭をもたげた。「ほんとうに行けるのだろうか……」

天気は快晴。北アルプス中北部の山岳が目にしみるほど鮮やかだ。レモンを輪切りにして口に含み、「やはり行こう」と心に決めたちょうどその時、一人の男性と視線が合った。

「奥穂まで行かれますか」と私が問うと、さっと表情が輝き「ええ、あなたも行かれますか」

こののち、穂高岳山荘で自己紹介し合ったのだが、長野県小布施町の唐沢さんという51歳の方で、ふだんは常念山脈を日帰りで登っているというベテランだった。大人も21歳の娘さんも山に登るとのことで、一週間前の日曜日には娘さんと蝶ヶ岳へ、二週間前には富士山に登頂したという。

「あなたが富士山にいた頃、私は北岳にいました」と言うと話がはずみ、二人とも二泊三日の穂高から槍ヶ岳縦走で、コースまで全く同じだとわかった。

「あなたと会えてよかった。とても心強いですよ。あなたが先行してくれませんか。私は落石をかぶせないように、かぶらないように、つかず離れずついて行きますから」と彼は言った。

「よかった」と私も心から思った。「最後まで行けるかもしれない……」

西穂高岳から奥穂高岳への縦走路は、聞きしに勝る難コースだった。

くり返し立ちはだかる岩壁に手がかり足がかりを求め、全身運動で登下降。登山靴の爪先部をかけてそろそろと動くトラバース。スッパリと切れ落ちたナイフリッジの稜線は、まさに3000m旨の天空につくられたジグザグの平均台だ。

すさまじい高度感の岩稜で、大きく肩で息をしながら「苦しい……」と何度も思った。ほぼ中間地点の天狗のコルでパテ気味となり、激しい緊張のせいか急ながけの登りでは日頃さえ感じて、不安にゆれ動く自分自身との戦いとなった。

奥穂高岳山頂直前のナイフリッジ・馬の背では、疲労が頂点に達していたにもかかわらず、われながら見事なほどリズミカルな三点確保で一気に登りきることができた。いったい、自分のどこにこれほどの集中力があったのか。

奥穂高岳山頂には14時30分着。山頂の方位盤の下に座り込み、ぼんやりとジャンダルムを眺めながら、ただただほっとしていた。いつの間にかガスが発生し、すでに遠望は得られない。

「あなたといっしょでとても心強かった」と唐沢さんはくり返し言ってくれたのだが、実際には私たちはパーティを組んで、あれこれと具体的に助け合ったわけではなかった。

私がジャンダルムを下降しているときに

ジャンダルム

彼はコブの頭に達し、彼がジャンダルムを下降しているときには、私はロバの耳を下降していたというように、お互いがひたすら自分自身のやり方と力で切りぬけたに過ぎない。それでも私たち二人には相手がいるという心強さがあったのだと思う。

「槍と穂高は、いつかはやらなければと考えていましてね。もう51歳ですから、体力的にも今年が限度だと思いました。職場の山岳部の連中にも何度か話を聞き、このルートを計画したんですよ。でも、最後まで不安で送い続けてきたんです」

唐沢さんの話を聞きながら、私たちの出会いに不思議な因縁を感じるのだった。

2日目、穂高岳山荘を5時発。回室だった唐沢さんはきょうも「つかず離れず」の山行を期待していたようなのだが、私は体が重く、かまわず先に行ってほしいと伝えた。

ベテランの彼はさすがに体力の回復が早いのか、快調なペースで涸沢岳、北穂高岳へと進み、やがて私の視界からその姿は消えていった。大キレットをできるだけ早い時間に通過したいと言っていた。2日目に同宿となるはずの槍ヶ岳山荘でも、とうとう顔を合わせることがなかった。超満員に違いない槍ヶ岳山荘を嫌い、一気呵成に槍平小屋までくだってしまったのだろうか。

「昨夜のうちにきちんと住所ぐらい訊いておけばよかった……」と後悔する。

涸沢岳から北穂高岳までも、かなりの難コースだ。穂高岳山荘から30分ほどで涸沢岳山頂に立ったのだが、くだりはいきなり垂直のクサリ場だった。

北穂高岳山頂はすっかりガスの中だった。北穂高小屋でパンの朝食をとり、いよいよ大キレットだ。

前日の岩稜帯で目が慣れたせいなのか、「飛騨泣き」や「長谷川ピーク」と呼ばれる難所も、それほど躊躇せずに通過できた。

「飛騨泣き」では、重装備の大学ワンゲル部パーティがずいぶん手間どっており、その殿部では、女性を含む中年パーティに、若い男性二人が「飛騨泣き」が越えられるかどうかと執拗に尋ねて、「若いんだから大丈夫」と励まされていた。私も何度かすれちがう若いパーティに声をかけられ、「険しさ」を尋ねられたのだが、「皆が歩いているのだから大丈夫ですよ」と言うしかない。いまや山では、中高年者のほうが元気なのだろうか。

「長谷川ピーク」の登りでは、先日読んだ山歩きガイドブックの著者に偶然出会った。生徒さん（？）を引き連れ、15人のパーティだったが、「著書を拝読しました」と声をかけると「イヤ、恥ずかしいですよ」と笑っていた。

「飛騨泣き」から私の後についていた男性と小休止のおりに言葉を交わすようになった。松本市の人で、彼の行程は北穂高岳から南岳を二泊三日で歩くというものだった。

「私は写真を撮るという目的もありますからゆったりとしたものですよ」という彼の言葉に、「私も実は植物が好きで山を歩き始めたようなものですから、こんな山行は普通はしないのです」と応え、昨日からモクモクとひたすら歩き通している山行をふり返っていた。

大喰岳から鳴雷に急きたてられ、槍ヶ岳山荘に到着したのは14時20分であった。

3日目早朝5時、ガスの中、槍ヶ岳山頂へ。山荘から往復1時間程度だが、交通整理を要するほどの混雑であった。

6時過ぎ、山荘を出発。新穂高温泉への下山だ。飛騨乗越からガン場が続き、やがて紅面一杯の高茎高山植物原となった。ガスに支配されてさえいなければ、きっとすてきなお花畑なのだろうが、残念なことに小雨も降り始めた。

天候の回復した滝谷出合の手前で、タマガワホトトギスの群落、ジャコウソウの花に出会った。いずれも初めて見る花だ。

滝谷から穂高平避難小屋まで、山口県岩国市から来たという男性といっしょに歩いた。マラソンが大好きという彼は、以前燕岳から槍ヶ岳まで六人のパーティで縦走したそうで、その時の彼は脚力にも心肺力にもかなり自信を持ち、パーティより先行しては、疲れた仲間のザックを背負うために戻ったりしたという。

今は足を痛め、仲間に迷惑をかけてはと一人離れて先へ先へと歩いているというが、私も同じように足を痛めており、お互いになぐさめ合った。

穂高連峰とはどんなところかと問われて、答える私の話にずいぶん驚いて、「脚や肺には自信があるけれど、怖いところはだめですよ」と笑う彼に、慣ればいいのだからいつか挑戦してみたらどうですか、とすすめると心に期するものがあるような様子であった。

新穂高温泉へは13時に下山。民宿の無料温泉で汗を流し、名古屋へ向け一路車を走らせた。

（平成6年7月29日～31日歩く）

△コースタイム▽

（第1日）新穂高温泉駅（ロープウェイ乗継24分）西穂高口駅（50分）西穂山荘（2時間）西穂高岳（55分）間ノ岳（1時間）天狗ノ頭（2時間）ジャンダルム（1時間25分）奥穂高岳（30分）穂高岳山荘

（第2日）穂高岳山荘（30分）涸沢岳（2時間15分）北穂高岳（2時間25分）南岳（1時間10分）中岳（1時間20分）槍ヶ岳山荘

（第3日）槍ヶ岳山荘（30分）槍ヶ岳（30分）槍岳山荘（2時間30分）槍平山荘（1時間）槍平小屋（1時間）滝谷出合（2時間30分）新穂高温泉

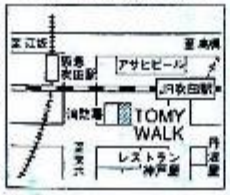
△地形図▽昭文社＝「5＝高地・槍・穂高」

2周年記念半額セール中

夏は汗対策にウィクロン素材を。

軽くて蒸れない雨具・パーサライト。防水性・透湿性はゴアと同等です。

営業時間　12:00～20:00
定休日　月・火曜
吹田市内本町1-23-7
TEL 06-319-0597



CAMP・HIKE・CLIMB
TOMY WALK

白山周辺の静かな山道

石徹白道と中宮道

高雄　潔

白山

石徹白道

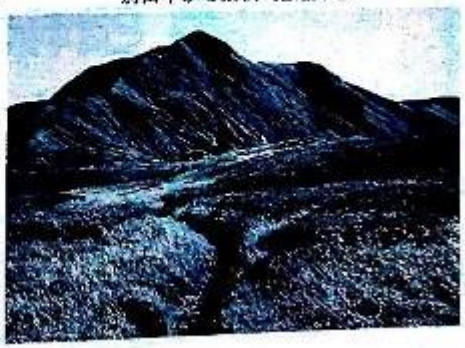
岐阜県長良川鉄道「美濃白鳥」駅で下車する。石徹白道の出発点になる上在所までの交通の便は、平日にはバスが運行されているが、休日は運休のようだ。

タクシーで越前街道を北に走り、前谷から檜峠を越えると石徹白の集落に入る。上在所の白山中居神社を通り過ぎ、石徹白川左岸に沿って石徹白道登山口の中間点まで入ってもらう。林道をしばらく歩くと登山口に着いた。

登山口からすこし登ると、樹齢が千年を超えるという石徹白大杉のある広場に出る。ここで水を補給し登りにかかる。神楽ノ宮避難小屋を経て経子ヶ峰まで登る。ここまで来ると笹の間を歩く道になり、ずいぶん展望が良くなる。風の音を聞きながら山道を歩いていると、自然と気持ちが落ち着いてくる。

三ノ峰の避難小屋に着いたが先客がいたので、今日は小屋の外で寝ることにした。

食事の後、暑い茶を飲み寝袋に入る。登山靴を枕にして横になっていたが、知らない間に少し寝てしまったようだ。目を開けるともう夜の世界が始まっていた。黒い山のシルエットの上に、流れ星が突然現れては消えてゆく。星の色合いも明るさもまばたきもすこしずつ違う。天の川は天空の大河に思える。街の中では夜空を見上げることもほとんどないが、ここで眺める星たちは、何と生き生きとしているのだろう。

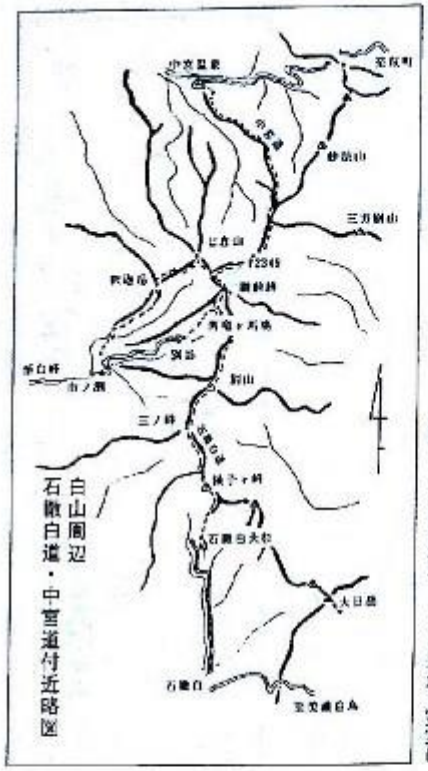


別山平から別山（石徹白道）

ずいぶん前であるが、頭上にあふれる星の数と明るさに圧倒され、思わず声が出そうになるほどの見事な星空を見た。真っ暗な大地の上で、空がまさしく躍動していた。夜の寒気を忘れ、感情が高揚したことを思いだす。北アルプスの稜線で、初めてテントに泊まった一代の日の鮮明な記憶である。それまでは夜の空がこんなにもにぎやかで、降ってくるほどたくさんの星があるとは知らなかったのだ。

次の日、夜明け前、早々に食事を済ませ、はるか北アルプスの稜線から昇る日の出を写真に撮る。

再び大地が輝きだした。一日の始まりは感動的である。夏空の先端についた小さな水玉は七色に輝き、太陽が肩肌と尾根をオレンジ色に染め、しだいに黄色く強い光に変わっていく。身体に陽があたると、心地よい感覚が身体の中に湧いてくる。朝の空気に冷たくて気持ちがいい。まだ峰々の間の雲に眠っているようだ。



白山周辺
石徹白道・中宮道付近略図

石徹白道は距離は長いが、経子ヶ峰・三ノ峰・別山周辺と、静かな山歩きが楽しめる展望の良いコースだ。その中でも三ノ峰から別山平付近は大好きな場所の一つである。ここから見る別山の岩肌が印象的だ。別山まで一気に登ると、澄んだ空気の中に360度の展望が広がる。南には遠く長野県の山々が幾重にも重なって滋賀県の伊吹山に連している。

泊坂のくだりにかかる頃、きょう初めて別山に向かう登山者とすれちがう。南竜ヶ馬場はそのまま通過、トンビ岩から室堂に向かう。室堂で水を補給し少し早い昼食をとる。

雪に触れたくて千蛇ヶ池を回ることにした。雪解けの小さい流れで顔を洗い、身体に雪を入れる。大汝峰まで来るともう人はいない。北方の七倉山まで緑のジュータンを敷きつめたような、なだらかな起伏の向こうに折り重なって山々が続いている。

七倉ノ辻から釈迦新道に入るころ、暑くなってきた。夏草におおわれた道を歩いていると、気怠さに体が無性に水を要求してくる。顔の回りを飛びかう虫の羽音が耳につく。こんな時には足元だけを見て、ただひたすら歩く。

低木と笹の間を吹き抜けてくる一陣の風に生気をとり戻す。顔を上げると釈迦岳が目の前にあった。釈迦前岳は展望がいい。ボーッとした頭で、うっそうとした緑の谷をはさんでけさ越えてきた別山の濃い緑と、銀壁上部の白山主峰の眺望を楽しむ。

ここからは、くだるだけだ。ブナの樹林帯に入ると、水の流れる心地よい音が谷から聞こえてくる。水音がいよいよ大きくなり林道に出た。少しくだった湯の谷に架かる橋の手前の谷水で、一日がんばってくれた足を労りながら、ほてった体と足を冷ます。

近畿の山
日帰り沢登り
中庄谷 直
吉岡 孟 著
週行図・写真多数 320頁 2000円
重版出来
京阪神から日帰りで、初心者や中高年者も無理なく楽しめる沢を選んで詳しくガイド
若狭・湖南・比良・鈴鹿・台高・大峰・金剛
和泉・高野・播州高原ほか 全52コース収録

兵庫丹波の山(上)(下) 慶佐次盛一 各2000円
京都北山を歩く①～③ 沖 潔 各1900円
鈴鹿の山と谷①～⑥ 西尾 実一 各2000円
京都滋賀南部の山 内田 孟弘 2000円
近江 湖北の山 山本 武人 2060円
奥美濃 ヤブ山登山のすすめ 高木 泰夫 2000円

ナカニシヤ出版
京都市左京区吉田二本松町2
☎京都 075-751-1211 〒606

市ノ瀬までにあとひと息である。

市ノ瀬の永井旅館で温泉に入り、白山と乾杯する。キャンプ場の木の下にテントを張り、日が暮れるまでトンボと遊んだ。

（平成6年8月14日～16日歩く）

中宮道

金沢駅発10時30分のバスに乗り別当出合まで入る。途中で乗降する地元の乗客は何人かいたが、登山客は金沢から乗った大婦と男性一人と私の四人だった。

白峰で10分ほど休み、別当出合のバス停に着いたのが13時5分。白山登山は、ほとんどの人がここから登る。

バス停の横にある店でソーメンで腹ごしらえをし、登山を終えて帰途につく人たちと入れ替わりに出発する。

これから登る砂防新道はいったんくだり、別当谷に架かる橋を渡る。道はよく整備され歩きやすい。1時間半ほどの登りで甚ノ助小屋に着く。小屋からの眺望も良く、小屋に引いてある冷たい水で顔を拭くと汗もひく。ここからあとひと息で南竜ヶ馬場である。

南竜ヶ馬場は濃い緑に囲まれた台地である。今年は雨が多かったので、まわりの緑は生き生きとし、小屋の前を流れる沢も音を立てている。先程までのガスは消え、青空が戻ってきた。早めに夕食を済ませ、次第に赤味を帯びてきた太陽がエコーラインの尾根の南端をかすめ、はるか日本海に沈むまで観察する。

きょうは、カメラのシャッターがおりず写真が撮れなかった。タオルも来る途中で落とした。大事な雲・スプーンを持ってくるのも忘れた。

沈む陽を眺めながら石の上に座っていると、ゆっくりと過ぎる山の時間の感覚が戻ってくるようだ。失敗続きで少し気落ちしていたが、なんとなく心がいやされた。小屋で買ったインスタントカメラで日本海に沈む太陽を撮る。今夜は満天の星の下で寝られそうだ。

山の夜明けは早い。4時過ぎには一番のパーティが出発した。やや明るくなった5時頃テントを撤収し出発する。エコーラインを経て、弥陀ヶ原に日が差す頃、五葉坂の登りにかかる。室堂で水を補給し中宮温泉までの長丁場に備える。

御前峰に日の出を拝みに登った人はすでに室堂に戻り、いまの時間から山頂に登る人はいない。早朝の空気は澄み、室堂の赤い屋根に白い雪渓、別山に続く稜線が目を浴び鮮明だ。

御宝庫から翠ヶ池まで来ると、あふれそうな池の水面に青い空が映り、少し角度を変えて見ると、水面に岩だらけの剣ヶ峰が逆さまに立っている。池の西側には雪渓が残っている。翠ヶ池の北側に出て、ここから中宮道に入る。

急勾配の小さな岩尾根をくだりヒルバオ雪渓に出る。雪渓を横切り北弥陀ヶ原に向かう。道の両側の夏雪に残る残雪で枝の中まで濡れる。大汝峰から続くピーク2334.9まで登り直すと、ハイマツ越しに残雪豊富な主峰御前峰・剣ヶ峰・大汝峰から七倉山、さらに岩間温泉に続く稜線の大パノラマが楽しめる。このあたりからしばらくは地獄谷や白山主峰の眺望、それに

御前峰より北方（中宮道）

是元に広がるお花畑とすばらしいコースである。

ハイマツの間に、シャクナゲの白い花が目をひく。北弥陀ヶ原から鷲平の湿原にはハクサンコザクラ・クロユリ・シナノキンバイなどが咲き、日当たりいい谷の尾根にはニッコウキスゲの群生が最盛期である。登山道の脇に花の株が流れずに引っかかり、なんとか今年の花を咲かそうとしている。足元に気をつけながら先に進む。

間名古ノ頭の西側を巻き三俣峠に出る。以前、残雪に埋まったシノ谷をくだり、念仏岳根を歩いた時の明るい谷だった印象が残っていたが、夏の今は、うっそうとした木々に囲まれたすいぶん山深い所だ。ゴマ平避難小屋までドンドンくだり、小屋の手前で念仏尾根に入る分岐点に出る。ここからは登山道の草が刈ってあった。

ブナ林の続く登山道を何度かくだりして、シナノキ平小屋に着いた。今日は山頂以降だれにも会っていない。中に人がいそうな気がして、挨拶をしようと入ってみたが、気配だけで無人であった。

小休止の後、中宮温泉に向かう。温泉山を越え清浄坂のくだりに入る頃には、足元があやしくなってきた。さすがに長い道のりであった。渓谷におりる最後の階段では膝の感覚がなく、久しぶりにくだりの辛さを味わった。中宮温泉で温泉に入り、バス停前の売店で買ったビールを飲み、ゆっくりしながら最終のバスを待つ。

（平成7年7月25日～26日歩く）

△参考タイム▽

石徹白道 （8月14日）美濃白鳥駅11・15（タクシー）石徹白登山口12・35－神鳥ノ宮小屋14・15－鈴子ヶ峰14・50－一ノ峰15・30－二ノ峰15・50－三ノ峰16・20（泊）（8月15日）三ノ峰6・20－別山7・35－南竜ヶ馬場9・10－室堂10・15－大汝峰11・40－七倉ノ辻12・10－釈迦前所13・40－市ノ瀬15・40

中宮道 （7月25日）金沢駅10・30（バス）白峰12・25（バス）別当出合13・05－甚ノ助小屋14・35－南竜ヶ馬場15・15（泊）（7月26日）南竜ヶ馬場5・00－室堂6・00－御前峰6・30－翠平8・30－三俣峰9・10－念仏尾根分岐9・50－滝ヶ岳11・15－シナノキ平小屋11・50－中宮温泉13・35

△地形図▽2万5千＝加賀市ノ瀬・二ノ峰・白山・新岩間温泉

山陰

小石を持ち上げた 伯耆大山

田中誠

大山寺門前の宿坊不老閣を出て大山寺橋のたもとに着く、ここで小石をナイロン袋に詰める。

大山の崩落を少しでも防ぐための「一人一石運動」。登る機会があったら必ず持って登ろうと思っていた。リュックに入れて担ぐと意外に重い。しまった！　入れすぎたと思うも後のまつりである。何人か見ていることだし石置き場にまた戻すわけにもいかず詰める。車に置いてきたショイコを持ってくればよかったかと悔まれる。あれなら少々重たくても楽に担いで行けるのにと。

ま、今はダメだが途中人が見ていなければ半分に減らして登るのもよいかと登山口に向かう。

夏山登山道の看板を左に見て登り始める。しかしそれから先の登り口が見つからず、あっちうろうろ、こっちうろうろと探し回る。「僧兵コース」と書いてある標識を見つけ、地図と合わせるが登山道とも書いてなくて、しばらくしてようやく前方に登る人を見つけ、後を追い登山道に入る（5時20分）。

三々五々登山者がいる。老若男女いろいろな組み合わせで登り始めている。夫婦連れ・親子連れ、皆正装者なのかなかなか足が速い。

私は最初はゆっくりと登るのを常としているので悠々たるものだ。また初めて登る山道は様子がわからないので急いで登ると体が馴染まないのか後で疲れが多いように感じられる。

登山者の列が続く大山登山道

一合目・二合目とだんだんに道が荒れてきた。石ころも多くなり、金網で巻いてある石段が多くなってきた。他の山ではなかなか見られない作り方だが、これも崩落を防ぐ一つの方策であろう。

楽には登らせてくれない。木の根、張り出した石、金網の階段と急登が続く。他の山では少しくらいは息の抜けるやや平坦な所があるものだが、ここは急登の連続だ。標高1200㍍・五合目行者コースの分かれ道を過ぎて、いっしょに登っていた人がここからは楽になると言っていた六合目避難小屋に着く（7時10分小休止、朝食）。

六合目を出発しても相変わらずの急登が続く。ふり返れば、はるか麓の大山寺集落がすぐそこに見える。まるで真下にあるようだ。岩場でもないのにこんなにも急な角度で見えるとは、登りが厳しいはずである。

登り始めたときから石コロを入れたザックをとても重たく感じていたが、それが少しずつ肩に食い込んでくるようになった。足どりも重くなってきたが、せっかく持って来たので、いまさら投げ出すのも惜しまれ、頂上まで全部持って行こうと心に決める。

なおも続く金網の階段、こんなにまでしないと崩落が進むものなのかと驚かされる。登るうちにあたりは低木に変わり視界も開けてきた。しかしあいにくガスの中、徐々にその視界も悪くなり始めていった。

九合目の木のはしごの階段を登り終えると、やや平坦な道となり、そのつき当たりを左に曲がると、木道が現れ、ガスの中に長々と続いていた。約10㍍程の視界、前方からは声はすれども人の姿も山の頂上も何も見えない。木道両サイドにダイセンキャラボクが、そのほかいろいろな花が周辺に見えるだけだった。

ようやく頂上小屋の前に着き、持ってきた小石をザックから取り出し指定の場所に置く。ザックもウソみたいに軽くなり体が宙に浮くようだ。

小屋で買った缶ビール片手に大山（弥山）頂上の標識に向かう。すでに先に到着している登山者が山頂標識の証拠写真の撮り合いをしている。標高1711㍍（8時10分到着）。

私も順番を待って写真を撮る。あたりは濃いガスの中で、四国の剣山、岡山の蒜山など何一つ見ることなく缶ビール片手に無線機を取り出し、CQコールを送る。米子局と鹿島の二局とコンタクトでき、お互いのQSLカードの交換を約し電源を切る。

麓からも大山の頂上は雲がかかり何も見ることができないとのことであった。さもあらん頂上からも何も見えないので下から

見えるはずもないと一人納得した。後日頂上で撮った写真を拡大してみたが、大山頂上の標識も霞んで写っているありさまだった。剣ヶ峰に行くのもあきらめ、ガスの晴れるのを待つも、上空はなお暗くて晴れるには長時間かかりそうに思えた。

景色を見るのは断念してくだり始める。時間的に登ってくる人も多くなり、木道のすれ違いが難しくなってきた。こちらは二人でも相手は大勢である。端によけ通り過ぎるのを待つ。しかしなかなかみんな元気である。ふり返えればようやくにしてガスが西側より少し薄れてはきたものの頂上が見えるまでにはいたらない。北壁の岩肌の

雲のかかった大山

厳しさのみが少しうかがえる程度で、下には大山寺集落が霞んで見えていた。

七合目あたりを先におりていた家内が登ってくる人を見て大きな声を出した。新ハイ関西主催の山行で、時折ごいっしょしている○さん御夫婦と出会ったのである。私は初めてお会いするが、家内は尾瀬の山行などで何回か同行したとのことである。近畿からはるか遠くの山で知人にお会いするのは本当にうれしいものである。またお聞きすれば奥さんがこの大山近くの倉吉市のご出身とか、しばしの歓談ののち再会を約しお別れした。

先ほどまでガスに隠れた大山が何かすっきりと晴れたような気分になり、いちだんとすがすがしい大山登山となった。

登る時に感じたことであるが、下山はこんなにも急降下するのであれば足腰が大変だろうと思っていた。くだっている人の後ろ姿を見ると歩き方のおかしな人が五、六人もいた。多分膝のおサラを痛めたのではないかと思われる。やぶの中から拾われた木を探し出し杖代わりにしておりるようすすめ下山を急ぐ。

登り口近くなってから右手に回り、佐陀川の畔の河原を横切り大山寺のほうに回る。大神山神社奥山におまいりして不老園に戻り、風呂に入って帰途に着いた（11時30分）。

宿泊所の不老園には、『放浪記』の林芙美子の色紙、野口雨情の色紙、他四名の著名人の色紙が掲げられてあった。探偵にも著名人の手による漢詩の書があった。

女主人の説明によれば何も知らない泊まり客がただのタオル歩けと勘違いし、シミだらけになったとか。なかなかの名筆・名文と思われるが、この文章を読みとることができる方は一度訪れられてはいかがであろう。私にとってもなかなか学識豊かな宿坊であった。

なお、ご主人にお聞きしたところによると、大山は秋がその姿を一番美しく見せるし、山頂からの眺望もすばらしいとのご進言であった。次回登る機会はぜひ紅葉を見ながら登りたいものである。

（平成7年8月15日歩く）

△コースタイム▽

大山寺（1時間）六合目避難小屋（50分）大山（1時間30分）大山寺

△地形図▽2万5千＝大山

5万＝大山

新ハイキング選書 第18巻

★新刊

一等三角点の名山と秘境

日本全国一等三角点配置図
日本全国一等三角点　総覧

安藤 正義　冨田 弘平
多摩 雪雄　松本　浩 共著

A5判 340頁　定価1800円（税込）
掲載の山　100山

今回発行の一等三角点の名山と秘境と既刊の一等三角点の名山100と次回発行予定の一等三角点の山の本（題未定）の一等三角点の山シリーズでは、山は一つも重複しません。この3冊で、一等三角点の山は、ほぼ網羅されます。

今回の本は、その中にあって、全国一等三角点の県別の地図と所在地を最新の資料により掲載しました。一等三角点マニア待望の本です。一等三角点はこの本で、すべて。

●雑誌の振替での
ご注文は送料当社負担

発行所 新ハイキング社
東京都北区滝野川7-6-13
振00130-9-146915
☎(03) 3915-8110

広大な草地

明快・梶ヶ森

多摩雪雄

四国

地球33番地

四国の旅の最終日程は、高知観光とうまいもの賞味を予定して、ビジネスホテルに二泊の予約を入れてある。

駅から6～7分、江ノ口川を渡ったそのホテルの、ロビーで喫するモーニングコーヒーは、美彩のウェイトレスの接待もさることながら、長旅の疲れで寝起きの悪い者を待つ間の、しばしをうっとりとさせてくれた。

タクシーを連ねて五台山展望台と竹林寺を参拝したのち、武市半平太の旧宅とその墓、神峰峰寺から桂浜で坂本龍馬の巨大な銅像とその一帯を観光し、白土峠で下車したのは8時50分。一等三角点設置の烏帽子山から鷲ヶ尾山の草地で、暑い思いをしながら見晴らしを堪能した。このコースは高知の南麓ハイキングコースとなっている。

この日は予約しておいたうなぎや「せいろ」で昼食後、市電に乗って高知大神宮へ、高知城・はりまや橋と歩いて、地球上ただ一か所だけの東経133度33分33秒、北緯33度33分33秒の地球33番地に着いたのは、夕景迫る18時であった。

江ノ口川のまん中に位置するため渡り橋でその塔屋に入ると、鯉を脇にちびりとやっているジサマと孫娘の先客がいた。毎夕、この川中の塔に座して、涼みながら傾けるのを唯一の楽しみにしているのだという。

我々は、地球33番地到着証明書とすばらしいパンフレットをもらって、この川筋にあるホテルに帰着した。

梶ヶ森一等点標石と展望館

大好望の草山

当初の予定では大田口駅に下車して、重文薬師三尊を拝してから、西から登る計画であったが、いささか疲れの累積した一行は軟化して、サブリーダーの小熊が昨日役場に問い合わせてタクシーを予約しておいてくれたので、豊水駅からわずか30分、広大な草地の梶ヶ森頂上には8時50分に着いた。六、七基のパラボラアンテナが林立するとはいえ、このように広範な展望はざらにはあるまい。

いま通過した頂上直下に天文台（月・火休館）を併設する梶ヶ森山荘は、北アルプスの燕山荘風に、山頂のホテル然として100名収容の諸施設が完備し、広大な駐車場もあり、大勢の遊び客でにぎわっている。

頂上の石垣子内の馬頭尊に対して第八番薬師如来の露座仏があり、周囲には長腰かけ数脚がほどよく配してある。

点名大几森の一等三角点標石の磁北は真へ50度はずれて理定されているが、遊山者が多いわりには段差が少なく、コンクリート台座の中央から化粧面を表わしていた。

南の風3m/s、巻積雲6、層積雲1で晴れ。気温27度たがさわやかな涼いのひとときが過ごせた。

下山ルートも楽し

9時半に頂上を辞して、東の梶ヶ森山荘との鞍部の水源「梶ヶ森の霊水」まで15分、一同の水筒を満たし、お礼のしるしに賽銭を奉じてから北東へのルートに入る。

第七番虚空蔵菩薩を右手に見送り、キャンプ場を抜け、頂上東の小丘に峙立する天狗の鼻の岩頭上に、第六番の露仏を離れた位置から拝す。樹林のくだりとなって20分、紅葉川休憩小屋に着いて一服する。この辺りにはアセビ・シャクナゲが多い。

ここから上流にたどる道は梶ヶ森山荘に達するが、我々は原生樹林中を新造の急段100で真名井滝上に出て、第七鉄梯子をくだって、10時40分に急崖を落下するなかなか見事な真名井滝の滝下に着く。ここには第二番不動明王を配している。その5分下方には弘法大師作第一番十一面観音を立派な木堂内に安置した大きな宿泊棟を持つ仏岳山遍照院がある。電灯も設置してあるが無住で、駅近くの高台にある定福寺が管理する奥ノ院である。

以後、勾配のゆるやかな岩石のくだりとなり、右岸に移ると龍王ノ滝が、開けた谷の正面に爽快に落下している。一般遊歩者向きに観光地化しており、数個の展望台もある。

朝6時半にホテルを出て、快速に乗って来たのでチーフリーダーの霜葉はここで11時から50分間の早い昼食休憩を宣言した。

益々歩きやすくなった遊歩道は10分でトイレもある駐車場に出られそこから舗装車道を6～7分で、再び歩道が左へ分かれる。「駅へ近道3・5㎞」とあり、杉林から雑木林中をジグザグにくだって、外りかえり滝で左岸に移ると、のろのろのくだりとなって12時40分砂利林道を突っ切った。

くだり疲れて30分も休んでから、15分も歩くと簡易舗装道路に出て、点在する集落を抜けてゆくと真下に駅近くの家並みが見えた。下山の一行に安堵の色がみえてきた。

（平成7年5月25日歩く）

◇コースタイム◇文中を参照

◇地形図◇5万＝大栃　20万＝高知

豊水ハイヤー　0887（75）0314

関西・山越の古道を歩く

寺山　英男

⑦　生駒越・十三越

3月2日、快晴、近鉄服部川駅から旧道に出ると大学の大きな看板がある。その下に「おうと水のみ地蔵」とある。その矢印に従い細い道を進む。畑や庭先を行くと、池があり古い祠の前に常夜燈があった。かなり古いものらしい。生駒山と平行するように進む。右に「おうと」の矢印あり。愛宕塚に出る。古墳である。立派なもので、葛城一族のものかもしれないと言われている。このあたりは、古代は海辺であり、葛城王朝があったと言われ古墳が多い。

石仏をまつった辻堂に出る。登り坂になり赤いよだれかけをつけた石仏が続く。60数体あると聞く。

茶屋座の辻に出る。看代のプレイボーイといわれる在原業平の言い伝えの説明板がある。急坂を登る。いき原への分岐点を越えて少し行くと、右側に、公園があり遊歩道も整備されている。永谷地蔵に着く。清水が湧き出ている。昔十三峠を越える旅人のために弘法大師が行脚して得た霊水と言われている。

ポリ容器を持った人が数名いた。この水でコーヒーをたてるとうまいし、お茶や水割りにしてもよいと、笑って話してくれた。

すぐ上が公園になっている。スカイラインの下をくぐり左の道を登ると、十三峠。そして十三塚。よく整備されており、盛り上がった塚を数えると、確かに13個ある。十三仏と関係があるように感じる。地蔵尊の立つ所が十三峠で展望がいい。河内平野・大阪方面・六甲連山がよく見える。

大和の竜田への縦走路をくだる。篠笹の茂る雑木林で歩きやすい。左側に石の地蔵さん、右側に自然石に刻まれた道標、「おうと（ワ）越」の案内があった。ガイドブックにはひどいやぶでとても登れないとあるが、最近は、歩く人がいて、道が復活しているような感じがする。すこし行くと舗装道路になり、極楽畑に入る。どんどんくだる。30分少々で、近鉄竜田川駅に着いた。夕焼けが美しい。3月31日の新ハイキングとの合同例会がうまくいくことを、祈りながら最寄に着く。

⑧　生駒越・立石越

4月21日、寒い朝である。例年より気温が10度近く低いらしい。

近鉄上本町を9時23分出発。9時35分山本駅到着。途中からの合流者を加えて17名。

山本八幡宮で自己紹介をして、今日の無事を祈り、歩き始めるが、車が多くて怖い。

恩地川を渡ると、生駒山がそそり立つように見える。所々が白く見えるのは、桜ではないかと言いながら。大阪外環状線を越えると、道の両側に立派な庭の木や石がある。

このあたりは造園業者が多い。阪急宝塚線の山本付近にも造園業者が多く、同じような風景である。

つき当たると正面中高安小学校である。ここの古い石の道標、天保十一年の銘をみんなで確認する。「左おうとこえ　信貴山　立石」とある。学校の塀沿いに坂道を登る。服部川駅前に出る。

ベンキで「立石」との表示がある。回り込んだら古い神社があった。式内社・佐味多神社とあり、だれもいず静寂そのもの。汗が出始めたので、休憩をとる。

やや急になった道を進むとT字路になり、「立石　高安ハイキング」の道標があり、左方向に矢印。どんどん登ると八尾霊園の前に出る。この霊園には墓碑があるらしく、抗議や注意の看板が立っていた。

舗装された急坂はきついが、桜が咲き花びらがハラハラ舞い落ちてくるなか、七曲りを登る。

同があり中にお地蔵さんがまつられている。

同のまわりに数本の桜があり、桜をのばして満開である。座りこんで休憩。桜は大手をひろげたような姿でパラリ、パラリと花びらを私たちの頭上に落としてくれる。

ここから坦道となる。5分も登ると、展望が良くなり、八尾や堺方面の市街地が望める。山の斜面に桜が多く、風が吹くと花びらが舞い上がってくる。

よく踏まれた道で歩きやすい。ウグイスが前になり、後ろにと、鳴きながらついてくる。

11時、展望台に着く。ここも桜が見事なのでゆっくりと休憩をとる。スミレが群がって咲いていた。

すぐ近くに地蔵さんが立っている。古いもので、道標にもなっている。ここは峠の手前でもある。左側を行けば水呑地蔵を経え十三峠に至る。すこし登ると立石峠。しかしどこを探しても巨岩はない。

11時30分、一元の宮の広場に着く。また桜が咲いており、スカイライン側が満開。しかし高安寄りはつぼみふくらむ程度。広場で昼食にする。酒をいただき思いもよらぬ「花見宴」となる。

スカイラインの陸橋を渡ろうとしたとき、歓声があがる。あたり一面が満開の桜。少し行くと木蓮・こぶし・れんぎょうと多彩な花が咲きあふれていた。

大和側の最初の辻にたくさんの石仏があり、大きな地蔵さんもある。私は拝んでから、ゆっくりと拝見させてもらう。この前で女性軍はツクシ取りに夢中である。

「右　信貴山　光尼山　←八尾」の道標。どんどんくだる。足元には、スミレの花が列をなすように咲いており、我々を歓迎しているようだ。小さな石仏が二体、静かに置かれている。なおもくだる。

久安寺の集落を過ぎると狭い山道に、やさしいお顔の地蔵さんが見下ろしている。すぐ下は新しい道になっているが、そこから見ると桜の森が見える。信貴山奥の院である。

道路を横切ってくだる。右に回りすこし進むと田んぼを横切り丘を登る道がある。それを登りきると信貴山奥の院の裏に出る。まずはお参りをする。奥には大きな不動明王。門前は桜が満開で、ここでも桜見物をする。

町石を見ながら滝路につく。「左　信貴山奥之院　ハイキング道」の道標を後にして坂道をくだると、十三石仏があり、覆屋で保護され、花が供えられていた。その辻を右に回りこみ、細い道をくだる。所々に石仏があり、花が供えられていた。女性から「信仰が厚いですね」の声が出る。

途中から舗装はされているが、道幅が細くて車が通れず、そのため静かな道である。

雨や雪やなぎなどが美しい。今日は一日中花を楽しみながらのいいコースだった。お地蔵さんや、仏さまに守られているような気分のハイキングでした。

15時前、近鉄勢阪北口駅到着。アフター・ハイキングが楽しみ。どこへ行きましょうか。

野の花讃歌（16）

市川　正次朗

初めて高山に挑戦

高山植物の女王といわれる「コマクサ」に出会ったのは六年前の夏、南八ヶ岳でした。水気の全くない砂礫地に点々と小群落をつくって咲くそのさまは、私にとって衝撃的でさえありました。標高3000㍍近く、冬は零下何十度という厳寒に耐え、夏とて砂塵舞い上がる烈風の中でも、鮮やかにふくよかに花開く生命力は、神秘的という以外何ものでもありません。

私たちにとって、初めての高山への挑戦でコマクサに出会えたのは幸運でした。それまでは近郊の野山、せいぜい1000㍍前後の北山か比良あたりへ出かけ、ただ自然の中に身を置くだけで十分満足していたのですが…。

ところがその年の夏頃、北山の帰りに木屋町の居酒屋で乾杯、異様な盛り上がりのうちにだれいうともなく、「ことしの夏は八ヶ岳だ」と突然決まってしまったのです。

もとより、おじさんおばさんの寄り合い世帯の私たちはリーダーなし、山歴はもちろん山行サークルに加入した経験者なし。自分の足では霊より高く登ったことなしの素人ばかり。それなのに「高山植物をいっぱい見たい」「挑戦も楽しみたい」「こだわり派の玄人のいる山小屋に泊まる」など、山の雑誌の特集のタイトル並みの要望が続出。その一方で「初心者なのだから余りしんどくてはならない」という条件付き。

なりゆきで計画をまかされた私のあれこれ考えに考えたプランだったのですが、今から思えば実にぜいたく、というより焦点の定まらない観光旅行に山をくっつけたようなものでした。初日は白駒池畔の山小屋、翌日は赤岳鉱泉、3日目は硫黄岳山荘、4日目は車山高原のペンションと、宿泊先だけをいえば、ビギナーぶりを推察していただけるでしょう。

コマクサ（南八ツ・硫黄岳で）

もちろん山小屋というところに泊まったのも初体験。白駒池では、あたりのコマンチックさに反してトイレの臭いに悩まされ、赤岳鉱泉では超満員の泊まり客を手際よくさばく若いスタッフに感心することしきり、硫黄岳では水で顔を洗っておやじさんにえらく叱られたり。

しかし、この5日間で出会った花は実に50種近く、そのほとんどが初めての対面でまさに感激の連続でした。八ヶ岳ではコマクサ（白色も）をはじめ、チングルマ・トウヤクリンドウ・ミヤマダイコンソウ・チシマギキョウ・タカネニガナ・ヤツガタケキスミレ・タカネグンナイフウロ・ミソガワソウ・リンネソウ・タカネヒゴダイ・ミヤマツメクサ・ミヤマウイキョウ・コウメバチソウなどなど。谷筋で、雑木林で、森林限界を過ぎてからも、登るほどに次々とあらわれる花たちにずいぶん疲れがいやされました。

もちろん“下界”も花盛りでした。初日に蓼科峠あたり、最終日は車山から八島湿原へ高原ハイク。ニッコウキスゲは花期を終えていましたが、淡紅色の花穂が鮮やかなヤナギラン、薄紫のきざきざ花弁のマツムシソウ、そしてナデシコ、ワリモコウなど初秋の花たちが、透明な空気の中で揺れていました。

京都北山　やぶ漕ぎ痛快山行記（26）

北山の渓谷美ではNo.1の中級コース

アシビ谷遡行と尾越（おこせ）・大見（おおみ）高原（こうげん）歩き

京都北山グループ

2万5千の地形図「花背」を広げると伊賀谷山（△930・7㍍）と哲子山（△971・5㍍）の間を、東の安曇川に流れ込む谷がある。遡行前は足尾谷、京都府側は戸火谷（とびだに）と記されている。

このアシビ谷の遡行は、国道367号線（鞍馬街道）の足尾谷バス停から、京都市左京区尾越の二ノ谷出合までの約6㌔の渓谷歩きである。冬期をはずし、春・夏・秋の好季節には我々北山グループも例会に採用している。明るい渓谷美は北山一を誇るといっても過言ではない。

京阪出町柳駅から京都バス梅ノ木行きに乗車、足尾谷バス停で降りる。左岸沿いの林道をしばらく行くと、右側に伊賀谷山への山道のある足谷が落ちる。これを見送りなおも渓流沿いに遡行する。えん堤がある。関電木戸発電所の取水口で、「このダム付近　急に増水する事あり　注意」の看板が立つ。たぶん発電所で給水停止時の注意看板と思える。

この先で林道は終わり、山道に変わる。左下へおりるアシビ谷への道を振分を渡り対岸へ。左山側にはワリ谷が落ち、この谷沿いに山道があるが、これは仕事道で行き止まりとなる。右岸河原沿いに背丈ほどのハシゴを上がり進むと、I形の丸木橋があり、一人ずつ注意しながら渡る。左岸へ、アシビ谷から離れる山道に「哲子・尾越へ」の道標がある。

アシビ谷の丸木橋を渡る

両側から草が茂っているが、道はよく踏まれ判然として歩きやすい。ただ谷の景観に見とれる時は立ちどまること。左下に古いKRCA小屋が見え、しばらく行くとツボクリ谷へおりる道との分岐。立ち木に「変な木の板札」があり、これは左哲子山へのツボクリ谷コースを示す。分岐を右にとり、アシビ本谷はツボクリ谷と離れ北に蛇

行する。伊賀谷山からフノ坂への稜線がはるか上に見え、左岸沿いに進む。

いよいよアシビ谷の佳境に入る。カジカの鳴き声も響き、小鳥のさえずりとの合唱もこの谷ならではのもの。500㍍ほど進むと右斜面が杉苗植生後期れ、岩肌が露出して道が閉ざされ、7㍍は通過不能。右上へ20㍍の高巻きアルパイトで五本杉巨木の立つ焼き素跡の広場へ出る。この崩壊は昨年の大雨によるものだろう。窯跡付近は小休憩によい木陰。また風の通る涼しい広場を提供してくれている。

この先でアシビ谷は西に流れを変える。右へ北からの支谷が落ちる谷に沿って山道がある。八丁平フノ坂への近道だが、岩の多い涸れ谷になっていて三年前の例会の時に苦労した谷だ。西へ向きを変える所で対岸、右岸へ渡渉する。間もなく岩飛びで渡る危険なところで、靴を脱ぎ水につかって渡渉する。河原には釣り人やハイカーの踏み跡道もあり、所々にテープも付いている。これをたどり溯行すると左上への高巻きとなる。木の根をつかみ、登りきると鎖で岩斜面をおりるという、きょう一番の難所。雰囲気におり、また対岸の左岸への渡渉する。ここも水に入って安全渡渉をする必要がある。こののちは渡渉箇所は無い。

左岸道を渓谷の美しさを満喫しながら進むと2㍍・4㍍・7㍍程の三段の滝が落ちている。この見事な眺めはアシビ谷最高の場所だ。谷を離れ急斜面の高巻き、涸れ沢のトラバースをトラロープの援助で越す箇所もあり、結構スリルもあり油断は禁物のコースだが、谷沿いの樹林は自然そのまま、実に美しい。特に春の緑・秋の紅葉の季節は抜群のアシビ谷である。

最後の高巻き箇所である府県境の岩尾根には春は鶯別のシャクナゲとキバナツツジが群生している。ここも雰囲気におり、雑木林下のゆるいくだり道をたどると京都市左京区域に入り、左上に作業小屋が立つ。もうこの先には危険地帯はない。ルンルン気分の山道。背丈程の笹が出てくるが軽いやぶ漕ぎで苦にならない。八丁平から流れ出る二ノ谷の小谷を飛び越えると、俵坂への二ノ谷林道に出る。二ノ谷を渡った樹林下で食事。大布施のバス時間は17時40分。ゆっくり弁当と午睡をとる。

足尾谷バス停が標高405㍍、二ノ谷出合が標高640㍍。高度差235㍍のアシビ谷溯行はここで終わり、後半は足越・大見への市道（?）地道を岡坂峠へと単調な歩行。しかし大見の三叉路から小野谷峠へは標高600㍍の高原の道。草原の中のひなびた道。一時は大布施から大見へ市道

アシビ谷・大見高原付近略図

バイパスが計画され、大見地区に京都市が青少年スポーツセンターを建てる予定で、大布施側の地権者や安曇川上流の住民の反対で今は工事はストップしている。8年ほど放置されたままで、京都市行政の無計画さを警告している。しかし自然が守られたのはうれしい。

奈良県生駒山と同じ高さの大見高原、ことに日が短くなったころの薄暮、大きな月が顔を出すときの高原歩きは格別だ。690㍍の小野谷峠を越し、ワサビ田試作園の横から林道に出て小野谷口バス停に着く。待つもなし、徒歩5分足で大布施に上布施スーパーがありビールなどでの時間待ちもお好きなように。急ぐ方は無線タクシーで、それでも1時間の待ち。どうせ17時40分には京都バスがメロディーを流しながらやってくる。しかし秋の日は、つるべ落とし考慮して判断しよう。

（平成5年5月6日歩く）

◇コースタイム◇

足尾谷バス停（2・3㌔ 1時間10分）ツボクリ谷分岐（2㌔ 1時間40分）二ノ谷林道（3・2㌔ 50分）大見三叉路（1・5㌔ 35分）小野谷峠（2・4㌔ 40分）小野谷口バス停（合計約11・4㌔ ゆっくり歩行約5時間・休憩食事時間含まず）

◇地形図◇2万5千＝花背
昭文社＝「48京都北山2」

◇アシビ谷のガイド参考書◇

●渡辺芳郎著『北山の道』白堤社
昭和55年発刊

●北川裕久著『京都北山』岳洋社
昭和60年発刊

北川氏のガイド書には鞍馬、沢渕代、読図力のいる熟練者コースと昭和59年の執筆調査、渡辺氏のガイド書は、花背峠から大悲尾根・尾越からアシビ谷を足尾谷バス停へ逆のくだり。私は足尾谷バス停から二ノ谷林道へが、ベター・安全山行と考える。また大雨・豪雨の後は水量で判断してください。甘く考えての油断は事故の元。

○緊急の場合は尾越の「カントリーレーク」（現在下野正義氏）に避難できる。また電話も借りることができる。「尾越カントリーレーク」は075（744）2895

MK無線タクシー
075（721）4141
京都バス
075（791）2181

（記録 出口 憲次）

―［この花・この草］―

ラベンダー（Lavandula spp.）

シソ科

北海道・富良野の七月は一面ラベンダー色に染まります。ローマ時代から浴槽に浸しその香りを楽しんだと言われるラベンダーは、近年、日本でもポプリ・香水・アロマテラピーにと頻用されるようになってきました。

ラベンダーは古代からもっともポピュラーな薬用ハーブの一つでもあり、学名は「洗う」という意味のラテン語「ラ・ヴァーレ」に由来します。原産は地中海沿岸部。花期の終わり頃、花弁の色が褪せはじめた時に花を採取し、小さな束にして社陵に包み乾燥します。

成分は揮発成分・タンニン・クマリン・フラボノイド・トリテルペノイド等を含みます。花の浸剤は神経の消耗・緊張性頭痛・疝痛・消化不良・神経に、乳児のむずかりや興奮には薄い浸剤を飲ませます。ただし子宮を刺激するので妊娠中は多量に用いてはいけません。

ぜんそくや気管支炎による気管支の痙攣には、精油1㎖とカモミールの精油5滴を、オイル基剤10㎖で薄めたものを胸に塗布します。

エリア別徹底研究

近江側から登る鈴鹿の山々 ㊱

ブナ林の続く尾根・永源寺から

堂後谷源流尾根縦走

愛知川の支谷・堂後谷の出合いから北東に突き上げる尾根がある。永源寺の裏山で、自然林がうっそうと茂っている。この尾根に古い道があり、地元の人が秋には松茸を採りにかなり奥まで登ると言っていた。

尾根を踏破して、堂後谷の源流尾根を白鹿背（☆755・2㍍）に回りこみ巡視路をくだったが、里に近く植林が進んではいるが、登りきった852㍍ピークの南端からは、思いがけなくすばらしい展望が得られた。そして下山の巡視路からも右に左に展望が開けた。眼下には広大な湖東平野と琵琶湖が箱庭のように広がって、白鹿背の西斜面には檜もあり、近江の展望台ともいえるすばらしいルートだった。

永源寺の参道の手前の売店の前に車を駐めて9時出発。橋を渡り参道の石段を登ると左の尾根に取りつく石段があり、尾根には集落の墓地が続いていた。山道には縦や松など常緑樹がうっそうと茂っていた。ここは永源寺の裏山で、原生林のような薄暗い森が続き、大きな松の倒木が随所で道を塞いでいた。深く掘れた道には枯れ枝や落ち葉が深々と積もっている。

急坂を登りつめると赤松と雑木の混じった広い尾根になり、道が不明瞭になった。右に切り開きがあり、墨尾山とカクレグラの山稜が望めた。やぶのない所を適当に進むと古い道が現れ、ゆるい登りが760㍍のピークまで続いた。ピークからゆるいくだりにかかり、左斜面は檜の植林、右は雑木が続いた。尾根は切り開きが続き、赤と黄色の杭が打ち込んでありよい目印になった。やぶはないが切り開きにははっきりした道もない。切り株の多い尾根を行くとゆるい登りに変わり、樹間から左右に展望が開けた。右斜面が植林に変わると、右手に日本コバ、そして硯乙岳から鎧岳と続く山稜が望めた。右手眞下はシキロ谷の源流だ。この谷に大きな作業小屋が見えた。この山域の植林はすでに終わっている。下からこの作業小屋に登り、さらに上にのびる林道を探して、日本コバまで登ってみるのもおもしろいだろう。

白鹿背の展望台

さて尾根を登りつめると、日本コバから西に派生している尾根に着いた。

北方に大きく眺望が開けた。北斜面は背丈ほどの植林の中にブナの大木が残されている。尾根もブナ林が続くすばらしい所だ。

左折して白鹿背へと向かう。くだり終わった鞍部からは植林して間がない生え込んだかや原の中に踏み跡を探しながら登りつめると、眺望が一気に開け852㍍ピーク

の南端に着いた。

北方には白い湖北の山々と伊吹山・霊仙山、そして南に続く稜線の端はソノドだ。主峰御池岳は真っ白く樹氷におおわれ、その手前に天狗堂そして藤原岳・銚子岳と続いていた。日本コバの広大な山塊の右にはカクレグラ、その奥は逆光の中にイブネから双耳峰の雨乞岳、清水ノ頭から綿向山・竜王山と続く青い雄大なスカイラインが展開していた。ちょうど眼下で目溜りになっている。鞍を下ろして眺望を楽しみながらゆっくり昼食。

食後、稜線を西にたどると、両斜面は植林に変わったが山頂部は自然林が残り古い道が続いた。北端で道が消え尾根が分かれた。西にのびる尾根の取りつきから、真下の尾根に鉄塔が見えた。鉄塔に向かってくだると古い道が現れ、一気にくだろうとしたが、道は尾根の右斜面を谷に向かっている。うっかりくだってしまうところだった。左にとり尾根上をたどるとやがて古い道が現れた。一部生え込みもあるが、踏み分けて行くと巡視路に出た。

右や左に展望が開け、下刈りされた巡視路をたどると、展望台への道標があった。右は角井峠を越えた林道からこの尾根への道だ。尾根道に次々と現れる道標に従って、右に回り込んで登り、左に回り込んでくだり、登りつめると2等三角点の白鹿背に着いた。

植林と雑木に囲まれ展望は良くない。山頂で道が分かれ、右折して支尾根を5分ちくだると、植林したばかりの斜面に、愛東町が遠くた展望台に檜があった。檜に登ると大パノラマが展開した。眼下には大きく広がる湖東平野に近江富士、愛知川は白い帯となってゆったりと琵琶湖に注いでいる。ぼんやりと広がる琵琶湖の先には、南から比叡山・比良山系・湖北の山々と続いていた。眺望を楽しんでから白鹿背に引き返す。

右折してゆるいくだりをたどると、送電線は尾根を斜めに越え、湖東平野におりていた。巡視路は右に回り込んでくだり、707㍍に向かって登ると、さらにその先に道は続き、コブを一つ越えて右に曲がると、切り開きの急斜面の眼力に湖東平野が広がっていた。中腹の鉄塔に向かって急な黒いプラスチックの階段が続いた。

赤松のすばらしい林をくだると林道終点に着いた。左手に大きな鉄塔が立ち並ぶ関西電力東近江開閉所まで林道をくだった。道路を左にとり開閉所の下を通って永源寺に向かう。（平成7年1月5日歩く）

☆コースタイム☆

永源寺（1時間30分）760㍍（1時間10分）日本コバ西尾根（10分）852㍍（1時間）巡視路（50分）白鹿背（25分）展望台往復（1時間10分）林道（1時間20分）永源寺

◇地形図◇2万5千＝百済寺・日野東部

昭文社＝「44霊仙・伊吹・藤原」

（岩野　昭）

エリア別徹底研究

近江側から登る鈴鹿の山々 ㊲

シキロ谷源頭の尾根を行く

日本コバ新ルート

主峰御池岳から近江側に派生する長大な尾根は、鈴ヶ岳からミノガ峠・天狗堂と続き、筒井峠から高度を上げ、日本コバの山塊へと至る。

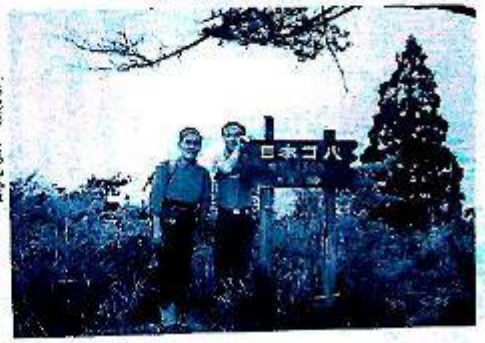
近江側に大きく張り出した日本コバは、植林が進み特徴のない山の塊に見える。しかし西東に約3キロ続く長大な山頂部には深い樹林が続き、標高1000㍍を切る山とは思えない深山幽谷の趣がある。そして近年、三角点のある山頂部は赤松を五、六本残して伐採されて、大きく展望が開けた。シキロ谷から登る古いルートはほとんど消えているが、このルートにかわる最短の自然林が続くすばらしいルートを発見した。

永源寺の「もみじ荘」の駐車場に車を置く。駐車場入り口に道標があり、自然観察コースの遊歩道を谷におりる。谷で水を確認。対岸の山に向かって遊歩道が続く。永源寺集団施設地区深夢坂道と書かれた大きな案内板の横を通り、登りだすと道が分かれた。右にとると、雑木と赤松が茂る山腹にゆるい登りが続いた。落ち葉を踏む音と時々小鳥の声を聞くだけの落ち着いたすばらしい道が続き、笠松尾根に着く。左折して尾根の踏み跡をたどると、鞍部で道が消えるが、急斜面を登ると踏み跡が現れた。

尾根は植林が続き、やぶもない。ゆるい登りから一つのコブを過ぎると、左は谷の源頭で炭焼き窯の跡がある。あたりはまっすぐ大きく育った樹林がある。

登ると赤松の大木が茂る広い尾根に変わる。右斜面は檜の植林で、最近下刈りされ展望が得られる。登りつめると、さらに大きく展望が開けた。

正面左に笹の緑が鮮やかな竜ヶ岳そして三池岳・釈迦ヶ岳・雨乞岳・綿向山が、その手前には太郎坐堂・黒尾山・カクレグラと続いていた。天気が良ければすばらしい紅葉が見られるだろう、長り空が残念だ。真下には永源寺ダムと菅尾・佐目の集落が望めた。



日本コバにて

ゆるい登りをたどると、赤松の茂る尾根に変わった。右は下刈りされた植林が続き、登りつめると日本コバの南の広い台地に着いた。紐とテープの印をたどり、左にとると巨樹林の中に踏み跡が続き日本コバの山頂に着いた。

広い山頂は赤松を残して伐採してあり、大きく展望が開けた。左には鬼鈴鹿の名峰が並ぶ。釈迦ヶ岳・御在坊岳・雨乞岳・綿向山と続く青い山並み、そして湖東平野が扇状に広がり霞の中に消えている。中央に近江富士（三上山）も望めた。右は霊仙山と御池岳だ。

ゆっくり眺望を楽しんだのち、西北にのびる尾根をたどる。自然林のゆったりとした平坦な尾根は、古いテープと紐の印そして踏み跡がどこまでも続いていた。風を避けられる適当な窪地を見つけ昼食。食後、平坦な稜線をたどる。

標高1000㍍を切る山とは思えない深山の雰囲気が漂う樹林の中に、笠林署の赤い杭が続いていた。ゆるいくだりから右に回り込んで登ると、古い道標が現れ道が分かれた。日本コバまで1キロと書いてある。左はシキロ谷におりる道だ。平坦な道を直進すると又道標が現れ、尾根が分かれた。日本コバまで1・5キロと書いてある。戦後、愛東町が整備した新開道の道標のようだが、今では人の通ることはなさそうである。左にとると植林の尾根に変わり、赤い杭と踏み跡が続いた。ゆるいくだりをたどると、植林の中にかや原が広がり、その先に880㍍のピークが望めた。右に展望が開け、湖北の山々から伊吹山・霊仙山・御池岳・藤原岳と続いていた。右に広がる斜面には植林の中に白いススキが波打っていた。登りつめるとゆるいくだりになり、右斜面の中にブナの大木が切らずに残されているが、植林の中のブナは生彩がない。以前に付けた赤いテープの印が現れると、尾根の分岐に着いた。左の切り開きをおりる。切り株の多い尾根には赤い杭が続き、細尾根に着くと左に展望が開けた。直下にはシキロ谷が深い切れ込みを見せ、日本コバへと突き上げている。今日歩いて来たルートを確認する。

右斜面が檜の植林に変わると、しっかりした古い道になり、下刈りと枝打ちされた植林からは右に展望が開けた。ゆるいくだりから登り返すと雑木が茂る広い山頂に着く。この山頂で尾根が分かれる。注意しながらたどると、左に赤いテープの印が現れ、尾根の分岐に着いた。左折して大きく茂る樹林の中、左手に大きなヌタ場が現れた。その横の倒木には白く泡をこすりつけた跡が残っていた。南に向かって進むと、古い道が現れ尾根に乗った。尾根が消える所もあるが、一気に南に向かってくだる。広い斜面になり道がけもの道と交差、ここで少し迷ったが、そのまま植林の中を直降下すると、古い道が現れシキロ谷の林道に出た。

（平成7年11月9日歩く）

※コースタイム※

もみじ荘（35分）笠松尾根（1時間）炭焼き窯（35分）日本コバ山頂（40分）道標・5キロ分岐（30分）尾根分岐（1時間10分）尾根分岐（50分）もみじ荘

＜地形図＞2万5千＝百済寺・日野東部
昭文社＝「鈴鹿・伊吹・霊仙」

（岩野　明）

エリア別徹底研究

近江側から登る鈴鹿の山々 ㊳

藤川谷源流尾根を行く

日本コバ・衣掛山

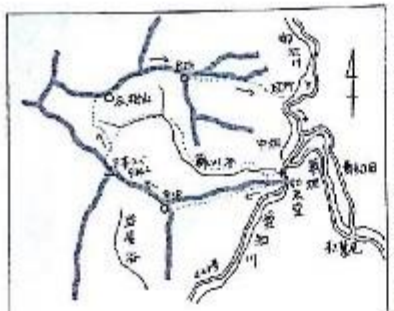
日本コバは如来堂から藤川谷を登るルートが一般的だ。日本コバから南東に派生した尾根は、838㍍から高度を下げ如来堂で消える。この尾根には自然林がかなり残り、常緑樹の赤い杭が山頂まで続いている。古い道が残っているが、838㍍の最後の突き上げで一部道は消える。樹林の中はどこでも登れる。日本コバの山頂部の南斜面は檜の植林で近年下刈りされ、すばらしい眺望が得られる。そして838㍍のピークには大きく茂る樹林の中にヌタ場がある。人が全然入らないこの山域は動物たちの縄張りだが、人に向かってくる動物はいないので鈴はいらない。歩く道のすぐ近くから、猪・カモシカ等がドドドドドッと跳び出して行く。

如来堂の手前の道路脇に車を停める。4・2ヒ線を進み日本コバの道標を確認して左に登る。うっそうと茂る杉林を左に注意しながら行くと、杉林の中を登る軌道が現れた。この道を登り尾根に出ると右折して尾根道を登る。杉林を抜けると左は雑木、右は植林で展望が開ける。急坂の尾根の登りには赤い杭が次々と現れた。右下には藤川谷の朝日を受けた紅葉の樹林が明るく広がり、日本コバに突き上げている。この谷の上に向こうの尾根まで太いワイヤーロープが張ってある。その尾根に登ると、縦の大木に固定してあるワイヤーロープが幹に深く食い込み、白い帽が根元まで垂れているが、木は青々と茂っている。そのうちにワイヤーロープを幹の中に取り込んでしまいそうだ。

ゆるい登りをたどると雑木の尾根に変わった。古い道には赤い杭がどこまでも続いた。道が消え急斜面の登りに変わると、左斜面は下刈りされたばかりの檜の植林で後方に展望が開けた。急斜面の樹林の中をジグザグに登る。左の植林で後方に開けた眺望を楽しみながらひと休みする。左には檜の緑と山腹に白ハゲを見せる雲ヶ岳、そして釈迦ヶ岳・銚子ヶ口・雨乞岳・綿向山と続き、その手前は岳・不老堂・墨尾山・カクレグラ、真下は永源寺ダムだ。

岳より日本コバを望む

838㍍の山頂が近づくにつれゆるい登りに変わり、松や杉の大木がぽつぽつと現れ、広葉樹林がうっそうと茂る838㍍の山頂に着いた。台地状の広い山頂には往地があり大きなヌタ場になっていた。尾根には赤い杭がどこまでも続き、ゆるい登りをたどると細尾根に変わった。左は宮屋谷に向かってストレートに落ち込んでいる。右は原生林を思わせる深い樹林が続いた。ゆっくり歩いていると右側方にカモシカが右下の谷に走りくだり、途中で止まって見上げている。手を振っても逃げない。尾根が広くなり、左斜面の下刈りされた植林に出ると、大きく展望が開けた。逆光の中に鈴鹿の山々が背から薄青の山並みを連ねていた。



日本コバ・衣掛山付近略図

真下に見える永源寺ダムは水量が半分以下に減ってはいるが、さざ波を立てキラキラと輝いていた。

右が馬酔木の群生の登りに変わり、境目をたどると白樺林の広い台地、笠松尾根分岐に着いた。テープと紐の印を追うと間もなく日本コバ（838・2㍍）の山頂に着いた。山頂には約20名の人たちが食事中だった。私も展望を楽しみながら昼食。

復路は一般登山道をくだって、途中の分岐から左に衣掛山に向かう。近年このルートを歩く人もいるようで、テープと紐の印が続き、尾根には赤い杭も続いていた。右には全山紅葉した日本コバの広大な山頂部が明るく輝き、左には植林の間から湖東平野と琵琶湖が霞の中にぼんやりと広がり、霊仙山・御池岳と続いていた。ゆるい登りをたどると、雑木におおわれた狭い衣掛山の山頂に着いた。うっかりすると通り過ぎてしまいそうなこの山にだれが衣を掛けたのだろうか？　風情のある山名のわりには物足りない山だ。ゆるいくだりは次のピークで尾根が分かれ、右にくだるとすぐ道が消えた。迷っていると山腹に紐の印があり、山腹を巻いて尾根に乗ると、しっかりした古い道が続いていた。急坂のくだりからうっそうと茂る薄暗い杉林の中の道を抜けると、政所の集落に着いた。

（平成7年11月12日歩く）

△コースタイム▽

如来堂（10分）尾根（1時間）838㍍（40分）植林展望尾根（25分）日本コバ（20分）分岐（35分）衣掛山（1時間）政所（20分）如来堂

△地形図▽2万5千＝百済寺

昭文社＝「44霊仙・伊吹・藤原」

（岩野　明）

リュックザック製造販売

夏山・お花畑・雪渓・山小屋

いい汗、ながそう。

応援します。あなたの山登り

汗対策のスチッグザックで

快適な山登りを……

・定番ザックに飽きたら……

・登山用品のことならおまかせ下さい。

神戸ザック

オリジナルのパンフレット御希望の方は

〒200円同封して下記まで。

神戸市長田区大橋町9丁目3－1

〒653 TEL（078）621－5851

FAX（078）621－3526

エリア別徹底研究

近江側から登る鈴鹿の山々 (39)

佐目小谷遡行

姫ヶ滝

永源寺ダムに直接注いでいる佐目小谷は、西は黒尾山から銚子ヶ口山系、東はカクレグラからダイジョウと1000㍍近い稜線の間にV字形の深い切れ込みを見せ、南西に延々と藤頭の佐目峠・イブネへと続く。里に近いが、谷筋は自然がいっぱいのすばらしい渓谷だ。以前は谷に古い道があり登る人もいたが、現在は道はほとんど消えている。この谷の支谷ハチノス谷との出合いに姫ヶ滝がある。女性の持ち物に似ているから姫ヶ滝という名が付いたとのことだ。夏の暑い時期には、気軽に渓谷歩きが楽しめる。久しぶりに佐目小谷の遡行を楽しみ、姫ヶ滝に登ることにした。

永源寺ダムの横、421号線を進むと、右に深く切れ込んだ佐目小谷がある。佐目橋の手前で右折して佐目小谷林道に入る。入り口に山ノ神の石碑が立っていた。林道終点の広場に車を駐める。

谷に沿って左岸に古い道がある。登りだすとすぐ、岩の下に小さな石仏があり花が供えてあった。以前はこの佐目小谷から御念明神（お金ノ塔）に登る参道があり、その名残が現在も佐目の集落にあるようだ。石仏の上で道が分かれ、左折して河原におりる。河原で地下タビに履き替え急流を登る。黄黒い大岩の間を急流が瀬をつくり、白い飛沫を上げながらゴウゴウと流れ落ちている。なるべく濡れないようにと心掛けるが、ヒザ・モモと濡れてくる。水は意外に冷たい。急流の遡行が続くうち、ついに冷やりと一物が水に浸かってしまった。私は姫ヶ滝に行くのだ、下の方もしっかり清めようと覚悟を決めた。

登りつめると扇状に開けた平坦な広河原に着いた。この谷に入るのは久しぶりだが、以前とは全く変わっていた。谷は荒れ、左岸の古い道はほとんど消えている。大量の土砂が谷全体を埋め、流れは消えて伏流になっていた。荒涼とした広い谷の右岸は、谷底から黒尾山の稜線へと深い樹林が続い角度で迫り上がり、左岸も自然林の急斜面がカクレグラの稜線まで続いていた。里に近い谷だが、アルプスの谷を歩いているような気分だ。谷が狭くなると伏流に水量も増え、右岸に垂直にそびえる烏帽子山が現れた。この岩に登った人がいるようで、ザイルが一本取り付けてあった。ここから上流左岸には、以前は木馬道が続き渓谷の中にすばらしい風情を見せていたが、跡形もなく消えていた。

姫ヶ滝

拝坂尻に着いたが、道も谷も荒れ以前の面影はなかった。拝坂尻のすぐ左の急斜面には、おおいかぶさるように岩峰がそびえて、以前から少しずつ崩れていたが、昨年の大地震と豪雨で一気に崩れ落ち、岩峰の大崩壊が始まっていた。見上げると、今にも崩れそうな垂直の岩壁が赤茶色の地肌を見せ、大岩と土砂が谷を塞いで山になったのかと思われるほどだった。その間を急流が走っているが、そのうちこの谷は埋めつくされそうな感じだ。急いでその下を通過すると大岩の続く落ち着いた渓流に変わり、左に流の音が聞こえてきた。ハチノス谷の出合いも大岩が続いていた。左にとり、大岩を乗り越えると姫ヶ滝の滝壺に着いた。

姫ヶ滝と佐目峠

左上方約30㍍の所から切り込まれた岩壁の間を、右から左に滝布が白く輝きながら一気に滝壺へと落ちていた。滝が落ち込む裏側の岩壁は、左右とも深く抉りとられ、お尻のような感じだ。さすが姫ヶ滝である。写真を撮り、くつろいでいると滝からの冷たい風が心地よい。

少しくだるとすぐまわりに岩と木蔭がある大きな瀬があり、ここでゆっくり休むことにした。濡れついでにパンツ一枚になり淵に飛び込む。震えあがるほど冷たいが最高に気持ちがよい。休の汗を流してから、ゆっくり昼食。夏の沢歩きでこれをやりだしたらやめられない。谷はヒグラシの大合唱、そして渓風が吹き抜けてゆく。いつまでもゆっくりしていたい所だ。しばらく泳いで休を冷やしてから、暑い左岸の古い道をたどってみたが、道は半分以上消えていた。大河原からも古い道をくだる。何とか辿り跡があったが、最後の所で木の橋が落ちていた。谷におり、すぐ谷の取りつき点に着いた。

まだ14時前、下界は一番暑い時間だ。涼心に返って再び水浴びを楽しんでからくだった。

（平成7年7月29日歩く）

△コースタイム▽
佐目小谷林道終点（35分）広河原（10分）烏帽子山（1時間）姫ヶ滝（1時間20分）林道終点

△地形図▽明文社＝1/45御在所・鎌ヶ岳」

（七野　明）

登山情報など、投稿募集中!

登山・ハイキング
バス時刻表

新創刊!

近畿版 96夏秋号 好評発売中

JR用時刻表には掲載のない路線も多数収録
登山道に通じる停留所をピックアップ
登山・ハイキングファンのためだけの時刻表です
三重・滋賀・奈良・和歌山・京都・大阪・兵庫の2府5県をカバー

関東版 96夏秋号 好評発売中

東京・埼玉・神奈川・静岡東部・山梨・栃木西部・群馬・長野中央部を収録!

「関東版」「近畿版」ともに書店や有名スポーツ店で発売中!
ご注文の際は関東版か近畿版かをご指示下さい

関東版・近畿版とも B5判 定価1200円 税込
書苑新社 tel.03-5285-7445

近世の古道を歩く②

旧東海道（関～亀山～庄野）16キロ

①JR関駅～東の追分～②野村の一里塚～③亀山宿・亀山城跡～④和田一里塚～⑤川俣神社～⑥庄野宿～⑦白鳥塚古墳～JR加佐登駅。

中村敏文

① JR関駅～東宿東の追分（鈴鹿郡関町）

関駅から旧東海道の木崎の町並みを行くと伊勢別街道との分岐点、もと伊勢神宮の一の鳥居を移築してある東の追分につく。東側の小高い丘に常夜燈が残され、一里塚跡の石碑と道標がある。「右さんぐう道　左江戸道」の道標どおり関宿東はずれを行くと、亀山市小野町で国道1号線に入る。すぐに右へ分岐してJR関西本線を横切り、左手に鈴鹿川が流れる水田地帯を行くと、鈴鹿川を渡る名阪国道の亀山大橋を目の当たりに見て、鈴鹿川に流れ込む椋川に架かる、少し南へ移動した鈴鹿川橋を渡る。

橋を渡り大岡寺町を鈴鹿川沿いに1キロも行くと、再び関西本線と1号線を横切り、落針の集落を抜け布気町へ入る。昼寝観音を過ぎると、右手の森が布気星神社で、東の追分から小1時間、小休止のできるけっこうな旧村社である。式内の布気社は野村の忍山神社、式内の忍山社は合祀前の野村にあった皇館神社をあてる説が有力である。

② 野村の一里塚（亀山市野村町）

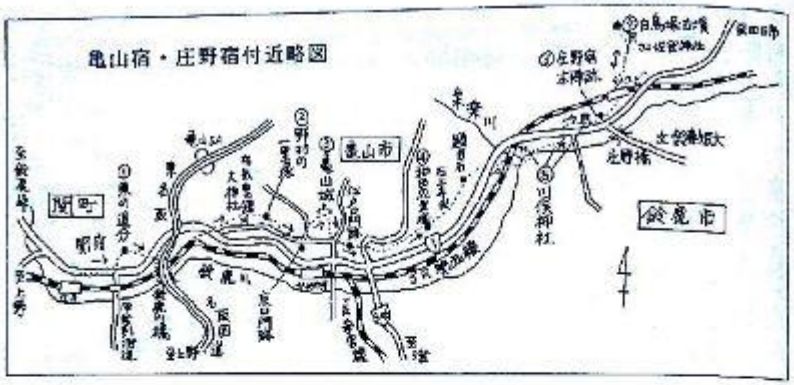
布気神社から1キロ、野尻の集落を抜け野村の街道を行くと、国史跡指定の野村の一里塚がある。慶長九年（1604）に関城主の関一政が築いた一里塚も、樹齢三百年と推定される椋の木がある北側の塚だけが残り、南側の塚はすっかり消滅している。昔はそこに立派な塚があったらしい。車からおりた四人連れが一里塚をバックに記念撮影をしていた。

野村の一里塚

③ 亀山城跡と亀山宿（亀山市中心部）

一里塚から北野町・南野町の境を1キロ行くと亀山の京口で、関宿から一里半（約6キロ）、東海道筋に京口門跡の石碑が立っている。

京口から東海道を離れ、西丸町の西側沿いに北へ上がると亀山城跡へつく。天正十八年（1590）に岡本宗憲が築城した平山城で、鈴鹿川北岸台地の自然地形を利用して、鉄砲攻撃にも対処できるように考慮



されていた。

関ケ原の合戦で西軍に味方して自刃した宗薫の後に関一政が入り、以後城主の交替が続いた。そのつど城は修築され、幕末には石川藩五万石であった。その城も明治初年に大部分が壊され、木綿段通製造の授産所になった多聞櫓が残された。

現在の亀山城跡は市役所・小学校など公共施設を集め、市内を一望出来る城跡公園として整備されている。また西北側の西町・野村町の丘陵にも公共施設が集まり、古い亀山公園となっている。

城跡公園を一巡して家老加藤家の門・長屋・土蔵を保存してある資料館を見学し、大手筋の石井兄弟仇討の石碑を見た後、亀山宿の西口へ戻る。東海道は京口門から城下町らしい曲折した道筋で西町から東町へ

亀山城多聞櫓

通じ、江戸口門跡から北へ折れ本町筋を東進すると、巡検街道と本町はずれで交差する。

亀山宿は庄野宿へ二里約2キロ、宿場を構成していた西町東町はすっかり近代化し、宿場の名残のある古い建築物などは東海道筋には見当たらない。近世には問屋が西町と東町に置かれ、公用輸送に交代で当たっていた。本陣の樋口家と脇本陣の清屋は東町にあり、旅籠・遊女屋・酒家などが軒を並べていたという。

④ 和田一里塚跡（亀山市和田町）

巡検街道を横切り1キロ行くと、一応整備された和田一里塚がある。惜もいつしか切り取られ近世の遺跡らしさはないが、野村の一里塚から一里の地点である。

一里塚から右上寺・幸福寺前を通り1キロも行くと国道と合し、すぐに左折して東北へ向かうと川合町で題目石がある。東海道筋の刑場に供養碑建立を発願した日蓮宗信者の谷口法春は、元禄八年（1695）に妻子を伴い京を出発し、元禄十一年（1697）に江戸に到着している。現存する供養の題目石は、三雲・関・川合・江尻・品川・千住の六基である。

川合町北はずれの西蓮寺前から左折して国道を横切り、近世には海蓮寺前だった井田町に入ると、昭和四年（1929）開設のJR井田川駅前へ出る。

⑤ 川俣神社（鈴鹿川中流域に五社）

井田川駅の北側を大回りして関西本線を横切ると鈴鹿市域で、小田町の地福寺前をさらに東進すると和泉町に入り、鈴鹿川に面して大穴牟遅命をまつる川俣神社がある。安楽川（和泉川）の和泉橋を渡ると西富田町で、安楽川に面してもう一つの川俣神社がある。

川俣原　逆の祖先大比古命を祭祀した式内の川俣神社に比定される社は、鈴鹿川の中流域に五社、上流域に一社あり、いずれも川俣神社と称するが、確たる証拠はない。

中富田町に入り常念寺前を過ぎると、右側にも川俣神社が鎮座する。式内の川俣社の最有力候補で、祭神に大比古命の名もあるが、江戸時代は八王子社と呼ばれていた。

近世の小田・和泉・西富田・中富田は安楽川の川付村で、東海道の安楽川渡しの人足入用時には、人足確保の義務があった。

庄野宿

⑥ 庄野宿（鈴鹿市庄野町）

中富田の南は安楽川が鈴鹿川に合流する地域で、東海道は波川原・庄野と鈴鹿川の北岸を東へと続く。真福寺を過ぎ波川原町の東はずれにさしかかると、鈴鹿川の波川原橋の架橋で東海道が寸断され、道筋は国道をくぐり北へと大きく迂回して庄野へ入る。

庄野宿は亀山宿と石薬師宿の間の宿で石薬師までわずか3㌔しかない。芥川の東岸に1㌔たらずの街村が続く。川俣神社を過ぎると宿場の中ほどに、本陣沢田家跡碑が庄野公民館に、その南隣に脇本陣の植家が並び、北へ六軒置いて問屋場が設置されていた。明治以降、急速に宿場はさびれたが古い街村はよく残っている。宿場南部の川俣神社も式内社というが、もとは芥川対岸の里中にあり貴船明神と呼ばれていたが、元禄期に古屋敷に移った。明治初年に川俣神社となり、明治末に現在地へ移り大国神社を合祀する。

⑦ 白鳥塚古墳（鈴鹿市加佐登町）

庄野の北はずれから関西本線を横切るとすぐに加佐登駅へ着く。加佐登神社往復は駅の北側で東海道と離れ3㌔余り。神社の北側に大小七基の白鳥塚古墳群がある。東西78㍍、南北60㍍、高さ13㍍の円墳が日本武尊の墓と伝承される第一号墳で、二段構築の墳は石で葺かれ、三重県最大級の円墳として県指定史跡である。本居宣長が日本武尊墓として有力視したが、現在は亀山市川崎の王塚を指定している。

登山に必要なものは、
国産・舶来
すべて揃っています。
足にピッタリ！
登山靴のことならお任せ下さい。
（定休・火曜日）
〒604 京都市中京区丸太町通堀川東入
☎〈075〉211-5708
FAX〈075〉231-0316
山とスキーの専門店
京都 ムラカミ

９６北アルプス山岳スキー協会；Shangri- La Tour

▲日本百名山

J1～10　白馬岳アルプス登山【2日間】　¥28，800-　3食付
①7／20　②7／28　③8／3　④8／9　⑤8／11
⑥8／17　⑦8／24　⑧8／31　⑨9／14　⑩9／21
(1)白馬駅前／北アルプス総合案内所7：00集合・出発＝猿倉‥白馬尻小屋‥大雪渓‥お花畑‥白馬岳頂上：白馬山荘【泊】(2)‥白馬岳▲2932m ‥三国境‥小蓮華山‥大池山荘‥乗鞍岳‥天狗原‥栂池自然園＝＝＝＝塔の森＝＝＝＝栂池高原＝白馬駅前16：00頃解散

H1～7　白馬三山（白馬岳・杓子岳・鑓ケ岳）縦走　¥36，800-　3食付
①7／20　②7／27　③8／4　④8／10　⑤8／17　⑥9／14　⑦9/21
(1)白馬駅前／北アルプス総合案内所6：30集合、出発＝猿倉‥白馬尻小屋‥大雪渓‥お花畑‥白馬岳▲2932m往復‥白馬山荘【泊】(2)‥杓子岳（巻道）‥鑓ケ岳‥大出原（お花畑）‥鑓温泉小屋【泊】(3)‥双子岱‥猿倉＝白馬駅前13：00頃解散

G1～8　唐松岳　&　五竜岳【3日間】　¥37，800-　6食付
①7／27②8／3③8／10④8／17⑤8／24⑥9／7⑦9／14⑧9／21
(1)白馬駅前／北アルプス総合案内所9：30集合、出発＝とおみ駅＝＝＝＝アルプス平駅‥地蔵の頭‥大遠見山‥白岳‥五竜山荘【泊】(2)‥五竜岳▲2814m往復‥大黒岳‥唐松岳往復‥唐松山荘【泊】(3)‥丸山‥八方池‥黒菱平＝＝＝＝兎平＝＝＝＝八方駅＝五竜とおみ（エスカルプラザにて入浴、昼食）＝白馬駅前14：30頃解散

H13　今井　通子さんと歩く白馬岳トレッキング　¥29，800-　4食付
8／7〔土〕～8〔日〕　白馬駅前／北アルプス総合案内所8：00集合

H13針ノ木岳・蓮華岳～鳴沢岳&鑓ケ岳　8／10～12　¥40，800-　6食付
H14白馬岳▲～雪倉岳～朝日岳ブラッディオッサンズ　8／10～13　¥43，800　白馬山荘待宿利用
H23剱岳▲・風吹大池～蓮華温泉　10／10～13　¥42，800-　8食付
H30　上高地～涸沢～奥穂高岳▲3日間　7／19～13回出発　¥32，600-　4食付
H32　上高地～槍沢～槍ケ岳▲4日間　7／19～13回出発　¥45，800-　6食付
H33　燕岳～常念岳▲～蝶ケ岳4日間　7／19～10回出発　¥47，000-　6食付

■大阪・京都・名古屋～白馬・上高地の交通機関のご案内：
◇急行ちくま63／大阪22：33＝＝＝京都23：11＝＝＝名古屋　レ　＝＝＝松本4：58
◇急行くろよん／大阪21：42＝＝＝京都22：12＝＝＝名古屋0：50＝＝＝白馬5：59
◇特急しなの22／白馬14：40＝＝＝名古屋18：05＝＝＝<新幹線>＝＝＝京都・大阪
△直通バス：Highland Express　片道　¥8，000-　料金UP出発日あり
栂池高原12：25→白馬B12：55→京都　→大阪20：30
栂池高原18：35→白馬A19：05→京都　5：00→大阪　6：00

A21：30→　22：30→4：50→5：30→5：55→6：00

大阪	京都	新島々	徳本峠入口	大正池	上高地
A19：10	18：10	13：10			12：00
B21：00		14：40			13：30

※資料請求の方は、ハガキ又はFAXにて　要、住所、氏名、ﾌﾘｶﾅ、生年月日、血、男女、『新ハイキング関西版29号』とご記入下さい。96総合パンフ（無料）をお送り致します

〒604 京都市中京区烏丸通御池上ル　☎211号
御白馬館グループ　／　北アルプス総合案内所　担当：岡本

〒100　東京都千代田区有楽町1-10-1　有楽町ビル8-1
☎03（3214）6095　Fax03（3201）0626

文学歴史探訪ハイク ㉙

女人大峰・稲村ヶ岳

松永恵一

女人道場

刈り取った稲を積み上げた、稲むらの形から名付けられた稲村ヶ岳（1723・9m）は、昔から雨乞いの山として知られ、岩峰・大日山の山頂にまつられた大日如来は信者の信仰が篤い。奉納された剣状の銅製品がそれを物語っている。

シャクナゲの美しく咲き匂う、この美しい山も、長く女性の入山を閉ざしてきたが、戦後になって解禁された。禁制の根本は女性蔑視ではあるまい。古来女性の神秘な霊力を長師するゆえのタブーと考えてよいだろう。

洞川龍泉寺（曹洞宗醍醐派）には「稲村ヶ岳女人道場」の看板が掲げられ、この山で修行した女性行者には、龍泉寺から先達免許状が与えられる。

洞川には古くから女性に彩られた聖地が多い。役小角と母公「白専女」の伝承を今に伝える「母公窟」。白蛇の化身である女性が自らの眼の玉でわが子を育てたという龍泉寺の竜ノ口伝説。芝能の里・天河弁財天社などは、特によく知られている。

心のやすらぎを求めて旅をすると、そこには修験道はなやかなりしころの遺跡がある。美しい大自然ばかりでなく、信仰と歴史と宗教文化に裏打ちされた、奥行きの深い神秘な世界がある。

夏には林間学校の子供たちが男女に分かれて、男の生徒は山上ヶ岳に登り、女生徒がその隣の稲村ヶ岳に登るのはまたとない美しい民族の行事であり、山の叙事詩だ。

オオヤマレンゲ『牧野日本植物図鑑』

洞川の植物

洞川は標高820m、高山の雰囲気を持った山と水があり、夏でも涼しい所である。植物の垂直分布でいうと山地帯に属するので、ブナなどの広葉樹を中心にモミやツガなどの針葉樹が分布する。モミは直不動鍾乳洞近くに純林を作る。

洞川は林業が盛んなため、人工の林が多く自然の林は少ない。日本三大美林の一つに数えられる吉野杉は、まっすぐで節がなく、その質の良さは昔から高く評価されている。こうした杉や檜などの良材に恵まれていたため、洞川も曲物や割り箸の産地として知られる。

稲村ヶ岳や山上ヶ岳の山頂付近には亜高山帯の植物や岩場特有の植物も見られ、稀

知る機会である。

夏、山々の緑は濃くなり、道ばたにはオカトラノオ・タケニグサ・ヤマオダマキなどたくさんの花が咲き競う。林の中でもウバユリ・ギンバイソウなどいろいろな花が到る所で目を楽しませてくれる。山道の木の枝には、白い模様の入った葉を持つマタタビがからみつく。「ねこにまたたび」のまたたびである。

稲村ヶ岳や山上ヶ岳の山頂近くでは、オオヤマレンゲやツクシシャクナゲなどが咲く。純白の花びらをつつましくつつましく咲かせる「オオヤマレンゲ」は、大峰一の名花だ。「天女の花」ともいわれるこの花は、明治に植物学者、白井光太郎博士が発見し、昭和三年に国の天然記念物に指定された。

ちくれん科の落葉樹で、幹は直立しないものが多く、まばらに太い枝を分岐する。葉には長さ3cmほどの柄があって、互生し、広倒卵形で先端は短く突出し、長さ9～15cmになる。表面はなめらか、裏面に粉白色の白毛が密生する。初夏、枝先に径5～7cmの芳香をもつ白色の花が下向き、あるいは横向きに開く。花びらは倒卵型で6～9枚あり、雄しべは鮮紅色で、がくは淡紅色を帯びる。

坪内逍遥『役の行者』

坪内逍遥の戯曲『役の行者』は、明治・大正の戯曲界を通じての代表作と激賞される壮大なドラマである。逍遥のこの作品は大峰山信仰の祖とあおがれる役小角の伝説を素材に構成されており、古代的な霊妙不可思議を作中に取り込んではいるが、その古代性・伝奇性によって逆に、主人公の行者に仮託された近代的主題がくっきりと浮かび上がってくるような印象を与える。

『役の行者』は大正九年（1920）にフランスに留学中の吉江喬松博士によって仏訳され出版された。『レルミット』（仏語訳名）は大変な反響を呼び、フランスの代表的詩人アンリ・ドゥ・レニエは新聞「フィガロ」の日曜版で「『レルミット』は偉大なる光景を視る象徴劇である。行者は即ち自然、言ひ換へれば外部世界を勝伏して、最大の自我に到達し、宇宙の深奥意識を捉へんとする力を象徴してゐる」と最大級の賛辞を示した。またアンリ・ビドゥウは新聞「デ・デバ」の月曜文芸付録の企画欄を、この紹介と批評にあてた。

逍遥の義経劇・坪内十行のことばで、作品の梗概を見ておこう。

作品の大体の筋は、文武天皇の頃、大和国大峰の山中で人倉に雷をなす魔王一言主を大樹の木の股に呪縛し、なお一心に修行を続ける役の小角の庵へ、遥々京都から尋ねて来て弟子入りした広足が、師の不在中に禁ぜられていた魔所をのぞいて一言主の呪を受け、危うく命を失なおうとしたのを、里の媼らに助けられる。一方、呪縛せられた一言主は、怪であり妻でもある魔女の手から赤子の生血を絞り吸わせられて、吠え哮える。他行から帰った行者は広足を破門し、魔女の誘惑を一喝一声の下にしりぞけ、老媼を人質としての言葉の圧迫に屈せず、遂に身を大石の下に粉砕するが、彼の「力の数え」は、遥く添う白雲さながらに仰ぎ作される。

逍遥はこの作品の題材について、次のように述べている。

「（略）多く学者の空想である。即ちこの作は史蹟にも、故実にも、実際の地理にも少しも拘束される所のないものだと承知せられたい。」

逍遥はどうも山上ヶ岳を知らないままに執筆した節がある。第一幕二場の農家を洞の辻に設定しているが、洞の辻は大峰山系の稜線にあたり、標高1600mのあたりで、とても農業の営める地形ではない。

稲村ケ岳（山上ケ岳より望む）

コース概観

今回のコースは、大峰登山口・洞川の南に位置し、女人禁制で名高い山上ケ岳から西へのびる大峰支線の名峰「女人大峰」と呼ばれる稲村ケ岳に登る。登山道は赤井五代松・熊次郎父子が苦労して開いた五代松新道。法力峠を経て山上辻に出、稲村ケ岳の本峰である大日山に登り、さらに御殿屋敷の別名のある立派な展望台が設置されている稲村ケ岳に登る。

近鉄吉野線の下市口駅で下車。駅前から奈良交通バスの洞川温泉行きに乗る。9時15分発。終点の洞川温泉には10時44分着。

洞川は、北緯34度15分、東経135度57分、標高820㍍の聖地。日帰りは無理なので、稲村小屋か洞川の旅館で宿泊することになる。

聖宗寺にお参りし、登山口に向かう。家並みの途切れる頃、稲村ケ岳の道標を右に見て、山上道と別れる。この道が五代松新道。赤井父子が昭和五年から十一年までかかって開いた道。この道が別かれるまでは法力峠の東方を急登しなければならず、簡単に登れる山ではなかった。今なお赤井のおやじさんが道を整備されているのに出会う。五代松鍾乳洞を右に見る。時間が許せばぜひ見学したい。山上道から鍾乳洞まで急登する道もある。

蛇ガ谷を渡り、山腹を巻いて登って行く。法力峠に出る。右にとれば覗き見峰（1347・4㍍）からミタライ渓谷。直進する。ドアミまで登ると、行く手に大日山の岩峰が姿をのぞかせ、右眼下に白倉谷が開ける。しばらく行くと左の岩盤を清水が流れている。この水場は年中涸れないという。鉄のハシゴが加わる。道はしだいに高度を上げ、高度感手をからみ終えると山上辻（洞川辻）に着く。小さな山上辻小屋と少し離れて稲村小屋が建つ。

今夜の宿泊地は稲村小屋。「予約をしてくれると、夕食の準備がいろいろできるのだが、なかったらカレー」と、赤井のおやじさんは微笑む。気さくに付近の聖蔵山植物の話をしてくれる。小屋にザックを置き、小屋前の切り株のベンチで休憩した後、大日山から山頂に登ろう。

大日山は秩父古生層を貫いて噴出した石英閃緑岩の岩峰で、周囲は断崖絶壁。南面はすごい峭壁となっていて、大日のキレットと呼ばれる。

「右大日山　左展望台」と記された道標がある。鉄クサリを頼りにさし登る。危険箇所には鉄クサリ・鉄ハシゴが取り付けられている。半ベソをかく人、体を岩にくっつけたヤモリ風の人がいたりする。単独の初心者にはあまりすすめられない所だ。頂上は狭い台地となり、大日如来をまつる。樹木に遮られて展望はあまりよくない。足元に注意して慎重にキレットまで戻る。

右に深い切れ込みをみせるキレットを見てひと休みする。前方の絶壁をからむ西壁ルートが見える。危険箇所には鉄クサリも

取り付けられているが、熟練コースなので、慎重しくとらないようにしよう。

稲村ケ岳の山頂に向かおう。鉄クサリに助けられ、西へ尾根をからむと3等三角点のある山頂に着く。立派な展望台が設置されていて、すばらしい山並みに息をのむ。山上ケ岳、大峰奥駆、行者還岳、弥山、

薄いガスが尾根を越えて流れていく。昼間の灼熱が嘘のように、涼風が日焼けしてほてった肌をやさしく撫でていく。風にのって深山の芳香が人気のない原生林を渡り、ほのかな香りを鼻先に運んでくる。

夕食が済み、明日の準備が終わったら小屋の外に出てみよう。空には無数の星が瞬き、華麗に夜を彩り始めた。照り輝く月から清らかな白い光が送られてくる。月が語りかけてくる。自然の有り難さとすばらしさを。

翌日は、レンゲ峠（ンンゲ辻）をめざす。稲村小屋からよく踏まれた道をたどり、クモクビ塚をかっみ、小起伏の上下を繰り返しレンゲ峠に出る。直進すると山上ケ岳。女人結界の門、和又・莫又の女人禁制の注意書きがある。

ここは昔、材の素材を伐りに村人がよく越えた峠。これから下るレンゲ坂に当時をしのばせる苦むした石段が残る。鉱泉谷が右岸より出合う。通もしだいにはっきりし、まもなく左岸の杉木立の中を歩くようになる。川瀬谷林道から大峰大橋へとくだる。ここから洞川バス停まで歩く。大峰大橋から洞川間のバスは夏期の一定期間のみ運行されていたが、現在は休止している。

洞川バス停までは、洞川自然研究路をたどってみよう（本誌第9号・56ページ参照）。また、ミタライ渓谷を歩いて川合のバス停に出るのもよいだろう（本誌19号・54ページ参照）。もちろん、村営の洞川温泉センターでゆっくりと汗を流すのもよい。

《コースタイム》

近鉄阿倍野橋駅（特急・約1時間）下市口駅（バス・約1時間30分）洞川温泉（5分）龍泉寺（1時間30分）法力峠（1時間20分）山上辻（稲村小屋・泊）（30分）大日山頂山（30分）稲村ケ岳展望台（40分）山上辻稲村小屋（40分）ンンゲ峠（1時間50分）大峰大橋（1時間）洞川バス停

《費用》

近鉄阿倍野橋駅～下市口駅	840円
洞川温泉～下市口駅	1280円

《地形図》 2万5千＝洞川・弥山
昭文社＝「56大峰山脈」

《問い合わせ先》

稲村小屋・赤井邦広　07476（4）0138
大峰山洞川温泉観光協会　07476（4）0917
奈良交通吉野　07475（2）4101

特選コースガイド①

四国

京柱峠から 土佐矢筈山

中級コース（★★）

尾野　益大

「矢の末端の弓のつるを受ける部分」を矢筈という（『大辞泉』）。つまり矢筈山とは両肩が盛り上がりM字型の山容をした、いわゆる双耳峰をいう。あちこちのよく知られている「駒ヶ岳」も、馬の背中のようにまん中がくぼんでおり「矢筈」と同様の形をしている。実日本で駒ヶ岳と言われている山は、四国では矢筈山と呼んでいる。

徳島県内には、その矢筈山が四座あり、土佐矢筈山は（高知との）県境上に位置している。当然「名は体を表して」いて、1等三角点の埋まった山頂（1606・5m）と、およそ20m低い北のピークとが組んでそびえ、眺める者にその名に頷いを抱かせない。

ここで登山口を京柱峠にとるのは、道中に草原歩きのエッセンスが見たせると思うからである。早朝発ちをしてでも、ぜひ京柱峠から出発していただきたい。

京柱峠は、昔、弘法大師が土佐へ越えた時、あまりに遠く、京へ上るほどの距離に感じたということから名づけられたといわれている。また、時代をさかのぼること1530年前の天保十三年（1842）、祖谷山の百姓一揆約六百人が土佐へ越境し、のち二人が梟首（さらし首）され、この惨劇は歴史に深く刻みこまれた。

京柱峠からではどうしても時間的に無理な人に、他に一つだけうってつけのコースを紹介するとしたら、山頂の南東にある粗谷越（矢谷峠）からの登路である。開放的な壮快感には全く欠けるものの、往復約1時間40分の手軽さが魅力である。

さて、京柱峠からのコースであるが、車を峠の周辺に置き、水を補給したのち、林道を東へ少し歩き、すぐに右上の尾根道に入る。早々から爪先上がりのなじみにくい急斜面に、汗をかかせられることになる。植林帯の切れ間からは、峠と、やや西に放牧場のきれいな刈り込みがとらえられる。

旧道と分かれ、道標に従って「原生林のコース」をたどると、稀少になったタナ・ミズナラ・ヒメシャラなどの大木を見上げつつ、フィトンチッドの充満したさわやかな森の散策を楽しむことができる。

笹から土佐矢筈山を望む

野草図鑑や樹木図鑑を携えて行けば楽しみも倍し、自然がぐっと身近になるだろう。

大岩の上にまつられた祠のある地点までくれば、起伏は極端に緩やかとなる。モミが多く、通称「目千本」と呼ばれている所だ。倒木を乗り越えながら行くと、間もなく東に展望が開け、どっしりと重厚感のある山頂が、谷をはさんで正面に望まれる。そこから、ひとふんばりで「笹」（高知県では小笹峠）と呼ばれるピークに到着。

森林限界を超えているため、山頂まで笹に覆われた優美な稜線が一目で見渡せる。ときおり、潅木の間を抜けることになるが、定かに見分けられるこの道では、よほどの

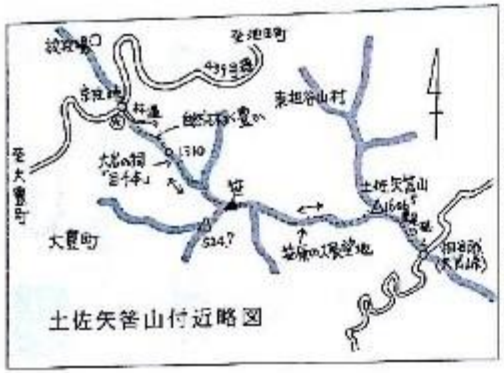
アクシデントでも発生しないかぎり迷路に引き込まれたりはしないだろう。最後は丈余の笹をかき分けながら前進する。

山頂は広く、実に冴えた展望を持つ。ぐるりどこに視線をやっても山、山、山。中でも東方にかけて連なる剣山群が抜きんでている。端整な三角形をした天狗塚、全国有数のコメツツジの群落を誇る三嶺、山並みはるか向こうにかろうじて夜明けをとらえられる剣山とジロウギュウの両巨頭……など、名を教えあげれば左右の指では不足してしまうほどだ。

是非を飾りたてる花々も豪華で、シモツケソウ・ホソバノヤマハハコ・ツリガネニンジン・シコクフクロなどが小さくても可愛い姿で目を楽しませてくれる。前景の森と併せ植物愛好家にきっと受けるだろう。

有名な石鎚山や剣山よりも人は少ないし、大半の休日も混んでいない。ウィークデーにでも行けば、森が「登山ブームの坩堝」であることを忘れてしまうのではないだろうか。そして、あまりの静かなムードに魅えられず、来たばかりだというのにすぐ里心がついたり、現実生活から空を去りにされたような錯覚に陥るおそれもある。「なぜ山なんかへ来たのか」などと思われ、長居する気持ちなどおこらないかもしれない。ともかく二重丸でも褒めきれないぐらい、さながら別天地である。四国にはこうした山がまだ多くある。

帰路ものんびり休憩をはさみつつ、次に登る山を探しながら歩くといいだろう。名乗りをあげている山は、四方八方数奇にいとまがないはずである。



土佐矢筈山付近略図

《コースタイム》
京柱峠（1時間20分）大岩の祠（30分）笹（30分）土佐矢筈山（30分）笹（50分）京柱峠

《地形図》2万五千＝東土佐・久保瀬井
5万＝大栃

《アドバイス》
交通が不便なので、マイカーかタクシーの利用が賢明。JR池田駅から約2時間

《問い合わせ》
東祖谷山村役場　0883（88）2211

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発㈱へ!!
・小型（20人・24人）
・中型（28人乗り）
・中2階（45人乗り）
・大型（56人・60人）
いずれもサロンカーからデラックスまで
スキーバスもあります
〒578 東大阪市瀬池本町1－20 オカダビル4F
電話06（746）3910・FAX 06（746）3883
（夜間・電話06（946）0816・FAX 06（948）9044）

特選コースガイド(2)

2等三角点のある山

蓮ヶ峯・養老山・君尾山

初・中級コース（★・★★）

丹波　山形　歳之

蓮ヶ峯（古名 東八田村）中級（★★）

京都府綾部市の蓮ヶ峯の地図山名記入点は、544㍍の独標点で、三角点（596㍍）は稜線伝いに東へ800㍍ばかりの所にある。

綾部市から国道27号線を北上し、梅迫町を過ぎると、右手に反射板をもつ山頂が見える。これが蓮ヶ峯である。

上杉町の交差点で右折し施福寺に向かう。地名にもなっているので立派な寺かと思ったら、民家をすこし大きくしたような建物があるばかり。お寺を過ぎて峠に向かうと左に林道が分岐する。地図では破線になっている。植林の中、車を乗り入れるとだんだん狭くなり、1㌔足らずで終点になる。

登山道にすぐの分岐を左折する。道標はないが関電の鉄塔標示板が立ち、道は明瞭である。この道は尾根を一直線に登って行く。あまりにも急なので、木につかまり滑らないように30分ばかり、ひと休みもできない急登の連続である。

やっと反射板のフェンスにたどり着くと、道はぱったりと消えてしまう。すぐ裏の蓮ヶ峯の山頂までは笹を分けて行かねばならない。頂上は植林におおわれて、地図に山名が記載されている山にしては全く展望もない陰気な所である。

三角点はここから稜線をたどることになるのだが、予想に反し道が全く消えていて少し時間がかかりそうだ。今日はすでに三山目で、これからだと日没になりそう。ライトの準備もしていないので、無理をせず後は明日にして下山した。

もっとも、道は不明瞭だが、植林の中の笹の背は低く、見通しは良いので、時間があれば問題はないだろう。

翌朝、地図に登山道が三角点峰にのびている下村に回る。村人に尋ねると道はあるとの話。道なりに橋を渡り農道に車を走める。駐車する所がないので農屋の庭に置く。

登山道は尾根を左へ左へと巻き、谷を横断して行く。山全体が植林である。稜線も近づいて最後の尾根を回り込むあたりから道はやぶに埋まり、通行不能な鉄塔が出てくる。やぶを避け植林の中を迂回して稜線に出ると、踏み跡道があった。合流点はやぶにおおわれているので、下山時のためにテープを付けておく。

後はひと登りで檜の大木に囲まれた三角点の山頂に到着する。高さ30㍍くらいもの木々の中で、展望は全くない。

△コースタイム▽

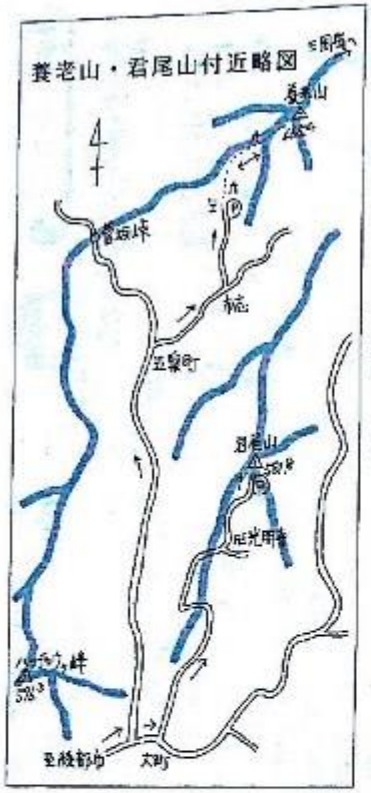
施福寺林道終点（45分）蓮ヶ峯反射板
下村農道終点（1時間10分）三角点

△地形図▽ 2万五千＝梅迫　20万＝宮津

養老山（古名 養老ヶ岳）初級（★）

舞鶴市と綾部市の境にある養老山は、舞鶴自動車道を綾部インターでおり、山間ののどかな道を五泉町へと走る。最終の市志の集落で尋ねると、川沿いにのびる林道からの登山道は知らないが、村から北にのびる林道からは登られるとのこと。林道は小型車がやっと通れるくらいで、やがて沢の分岐に出る。ここに鉄塔の案内があり、左は(40)番、右は(37)番となっていた。右(37)に入ると少しで林道終点となる。

養老山の三角点



道は高圧線の巡視路らしく、すぐ左手の尾根に登って行く。周囲はよく手入れされた植林地で、やがて稜線の縦走路に合流する。

稜線にそって高圧線が走っている。鉄塔の番号がだんだんと若くなり、(33)の鉄塔から西圧線と分かれて養老山の山頂に出る。

山頂南面は一帯が伐採され視界が大きく広がる。南東にのびる稜線はどこまでも高圧線とともにあり、遠く三国岳へと続いていた。

南の堀口川の林道にくだる道は見つからなかった。

△コースタイム▽

市志林道終点（15分）稜線（30分）養老山

△地形図▽ 2万五千＝東舞鶴　20万＝宮津

君尾山（古名 聴雲）初級（★）

綾部市の君尾山は中腹に名刹光明寺（仁王門・国宝）があり、山上まで林道が通じていて車で簡単に登れる。

綾部から小浜に通じる県道を走り、「光明寺仁王門」の看板の所から林道に入る。光明寺は君尾山の八合目くらいに当り、キャンプ場や「幻のけやき」等の標示があって、けっこう見るものもあるらしい。稜線でお寺の道と分かれてさらに車を走らせる。君尾山も地図の記名点より奥に三角点峰があり、地図で現在地をよく確かめて車を駐める。下の県道分岐から6・2㌔の地点に踏み跡道がのびていた。まだ若い植林の間を5分ほどで山頂に立てる。木々は低いが展望は得られない。

△コースタイム▽

林道（5分）君尾山

△地形図▽ 2万5千＝丹波大町　20万＝宮津

特選コースガイド㉛

生駒

宝山寺と千光寺を結ぶ行者道

庄兵衛道

初級コース（★　）

紫田　昭彦

宝山寺は、延宝六年（1678）に湛海律師によって開山されている。正徳四年（1714）頃、藤尾村石仏寺の世話人の鬼取村年寄庄兵衛という人がいて、湛海律師から、生駒山系中腹の参道の整備を任されていたと伝えられ、後にこの道を「庄兵衛道」と呼ぶようになったという。大正時代まで多くの参拝者が利用したが、交通機関の発達により衰退し、今日では忘れ去られつつある。今回、全道標の確認をしながら庄兵衛道の旧道と迂回ルートをたどってみたので、紹介することにしよう。

近鉄生駒ケーブルの宝山寺駅から参道をたどる。途中で左手の道標「生駒山上」に従って細い道を上り、駐車場に出る。右へ行くと宝山寺。左ななめに進むと、岩谷の滝参拝道の案内が分岐にあり、その下に「左明川山・元山上」の道標①が立つ。ここが庄兵衛道の起点である。岩谷の滝を経て、生駒谷の風景を楽しみながら5分ほど歩き、左の一軒家の先の左への急坂をくだる。本来は直進するのだが、鍵林寺付近までの旧道は廃道化しているので、この迂回ルートを行く。

鳴の滝を経て、教弘寺に至る。次のY字分岐で右へ上れば鍵林寺で、門前に道標がある。次のつき当たり正面の家の東北隅には、道路舗装工事のさいに抜いた道標②が、最近まで存在したが、住人によると知らないうちになくなっていたという（生駒風景会の会長・今木義雄氏は、教弘寺前に存在を確認しておられる）。左へ曲がり、滑り止めのある急坂をくだる。次の辻には、米田藤博氏が昭和50年頃に転倒している道標③があるのを発見しているが、現在では影も形もない。

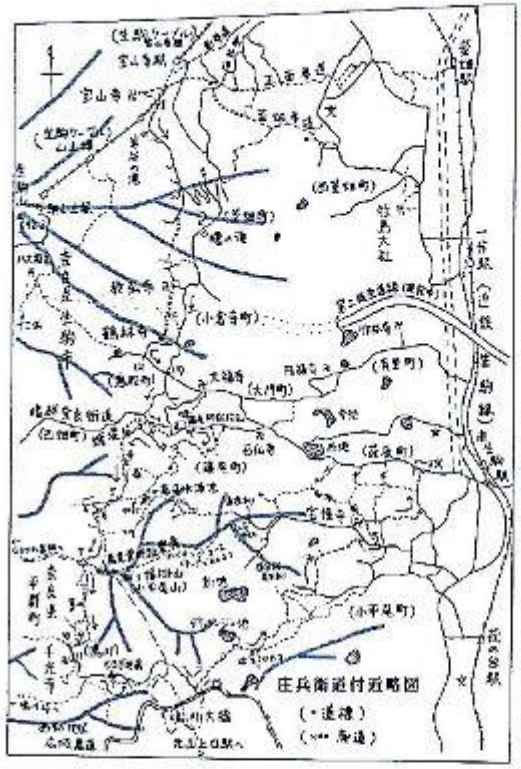
辻で右をとってくだる。鳴・越奈良街道に出合い、左へ少しくだると左手に藤尾阿弥陀堂がある。石仏は文永七年（1270）の銘で、鎌倉中期の名作である。江戸時代には、この右手に旅館藤屋があり、交通の要衝を占めていたが、今では竹林に寂しく風が渡るのみである。旧道はここから通じていたが、廃道になっているので、迂回ルートをとることにしよう。

平群町鳴川にある道標⑧

街道を少しくだると、整備された休憩所とトイレがある。その先の右手の民家の庭と次の家との間の細道が入り口である。山裾をぬうように水平に進むと、やがて橋に出る。橋を渡って、テープの印に従えば、藤尾水源池の右手から道標⑤の地点に出られる迂回路であるが、旧道の入り口へは橋を渡らずに右へ川沿いに進む。次の橋を渡って左側を歩き、堰堤が見えたら左の坂を上る。谷道となり旧道をたどる。上りきると道標④が現れる。直進して道を水平にたどると7分ほどで、道標⑥が右に立つ地点に着く。左手に明瞭な迂回路が上ってきている。

右へ曲がり、少し上ると右手にペットボトルを固定した目印がある。旧道はやぶに覆えているので、右側の道を進む。道の左側が崩れた所を過ぎると左側の木にテープの印があり、左へ回り込んで谷へおりる。小川をまたぎ少し行くと左右に道が分かれる。左へ入ると道標⑦がある。右への道をとって、すぐ左へ杉林を横切って進む。テープの印に従って行くと、左へ続く明瞭な道に出る。すぐに右へ曲がり、広い道を横切って登り道に入る。すぐに分岐があり、左の道は墓地のすぐ横に出る陰森道なので、右の古道を進む。登りきると道標⑨の立つ峠に到着する。

尾根道を左に進むと、左手に神武天皇が天神を祀ったという昌見霊時社磐座がある。昭和十四年銘の記念碑があり、戦時中に注目された霊場地である。そのまま尾根を進めば、4等三角点（椿坂山）を経て宝幢寺の裏手の林道に出られるが、元の分岐へ戻り千光寺（明川山元山上）への道をくだろう。



次の分岐で右の旧道は少し荒れているので、左の道をくだろう。旧道と再び合流すると、道標⑧が右に見つかる。直進して竹林の中をたどると、道のまん中に竹が生えていて、そこを抜けると、右手が開けてくるので、テープの印に従って右へ出よう。野道をくだり左手からの道と合流したあと、右手からのコンクリート道と合流する。ここに道標⑩が立てかけてあり、旧道が右手の道であることを示す。少したどってみると、廃屋小屋の先で、右へ上る分岐道が旧道であるが、先にひどいやぶで通行困難である。先ほどの分岐に戻り、直進すると、広い道に出る。右手前に道標⑪が見つかる。左へくだれば千光寺である。門前に道標⑫があり庄兵衛道の終点となる。

千光寺からは、宝幢寺への古道をたどろう。急坂をくだると、右手に弘安四年（1281）銘のゆるぎ地蔵がある。その手前で右へ入り、橋を渡ってすぐ左へ川沿いに

進むと清滝石仏群がある。通り抜けて、左手の橋を渡り舗装道へ出る。前方に鳴川大橋が大きく見えてきたら、そのすぐ手前で左の石道の上の道へ上る。すぐくだりとなり、田園の中を進む。栽培ハウスが見えてきて、左手の池の土手を見たらその先で、左手にあるコンクリートの橋を渡ろう。風雅な古道が山麓をぬうように続き、気持ちがよい。やがて舗装道となり、つき当たりを左へ進む。再び地道となり、やがて分岐がある。右は水辺な細道だが、左の広い急坂を上ろう。舗装道と出合う。右へくだり、民家の先で左への細道をとれば宝輪寺へ着く。門前から坂へくだっていけばつき当たりの右手に道標があり、古道は左へ続く。北へ進み、やがて暗峠奈良街道に出合う。この地点にも道標があり、宝輪寺への古道であることがわかる。右へ曲がって広い道路を横切り、橋を渡って左へ歩くと近鉄南生駒駅に着く。

（平成7年11月25日・12月16日歩く）

《コースタイム》

近鉄宝山寺駅（35分）鶴林寺（20分）藤尾阿弥陀堂（1時間）鳴川霊時観音座（20分）千光寺（45分）宝輪寺（20分）南生駒駅

《地形図》2万5千＝生駒山・信貴山

参考

庄兵衛道についての文献

(1)『生駒市誌V』（同市誌刊、昭和60年）
六三一、六三六、六六九、六七一頁

(2)『古道に残る信仰の文字―宝山寺への道』（生駒民俗会、昭和62年）51頁
（この本は、宝山寺で購入できる。）

(3)『大和しるべ石星表』（昭和62年）7・11頁

(4)『大和の道しるべ四』（昭和53年）22・23頁

(5)『大和の道しるべ四』（昭和54年）29・30頁
（以上三種は、矢田藤博氏（三六三九―二二御所市三室三八三）宛、問い合わせのこと。）

(6)『生駒郡石造遺物調査報告』（同市教育委員会、平成8年）135頁

庄兵衛道の道標銘文

①（生駒市門前町）文献(2)(5)
大工六年四月八日建之
左鳴川山元山上道
一二　建　杉山利三郎

②（生駒市鬼取町）文献(2)（七五）
左宝山寺　（右面）
左元山上　（正面）
大阪　京橋繁清中　（左面）

③（生駒市鬼取町）文献(3)(6)（七六）
右宝山寺　（南）
左元山上　（西）
大阪只橋物産中　（北）

④（生駒市鹿ノ谷町）文献(2)
左宝山寺　（南西）
左元山上　（北西）
王寺　成山庄次郎　（北東）
九貫屋

⑤（生駒市鹿ノ谷町）文献なし
中河内大門山上講中　（北）
左元山上　（東）
右宝山寺　（南）

⑥（生駒市鹿ノ谷町）文献(2)
中河内大門山上講中　（北）
右元山上　（東）
左宝山寺　（南）

⑦（生駒市鹿ノ谷町・菜畑町鳴川）文献(2)
左宝山寺　（東）
右元山上　（南）
大阪　瀧太郎中　（西）
木津

⑧（菜畑町鳴川）文献(2)
左宝山寺　（東）

すぐ元山上　（南）
大阪　四海楽行組　（西）
三郷
（「すぐ」は、「まっすぐ」の意味）

⑨（平群町鳴川）文献(2)(3)(4)
左宝山寺　（南）
右元山上　（西）
大阪　四海楽行組
三郷　（北）

⑩（平群町鳴川）文献(3)(4)
三郷　（北）
服部　椿谷長蔵
左元山上　（東）
右宝山寺　（南）

⑪（平群町鳴川）（千光寺門前）
文献(2)(4)
大工六年四月八日建之
右生駒山　（北）
宝山寺道　一里　（東）
大阪
三郷　堺野県右衛門　（南）

庄兵衛道の道標について

文献(2)には、庄兵衛道の道標は八本と記されているが、今回の調査により、十一本の存在（うち二本は正）が明らかになった。

道標銘は、摩滅によって、読みとれないものがあるが、文献(2)に記述された「成山安治郎」「中河忠太」が銘誌であることが判明したことを注意しておこう。中河内の山上講の名称ははっきりしない。識者の教示をお願いしたいと思う。

なお、「大阪三郷」とは、幸田成友『江戸と大阪』（日本歴史叢書、吉川弘文館）の27頁にあるように、「北組・西組・天満組」という、大阪の三つの区分の総称のことである。

（追記）

『生駒谷の祭りと伝承』（宝塚社）に「庄平道」とあるのは、誤りである。

山と高原地図シリーズ

定価 各700円（税込）

1 北アルプス総図
2 白馬岳
3 鹿島槍・黒部源
4 剱・立山
5 上高地・槍・穂高
6 乗鞍高原
7 御嶽山
8 中央・南アルプス南部
9 木曽駒・空木岳
10 甲斐駒・北岳
11 塩見・荒石・聖岳
12 妙高・戸隠
13 志賀高原・草津
14 軽井沢・浅間
15 西上州・妙義
16 美ケ原・霧ケ峰
17 八ケ岳・蓼科
18 富士・富士五湖
19 箱根
20 伊豆
21 丹沢
22 高尾・陣馬
23 大菩薩連嶺
24 奥多摩
25 奥武蔵・秩父
26 奥秩父1 雁坂峠・甲武信岳
27 奥秩父2 金峰山・甲武信
28 谷川岳 茂倉山・武尊山
29 越後三山 巻機山・守門岳
30 尾瀬
31 日光 男体山・奥白根
32 那須・塩原
33 磐梯・吾妻・安達太良
34 飯豯山
35 朝日・出羽三山
36 鳥海山
37 栗駒・白山・駒形山
38 栗駒・早池峰
39 八幡平 岩手山・秋田駒
40 十和田湖・白神・秋田
41 二セコ・羊蹄山
42 大雪山・十勝岳
43 白山
44 雲仙・阿蘇・祖母
45 宮崎県・椎葉山
46 比良山系
47 京都北山1
48 京都北山2
49 京都西山
50 北陸の山々
51 六甲・摩耶・丹馬
52 高原高原・二上山
53 紀伊山地・熊野山
54 紀泉高原
55 剣山系
56 大峰山脈
57 大台ケ原・大杉谷・熊野山
58 赤石・南部高原
59 秋ノ山 阿蘇・祖母
60 大山・蒜山高原
61 四国剣山
62 石鎚山
63 福岡の山々
64 九重・阿蘇
65 祖母・傾
66 霧島・桜島

※弊社の「山と高原地図」は年度版として毎年春頃発行されます。ご山行の際はなるべく最新版をご使用くださいますようお願いいたします。
※誤文字の「山と高原地図」へのご質問・ご意見がございましたら、本社編集部「山と高原地図」担当までお気軽に電話ください。また新情報等お教えいただければ幸です。

株式会社 昭文社
本社 東京都千代田区九段北4-2-11 電話03(3262)2141(代) 〒102
支社 大阪市北区堂島中通5-11-23 電話06(348)5721(代) 〒530
営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・浦和・立川・名古屋・金沢・京都・広島・福岡

連載

台湾の山々・五岳三尖へ（第1回）

玉山

山形歳之

台湾は日本の九州よりやや小さいが、富士山より高い山がいくつもある。日本が占領していた時期には、日本一の山は富士山ではなく、台湾の新高山であった。

もちろん新高山は日本名で、新しく日本一の高い山になったので、新高山と名付けられたのだろう。中国名は玉山（ユイシャン）、日本では（ぎょくさん）と呼ばれている。

台湾が中国に返還され、新高山が外国の山に戻った今では、富士山がまた日本一の座を占めている。たくさんの登山者に、「日本一の富士の山」と登られるのは、富士山にとっても日本人にとっても幸いなことではないだろうか。せっかく富士山に登っても、日本一と言えないのではちょっとものの足りない感じがする。

台湾には、富士山より高い山が7座あり、日本では20数座しかない3000㍍以上の山が、台湾には130余りも数えられる。このことからみてもいかに台湾には高山が多いかがわかる。

台湾にも日本の百名山のように、「台湾百岳」なるものがある。こちらのほうは高度順に挙げられているらしいが、その百山全部が3000㍍以上の山々で占められている。

またその中から特に名山を選んで5山を取り上げ、「台湾五岳」と名付けて、台湾の登山家の第一目標となっている。

道理、この「台湾五岳」とは

① 玉山（3952㍍）
② 雪山（3884㍍）
③ 秀姑巒山（3860㍍）
④ 南湖大山（3740㍍）
⑤ 北大武山（3092㍍）

玉山山頂（登山道から）

であるが、なかには次の「三尖の山」の中から選ばれて、組み合わされることもあるらしい。

「三尖」（尖はとんがった形を示す）

① 中央尖山（3703㍍）
② 大武尖山（3703㍍）
③ 達芬尖山（3208㍍）

台湾山岳協会では、この五岳を完登した者を表彰している。今年の山岳協会の会報「中華山岳」を見ると、昨1995年に五岳を完登した人28名。夫婦で登った人4組。さらにその上の百岳を完登した人12名の氏名が発表されている。台湾の岳人もなかなか大変である。

もっとも五岳を登った人は、三尖も登って、「五岳三尖」で上のランクを完登したこととなる。

台湾の岳人としては、最終的には百岳完登をめざすのだが、「台湾百岳」は全山3000㍍以上で、難度から言えばとても日本の百名山の比ではない。

私と同年輩の者にとって、台湾の山々は知名度があり、特に外国の山といった感覚は少ない。中でも玉山は、中学生時代の日本一の山、「新高山」としての印象が強く残っている。

海外旅行が流行の今では、海外登山専門の旅行社が諸外国の山行を企画していて、台湾の玉山登山もいろいろとコースがあり、簡単に参加できるようになった。

玉山（3952㍍）—寄三角点

玉山の標高は、今までは3997㍍とされていて、頂上に立つ銅像の上に登ると頭は4000㍍に達することになる、などと言われていたのだが、最近の測量の結果45㍍も低くなってしまい、少し残念だ。玉山東峰や北峰・南峰も標高が低く訂正されている。

台湾の3000㍍級の山に登るためには入山証明が必要で、現地ガイドの雇用も義務づけられている。個人で行く場合以外は全部旅行社が行うが、事前の準備として各自のパスポートは取っておく必要がある。

関西国際空港から台湾の台北空港へは、わずか2時間足らずで到着する。しかも三社の航空機が毎日数便飛んでいて、大阪から札幌に飛ぶより近いくらいである。

日程は各旅行社それぞれだが、だいたい四泊五日が標準で、費用は平成8年春の単価表では16万円から20万円くらいである。宿泊・食事・ガイド料・乗車運賃等の費用全部が含まれているが、関西空港の利用料（2600円）や台湾での出国税300元（現在1元は約4円）は別途に必要である。

日程の一例として、第1日関西空港→台北→自忠（民宿）泊まり。第2日車で登山口のタタカ駐在所へ、登山開始。約6時間で排雲山荘（山小屋）泊まり。第3日早朝発約2時間半で玉山山頂。その後排雲山荘を経由して往路をタタカ駐在所に戻り車で南投に下山して泊まる。第4日台北で市内観光

をして台北泊まり。第5日台北＝関西空港。

私が参加した旅行社の行程は次に述べるようなものである。

第1日。平成8年3月中旬、一人関西空港から台北に出発、台北の空港で東京の人たちと合流し、現地ガイドの車で台中に向かった。折から台湾では総統選挙の最中で、高速道路から町中に到るまで候補者の幟や旗で埋まっていた。日本の選挙よりいちだんと派手で、まるでお祭り騒ぎだ。きょうは台中泊まりである。

第2日。朝、ホテルを出発して役所で入山許可をもらい、車を登山口に走らせる。日差しが強い。南国台湾はすでに日本の真夏の暑さである。水里、東埔温泉口、と過ぎて、車はどんどん山に登って行く。前方に阿里山が大きく見えてくると、やがて塔塔加の峠に到着する。ここからは国道と別れて狭い林道になる。約2キロで登山口の塔塔加鞍部に到着。狭い鞍部には二台の小型車が下山者を待っていたが、駐車場が無いので、ガイドの一人が車を国道まで戻きにいった。

峠には強い風が吹いていて、建物もそこそこに歩きだす。今回は中高年ばかり男三人と女二人の五人のグループ、他にガイドとポーターの計七人である。

この山行は玉山だけでなく、玉山を乗り越してさらに奥の秀姑巒山と達芬尖山に登る、四泊五日の計画になっている。私にとって玉山は二回目である。

出発は13時50分。歩きだすと道は山腹を巻く水平道に入り風はやんだ。登山口から排雲山荘までは約6・5キロ、高度差900メートル程で、所要時間は地図上では5時間となっている。距離のわりに高度差が少ないので、急な登りはない。玉山西峰の山腹をぬう水平道もよく整備され、残雪も日本の山より立派に作られている。所々に立つ道標には小屋までの距離が記され、歩行の目安になる。

屋根付きの展望台でガイドが説かしてくれたコーヒーで喉を潤し、のんびりと小屋まで、登山と言うよりはピクニックである。

晴れていた空も、登るに従って霧になり、夕暮れ近い17時30分、小屋に到着した。少人数で足がそろっていたので、休憩も含めて4時間もかからなかった。

早春の平日のせいか、小屋には台湾の若者が六人ほどいただけでひっそりとしていた。

排雲山荘は立派な小屋だが、少し古くなったのか痛みが目立つ。管理人が常駐していて発電機もあり電灯がつく。寝具もたくさん置かれているが、食事は自炊だ。水は豊富で広い炊事場がある。登山者の守り神か、観音様らしい仏像が室内に大きくまつられていた。

夕食はお定まりのカレーライス。21時には就寝する。

第3日。午前3時10分起床。気温10度と思ったより暖かい。朝食は昨夜のカレーライスの残りと味噌汁。レトルトの御飯を茹でたのを昼食用にもらって、4時25分小屋を出る。見上げる空には星が瞬いたり隠れたり。霧が去来しているらしい。まっ暗な森の中、ライトを手に登って行く。5時45分、南峰との分岐点でライトを消す。

見上げる若峰の上に、玉山頂上の銅象が小さく見えた。

いつしか森林帯を抜けて、ガレ場を登ると鉄柵が現れる。この柵沿いは急なので、巻き道を通って肩に出る。強風が吹き上げてきた。ここは八通関に行く縦走路の分岐で、ザックを置いて頂上をめざす。足元の岩は凍結していて靴が滑る。体は風にもてあそばれる。しばし鎖にしがみつく緊張の一時であった。

排雲山荘前の広場

山頂は銅象も三角点も凍りつき、霧と激しい風で立っていられなかった。温度計はマイナス2度を示していた。

何とか1等三角点をカメラに納めると、早々に下山した。北峰分岐にくだる道はガレの谷で、上からは強風が吹きつけ足元は凍って滑る。柵の鎖にしがみつきながらくだったので、手が痺れて凍傷になるかと思った。いったい、どのくらいの距離だったのだろうか、風もやみ足元の氷も消え、ひと息つけたのは北峰の分岐である。それにしても緊張したひとときであった。肩から45分が経っていた。

お花畑をくだり森林帯に入ると、沢沿いの道となる。先刻の氷と風がうそのように穏やかな山道が続く。返り見る谷は、よくもあんな所をくだったと思わせられる荒れた谷であった。

二、三か所ガレてはいたが、たいしたこともなく、やがて草原状の八通関が見えてきた。玉山の荒々しい岩山に比べて、天国のように感じられる穏やかさである。山火事の跡を抜けて八通関小屋広場に到着した。

ここは日本の占領時代に警察の官舎があった所で、今でも建物の基礎部分が残っている。

山小屋は戸や床が無いが、雨露は何とか凌げるだろう。ここで昼食をとると、八通関古道を通ってきょうの泊まり場、巴奈伊克小屋に向かった。（次号につづく）

※コースタイム※

（第1日）塔塔加鞍部登山口（3時間40分）排雲山荘（泊）

（第2日）排雲山荘（2時間30分）玉山（50分）玉山北峰分岐（3時間25分）八通関小屋（1時間25分）巴奈伊克小屋（泊）

近畿の山 ——七賀出版——
東海自然歩道30選【関西版】 大阪府社会体育研究所 1,400円
京阪神さわやかハイキング 大阪府社会体育研究所 1,400円
京阪神ベストハイク 渓谷を訪ねて 堀本義次 1,500円
京阪神 花の山旅 大阪府社会体育研究所 1,500円
京阪神ベストハイク&キャンプ30 友保栄雪 1,500円
京阪神 ベストハイク 六甲の山 小幡敏一郎 1,500円
近畿の山グレード別ベスト30 西村弘美 1,500円
〒530 大阪市北区西天満4-15-10 フェニックスタワービル12F
☎06-345-5333 FAX 06-345-1772

沿線ハイキングガイド

近鉄　京阪　阪急　南海　神鉄　山陽電鉄　叡電　京福
公開ハイク　歩け歩け大会　文学散歩　歴史散歩　その他

近鉄

▽近鉄登山・吉野熊野国立公園指定60周年記念・名山を行く・第2回「大台・経ヶ峰から大杉谷渓谷へ」　7月20日(日)～22(月)由夫決行　集合=最寄駅大和上市駅10時（コース）1日目=大和上市駅（バス）経ヶ峰―開拓―吊橋―大台教会―山の家（泊）夜に登山講習会実施予定・2日目=山の家―日出ヶ岳―（大杉谷渓谷）―桃の木山の家（泊）・3日目=桃の木山の家―（大杉谷渓谷）第三乗船場（船）大杉（バス）松阪駅（約33㌔健脚向）会費23,000円（2泊6食付）定員30名電話申し込み制、参加資格中学生以上60才までの健康な方、指導奈良山岳会、天王寺事業06（624）0382～3

▽読売ファミリーハイキング・楠大和路の峰を歩く・第3回「杉本立の中の門森峠」　7月21日(日)雨天中止=集合=大阪線室生口大野駅10時（コース）室生口大野駅―門森峠―室生寺―弘法大師ゆかりの道―滝谷花しょうぶ園―三本松駅（約13㌔）会費無料、参加自由、上本町事業06（775）3566

阪急

▽第91回健康とふれあいハイキング・ウォーキングトライ「能勢路を巡る」　7月7日(日)雨天中止=集合=付各線共能勢電鉄ときわ台駅前（中・上級）9時30分～10時（初級）10時―10時30分（コース）（初級）ときわ台―妙見口駅―吉川―上杉峠根―妙見山上―新滝道―ケーブル下駅（約8㌔）（中級）ときわ台駅―吉川峠―天台山―妙見山合―妙見山上―新滝道―ケーブル下駅（約12㌔）（上級）ときわ台駅―吉川峠―天台山―初谷出合―寺間峠―太滝寺―妙見山上―新滝道―ケーブル下駅（約16㌔）参加自由、阪急創遊開発部06（373）5332

▽朝日自然教室「夏休み学生観察」8月11日(日)雨天中止=集合=南大阪線橿原神宮前駅中央改札口前9時30分（コース）橿原神宮前駅―豊浦寺跡―甘樫丘―弟石―鬼の雄・鬼の雷隠―飛鳥駅（約9㌔）会費300円、定員200名電話申し込み制、携帯非常用クラブ、天王寺事業06（624）0382～3

○新ハイ関西サービスチェーン

名称・二輪登山　小口幕―大台峰―甲子・那覇への縦走基地　：名でも最寄り駅送迎可（数十名）　雲天温泉と内湯

福島・二岐温泉　日観連　大和館
〒363-05　福島県吉野郡天川村
電　0246-48-0221
F　63-1-34-127-05

枚父鉄道　ターボン券も東武鉄道　利用できます

鉄父　不動の湯
〒368
埼玉県秩父市山田243-2
電　0494-23-1126

富士登山・富士五湖
東海道自然歩道
（石割山・ハリモミ鉢林）

三国山の麓　ペンション　コットンテール
〒401-05
山梨県南都留郡山中湖村平野
電　0555-65-8515

大金峰連峰の中腹
かぶら松展望台
関東・岩手県あり
JR中央線猿橋駅下車タクシー40分
バス約分谷山口下車徒歩2時間

山小屋　福ちゃん荘
〒401-1　山梨県南都留郡
電（自宅）0555-33-1263
（山小屋）0301-41-7321-5

▽ナイトハイキング中山観音星下り「米谷高原・中山奥の院コース」　8月9日(日)雨天中止=集合=京阪淀駅前15時30分（コース）淀駅―淀神社―奥の院―大師若岡地―中山寺境内（観音20時頃）―中山駅、参加自由＊灯具持参のこと、阪急創遊開発部06（373）5326

▽日刊スポーツファミリーハイク「大文字山火床から京の街を望む」　8月25日(日)雨天中止=集合=銀閣寺山門前9時30分～出発10時（コース）銀閣寺―大文字火床―大文字山―四辻―峠（七福神巡礼）―日向大神宮―東上（10㌔中級向）参加自由、阪急創遊開発部06（373）5326

京阪

▽比良連峰アタック100回記念「金糞峠・八雲が原コース」　8月25日(日)雨天9月1日(日)集合=JR比良駅9時50分（コース）比良駅（バス）イン谷口―青ガレ―金糞峠―（奥の深谷）―八雲が原解散―山上駅（ロープウエイ・リフト）山麓駅（バス）比良駅（約4・5㌔）京阪電鉄事業部06（944）2525

叡山電鉄

▽自然観察シリーズ2「貴船の植物野外学習」　8月11日(日)雨天中止=集合=貴船口駅から徒歩約50分、バス利用なら15分　10時30分（コース）貴船奥の宮―奥貴船―流谷―奥の宮（解散15時頃）叡山電鉄運輸部運輸課0775（78）5121

神戸電鉄

▽あじさいホリデー・グルーム祭参加「地獄谷と六甲山上ハイク」　7月14日(日)集合=大池駅3時20分（コース）大池駅―地獄谷―ノースロード―記念碑台（グルーム祭）―六甲ケーブル山上駅（約8㌔健脚向）神鉄観光事業部078（521）0321

▽神鉄ハイク「炭ヶ谷・穂高湖コース神」　7月27日(日)雨天中止=集合=神鉄花山駅10時10分（コース）花山駅―炭ヶ谷―まむし谷―シュールル道―穂高湖―鉢谷峠―カスケードバレー―神戸市バス運回神社前（約5㌔中級向）神鉄観光事業部078（521）0321

▽眼下に広がる神戸市街の大パノラマ「布引ハーブ園と分水嶺縦ハイク」　8月4日(日)集合=湊川駅10時20分（コース）鈴蘭台駅―水源池―鵯峯北谷―分水嶺縦―布引ハーブ園（希望者のみ入園）―新神戸駅（約10㌔一般向）神鉄観光事業部078（521）0321

奈良交通

▽万葉の大和路を歩く会・バス&ハイク壬申の乱をゆく㊤「名張から鈴鹿」　7月13日(日)集合=JR・近鉄桜井駅北口9時30分（コース）桜井駅（バス）名張市・夏見廃寺―夏見廃寺墓―宗鑑―大善寺氏邸跡―万葉歌碑（バス）伊賀国分寺跡（バス）旧東海道茶屋坂・万人講常夜燈（バス）旧東海道坂ノ下宿へ・急坂下り徒歩約2㌔（バス）鈴鹿関・鈴鹿駅跡（バス）名阪国道（バス）天理（バス）奈良駅、会費6400円会員は5700円、講師甲斐学院高校教諭山内英正氏、参加申し込みは10日(木)までに往復ハガキで〒630奈良市大宮町1の1の25奈良交通「万葉の大和路を歩く会」係0742（20）3100

□これ以外にも多数の催しがあります。各社の広報も見て下さい。

尾瀬、平ケ岳渓谷と釣りの山小屋
藤巻三山見晴定宿園内
清四郎小屋
ほんものの手打そばと天ぷら
樹海
〒946　新潟県北魚沼郡
電　025791-2136
または　025791-2150
21-0306

汗をたっぷり流せる温泉と笹ケ峰牛のシャブシャブ
日本海の鮮魚と山の幸
ハイカーの宿
ナガサキロッジ
〒949-21　新潟県中頸城郡
妙高高原町池の平温泉
電　0255-86-2261

高山の花、尋常の花
妙高山と火打山
百名山を二つ望める山小屋
黒沢池ヒュッテ
〒949-21
新潟県中頸城郡妙高高原町
池の平温泉　ナガサキロッジ
電　0255-86-2261

海から望める朝日と海に沈む夕日を満喫、山と海の両方が楽しめる、大佐渡縦走の拠点、星と夜景に酔いながら楽しいはずむ
国民宿舎　大佐渡ロッジ
—泊2食付き　6800円
〒952　新潟県両津市椿
電　0259-27-4520

せせらぎ

題字・小林玻璃三

これといった目的もなく、いつもの習慣でカメラを友に、ぶらりと山に行く。山道に入ると早春のこの時季、あたりには新しい命が芽吹き、足元は落ち葉の絨毯。そのような所を歩いていると、何かむしょうにうれしくなる時がある。

「何がそんなにうれしいの?」ときかれても、何がうれしいのかよくわからない。「懐かしいだれかに会ったような気持ち」と言えばそれが一番近いかもしれないが、違うような気もする。

そのような時、もし、だれかに出会ったら「何をうれしそうに、気持ち悪い」と思われるか、それとも相手の人も同じような思いで、お互い気恥しそうにあいさつを交わすか、いずれにしても自然には人の心を和ませてくれる不思議な魅力があるようだ。

あなたがもし山でそのような人と山会ったら、優しい気持ちであいさつをしてあげてください。自然はすべての人に平等です。

「心うれしい山歩き」。それは自然がわれわれに与えてくれる最高のプレゼントではないでしょうか。

(宮角　季喜)

鈴鹿最高峰の御池岳に最初に登ったのは39年度の5月でした。以来何度も登り、89年からは池探しを中心に毎年10〜25回も入っていますが、今年3月この山で異変がありました。

それはコグルミ谷登山道にある辰命水のすぐ下の谷が一部崩れて縦穴が開いたのです。

この山は約2億3千万年前の石灰岩でできており、頂上部はカルスト台地が広がる神秘的な景観をなしていてドリーネ(擂鉢穴)が多くあるのですが、縦穴はまだ見つかっていません。

開いた穴の深さは底が暗くてわかりません。縦穴はとても危険でなかなか入れないのですが、4月21日にケービングのプロが調査に入られ30㍍ほど下まで確認されました。しかし、上から落ちた土で穴が埋まっていてそれ以上は入れなかったようです。

時間が経てば縦穴がまた通じる可能性もあるようなので、今後の経過をじっくりと見守っていくことにしましょう。

別の横穴が見つかり、山の下にある大鍋乳洞まで通じるという夢が現実になればと思っています。

(山田　明男)

3月中旬のある日、午後から休暇をとって、三郎山の中腹まで登った。曇り空で、風はまだ冷たく、渓流の水も冷たい。しかし、大気はほのかに暖かく、大地のぬくもりがある。登山道のそばの木々にほんの少し新芽が出ている。それを見ると、春を感じる。

中腹に着いて、すぐザックからコップを取りだし、谷におりて渓流の水を飲んだ。

大きな石に座り、足を浸けだして水の流れと石を見ていた。斜面には枯れた落ち葉がある。それを見て美しいと思った。渓流の水の流れも美しいと思った。きょう、山に登った最高の感激であった。

しばらく、その石に座っていた。水のせせらぎの音だけが聞こえる。登山客には、一人も会わなかった。

自然や世の中が美しく見えるかどうかは、自分の心の状態によって変化するもののようだ。

(武田　昭)

奈良県の宛・鍛冶岳付近のゴルフ場開発の仕事で現地に住み込んでいた時があった。

ひとり谷川であまご釣りをしていたら、老ハイカーが寄ってきて「君は変わり者か、ひとけの無い所で一人でさびしくないのか?」と言う。変人扱いにムッとして「この丘のすぐ向こうの集落の住人です」と言うと、「エッ! 人家があるの」とびっくりしていた。

この集落から1㌔地点で空の日に遭難者が出たらしい。まさかと思っていたが、この時にあり得ると確信したものだ。

北摂での単独行を始めて一年、地図・コンパスをよく忘れる。当初やリーダーの方から道に迷った話を聞いても実感がわかない。自ら恐怖を体験するまでは身につかないのだろうか。

(木村　晃)

毎号たのしく読んでいます。とくに宝野さんの鈴鹿山系の紀行記事を興味深く読んでいます。

それに、表紙が好きです。作者の松田さんが京都で個展を開かれるというお話を聞いては、いつも行ってみたいなと思いつつ果たせないでいます。

本誌の気に入っているところは悪いところです(失礼)。創刊号から本棚に並べてもそんなに場所を取りません。だから、心理的な負担もありません。時々バックナンバーを取り出して読んでいます。

ますますのご発展をお祈りします。

(大石　幹夫)

4月13日、鈴鹿の麓子ケ口へ行こうと思いたったが、家(茨木)を出たのが遅く、電車・バスを乗り継いで永源寺に着いたのが11時。バスの運転手が佐目小谷から行けるというのでそうすることにした。

ダムから佐目村を過ぎると谷の入り口に「山知」の石碑。これはただの谷道ではないと感じつつ林道を行く。山道に入るとよく踏み込まれた歴史を感じさせる古道となった。美しい渓谷を30分も登ると思いがけずすばらしい景観が広がる大きな河原に出た。まるで鈴鹿の上高地みたいな所だ。

左岸に古道が続くがけ崩れで途切れがち、徒渉を二、三回して進むと渓流の沐があった。谷間が狭まり始めた所で大岩が数箇行手を阻み、左岸の小ピークが半分欠けていて今にも崩れ落ちそうだ。危険を感じ引き返す。谷の入り口から1時間の地点だった。

帰路、林道脇に放棄された大量のゴミを回収している土地の人に話をきくと、「山崩れの地点は小ピークの下を巻くことができる」とのこと。ただ今回は無計画な山行だったのでこれで十分。

休憩昼食入浴も歓迎
10名以上マイクロバスで送迎
箱根仙石原温泉
福島館
〒250−06 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原1−39
電 0460−4−9041

四季感りなす悲鳴峠原のハイク
上高地・乗鞍岳へ　冬はスキー
けやき造りと味の宿・自然薯
温泉旅館　けやき山荘
〒390−15
長野県南安曇郡安曇村梨木高原
電 0263−93−2555

さわやか信州
鹿天五呂　山次の湯
湯田中温泉(穂波)
日野屋旅館
〒381−04 長野県下高井郡山ノ内町湯田中温泉地波
電 0269−33−3578

標高2000m平坦上の温泉
湯の丸高峰高原休養林
ハイキングにXCスキー
宮峰温泉
〒384
長野県小諸市菅峰高原
電 0267−25−2000

日本最高位の温泉(2400㍍)
立山・室堂平
みくりが池温泉
〒930−14
富山県上新川郡大山町木倉3−47
電 076−462−1631
4/9〜11/25は現地へ
電 0764−65−4595

ハイキングに/スキーに/
志賀高原　石の湯ロッジ
バス　熊の湯線平末下車
電 0269−34−2422
東京本社・東京都新宿区新宿3−20−5(新光ビル)
㈱スポーツサービス
電 03−3341−0021

塩の道　千国街道
百八十七体「観音原」
ホテル
白馬ブランシェ
〒399−93
長野県北安曇郡白馬村いわたけ
電 0261−72−4452

館内より日本カモシカ日20頭以上と、北アの雪形観察、北アの全体の大展望の湯、春は山菜等
展望風呂・露天風呂
あるぷすいん　清山荘
〒382 長野県上高井郡高山村山田牧場・奥山田温泉
電 0262−42−2527

帰宅して、「新ハイ」のバックナンバーで岩野明氏のシリーズを繰ってみると20号に、「この山域は私が一番親しんだ山で、以前は佐目小谷から修羽された初頭がある」とあった。

湖東平野からの日本コバ・雨乞岳・烏帽子山の遅い春の雪をかぶった連山の景色とあいまって、近江側の鈴鹿の魅力の一端に触れた半日であった。

（尾家　建生）

東京で同じ山をご一緒したことのある、山の大先輩より新しい著書をいただいた。『定年後は山歩きを愉しみなさい』（小倉屋著　明日香出版社　1300円）である。

タイトルが何やらおしつけがましくて嫌だなと思ったが、表紙の沢野ひとしの楽しげな絵につられて中をパラパラとめくる。愉快なイラスト、的を射た小見出しに導かれて、おもしろいようにはかどってしまう。

内容は多岐にわたるが、豊富な知識、五十四年の山歴（著者はまだ六十七歳）に裏づけられて、随所に思わず納得させられる。

今やリストラの時代。思いがけず早めにリタイヤーに追いこまれてしまい、それこそ山でもはじめてみようかなという人には大よそのことがわかる。また、すでに山歩きに手を染めている人にも、改めてざっと知識がおさらいできるし、こんな楽しみ方もあるんだと新たな発見もありそうだ。

ほんとに山歩きは奥が深い。体力まかせの若いときとは違って、年を重ね、豊かな生活体験を上手に山歩きに生かす、中高年ならではの山歩きの愉しみ方があるはずだと思った次第。まだまだ山を愉しむぞ。興味のある方はぜひお読みください。

（篠原　義子）

ハヤチネウスユキソウの実物を初めて目にした時、その厚ぼったさに、まず近づき難さを覚えました。頭が大きくて、重たそうで、真綿に包まれていて、雨の雫をも寄せつけない堅さを持っているように見えました。稚拙さはまるで名工の細工物を見るようで、しばらくはじっと眺めていました。

梅雨の終わりの夕方、新花巻駅前からレンタカーで小田越に上がり仮眠。まだ夜の明けきらないうちに、烏帽子をくぐって歩きだしますが、冷たい風が樹林を震わせ、濃いキリが行く手に飛び交っています。予報では回復方向。とにかく木道を歩き始めます。シャクナゲの花がまだ残っている森林限界でほの明るくなります。巨岩帯を抜けると風はなお強く、キリは足元の道すら閉ざしていて、砂礫帯では、しばし立ち往生。風上に背を向け、キリの薄き間に道を探し探し歩きます。

そこで、出会います。初対面ですぐわかります。強風に激しく揺れています。左手ではためくポンチョの裾をしっかり握りしめながらも、右手で、その頭部を押さえてみます。。逢えた。。鉄除子のかかる岩場の上にも咲いています。

風はようやく治まりますが視界は全く望られません。しぜんと目は身近なものに留まり、心はうちに閉かれます。すっかり明るくなって、頂上直下の湿地では次から次へと現れる花々に、真っ白なキリに濡れながら、心は広々と広がります。朝早すぎる頂上のせいか、だれにも会いません。頭丈できれいな山頂小屋でも人懐っこいネズミたちが、唯一血の通った生物との出会いです。

岩の屹立した頂上からは、目の前の薬師も星根続きの鍋頂山も見えませんが、黒ずんだ巨岩と切れ落ちた断崖がよくわかります。穏やかな雨に変わって、あたりはにぎやかに、花々が残りの風に揺らいでいるだけでした。

花巻のスーパーで、パンとポンチョとくつ下を買い込んで、仕事の合間にちょっと遠かい彼方のまだ見ぬ憧れの佳人に逢いに。愉快な半日でした。

（比留間　昇）

5月の連休、丹年ぶりに十津川に流れ荷ノ川の源流に近い長瀬の集落、銚原から標高1305・9mの下辻山に登った。

この山は弥山と釈迦ヶ岳の中間にそびえる上辻山から西へ派生する稜線上の山で、奈良県大塔村と十津川村の境界をなしている。

この山には通常、村営バスを利用しても登山口の民宿で一泊しなければ登れないが、今回は参加者10人がマイカー三台に分乗して日帰り山行を決行した。

山頂には反射板があり、その建設に関係業力のヘリコプターが送電線の保守点検に飛来した為、燃料の補給基地として鉄骨のヘリポートが設置されていて、少し幻滅を感じたが、それでもこのヘリポートを展望台に、眺望は360度。奥駈道の釈迦ヶ岳を中心に山上ヶ岳から玉置山まで、遠く金峰紀泉、奥西野から果底山脈と続き、その風景はまことにすばらしい。

山頂から集落、沼田原への下降点までの稜線の縦走は、新緑には まだ早く、枯れ木のような樹木に ようやく芽吹きが始まったばかりだったが、ゆるやかな起伏と自然林がいっぱいの縦走路を歩く快適さを味わった。人っ子ひとりに会わず、時おり五にする小鳥のさえずりのほか何ひとつ聞こえない。

山頂から3時間足らずで下降点へ到着したが、下山途中で降りだした雨も縦走の余韻が尾を引き、さして気にならず楽しい思い出となった。

（標本　勝作）

今年のG・Wは、体調不良のため近場の日帰り山行で終わった。連休の後半に、K会員会で丹波の千丈寺山へ。ところが、取りつきで迷ってしまいやぶこぎ徒労。翌日、再挑戦しようと一人で出かけた。

2万5千の地図に示されている貴野へ至る峠への道を行く。歩き始めははっきりした道を、途中荒れてきて潰れ沢沿いに樹林の右側をつめて行く。またはっきりした道になり、やがて峠に着く。

ここでY会のものと、も一つの千丈寺山への小さな道標を見つけ、後に尾根道を急登してすんなり頂上に立つことができた。

一日ぼけた1等三角点があり、眺望はなかなかのものだ。風がきつく、早々に下山した。

山頂付近は山ツツジが群生しているが、花は散ってしまっていた。

山頂のかなり手前の東側と山頂の西に、石組みの跡があり、千丈寺山という山名からも、信仰の山だと感じたが、詳しいことは知らない。くだりの途中、山麓の千丈寺湖と周辺の新緑が鮮やかだった。

急登と急なくだりが苦にならない方は、一度登られてみては。

（歩行時間）4～5時間
（行程）JR三田駅（神姫バス）乙原バス停―山頂―北浦バス停（神姫バス）JR三田駅

（山科　邦彦）

春・秋　小グループ
白馬の自然案内します
白馬ファミリーペンション
和　田　森
〒399-93　長野県北安曇郡白馬村八方和田野
電　0261-72-5551

登山歴30年のオーナーが雪倉～針の木岳、雨飾山～火打山などへご案内します。
テントキーパー
1泊2食付き　6500円から
〒399-93　長野県北安曇郡白馬村おちくら
電　0261-72-2151

八ヶ岳南北縦走の中心地
39年秋新館増築・完成全館暖房
大の湯切り新浴室・温泉水風呂
オーレン小屋
1泊2食付き　6000円
4月末～11月末開設
〒391-03　長野県茅野市豊平2220　小池勇夫
電　0266-72-1279

日本唯一の女人禁制の山「大峯山」（百名山）の登山口
稲村ヶ岳女人コースもあり
温泉・名水の里
旅館　紀の国屋喜八
1泊2食付　7,000円から
〒639-04　奈良県吉野郡天川村洞川
電　07476-4-0309

九州の最高峰・日本百名山
宮之浦岳に一番近い宿
屋久島安房登山口
屋久島グリーンホテル
〒891-43
鹿児島県熊毛郡屋久町安房
電　09974-5-3021

ハイキング・キャンプに！
給湯国定公園
朝日渓谷　あさけ茶屋
〒510-12
三重県三重郡菰野町千草
電　0593-93-1789

○「せせらぎ」欄は自由投稿です。最新の情報をお寄せください。

山行の報告又・思い出・感想など。又山歩きやハイキングについての提言やご意見、自然に関するさまざまな情報をお待ちしています。

一行15字詰めで20行（300字）程度にまとめてお寄せください。常時投稿可。

新ハイキング関西編集室

山行計画
（7・8月）
新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって出発の7日前までに到着するように係あて申し込んでください。「要問」のほかに参加名簿代その他の資料代実費を頂くことがあります。

山行申し込み後参加できなくなった場合は急いで係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。

例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。山行当日の解散、係に保険料（日額50円、泊行日帰りの場合は2日になり100円）を支出して頂きます。（A-1）保険会社と契約

傷害保険時約内容は次の通りです。

死亡・後遺傷害保険金額　1000万円
入院保険金　日額　5000円
通院保険金　日額　2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参すること明記した山行　②スキー使用の山行　③沢・岩・氷雪はんを目的とした山行　④宿泊場所内の事故（詳細は係まで）

（記入例）

（往復ハガキを使用）

山行申込み書

山行名

期日

住所 〒

電話番号

氏名

会員番号
（会員でない方は会員外と記入）

生年月日

緊急時の連絡先

返信ハガキの宛て名欄にご自分の住所氏名を記入してください。

鈴鹿を歩く9
水木林道から
イハイガ岳・向山（一般向き）

期　日　7月7日(日)　日帰り
集　合　水木林道奥の平広場　9時
コース　奥の平―雌王尼根―996　2対ピーク―茶原―イハイガ岳―展望ピーク―向山（往復コース）
費　用　保険代50円（交通費自己負担）
地　図　昭文社＝「45御在所・鎌ヶ岳」
係　◎岩野　明　○山本久雄
申込み　〒619―01城陽市寺田大拝10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行に限る

けものの臭いが立ち込めるヌタ場をめぐるルートは野生味満点です（28号・53ページ参照）。雨天中止

大峰・五色峰と天川温泉
（一般向き）

期　日　7月11日(土)　日帰り
集　合　近鉄下市口駅9時10分
コース　下市口駅（バス）川合―五色―稜線―五色峰―天川温泉入浴（バス）下市口広場9時

山行計画の実施について

当会の山行計画は保険を掛けたり、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに提定通り、往復ハガキで申し込んで下さい。人数により前もって、バスなどをチャーターする必要もあります。また山ではいかなる事態が発生するかも。緊急連絡先など、山行申込みハガキに記載すべき事項は必ず全てご記入下さい。

申し込みの返信は案内の締日が決まり次第、遅くとも10日前までにはします。早くから申し込まれた方にしばらくお待ち下さい。

定員のある山岳は先着順（抽選の場合もあり）で受付けています。

山行計画に記載してあるグレードは、常日頃山歩きに親しんでおられることを前提にしています。

（初級向）どなたでも歩けます
（一般向）ハイキングの経験のいるコース
（中級向）かなり経験のいるコース
（やや難向）（難向）（難向）は、危険な所があり、キツイ登りや、下りが長く続くコースと、ご理解下さい。

口駅（解散）
費　用　約4600円（近鉄阿倍野橋駅定点交通費・入浴料共）保険代50円
地　図　昭文社＝「56大峰山系」
係　◎梅本勇作
申込み　〒543大阪市阿倍野区西田辺町1の1の7　梅本まで
定員30名

登山口から山頂まで1時間、後は最高です。下山後、天川温泉に入ります。小雨決行

関西山道の古道を歩く3
葛城道・井関道（一般向き）
（小さな旅の会会員向）

期　日　7月14日(日)　日帰り
集　合　南海泉佐野駅9時20分（普通列車8時12分発行に乗ればさらに公園のりかえ）
コース　泉佐野駅―高師浜―飯盛山―札立山―大神山―井関峠―JR六十谷駅
費　用　約2500円（交通費・駅起点交通費・保険代）
地　図　2万5千＝淡輪
係　◎寺山英男　○村田智俊
申込み　〒610―01城陽市寺田大拝10の10　村田まで

田大拝10の10　村田まで

峠道を歩き飯盛山の眺望をたのしむ。雨天中止

北アルプス・燕岳
（やや難向き）

期　日　7月19日(金夜発)～21日(日)　2泊3日（車中1泊）
集　合　京都駅八条口近鉄改札付近22時（22時30分出発）
コース　(19日)京都駅（夜行バス）中房温泉へ
(20日)中房温泉―合戦尾根―燕山荘（泊）
(21日)燕山荘―燕岳―東沢乗越―中房川―中房温泉（入浴後バス）穂高町（昼食後バス）京都駅（解散20時頃）
費　用　約8500円（交通費・宿泊代・入浴代等）保険代150円・集会時徴収
地　図　昭文社＝「3北アルプス・燕岳」
係　◎妻部弘子
申込み　〒610―01城陽市寺田大拝10の10　新ハイキング関西まで
定員25名（年齢15歳以上）
＊貸切バス使用

合戦尾根を燕岳へ登ります。中沢川・東沢峠は往復コースになります。雨天決行

京都北山歩き45
八一平から峰床山・鎌倉山
（中級向き）

期　日　7月21日(日)　日帰り
集　合　京阪出町柳駅前京都バスのりば8時
コース　出町柳駅（バス）中河原―校前―伊賀谷右俣―八丁平―クラガリ谷―峰床山―オグロ坂峠―鎌倉山―ブナ平―鎌倉谷―鞍川森林キャンプ場―坊村（バス）出町柳駅
費　用　約3000円（バス代・保険代）
地　図　昭文社＝「48京都北山2」
係　◎村田智俊　○鳥比芳美
申込み　〒610―01城陽市寺田大拝10の10　村田まで

八丁平温泉から峰床山へ、樹林の尾根道を鎌倉山へたどり下山します。小雨決行

鈴鹿を歩く10
経ヶ峯・金蔵の滝・永源の滝
（一般向き）

期　日　7月21日(日)　日帰り
集　合　421号線佐目小谷入り口広場9時
コース　佐目小谷林道―佐目小谷―姫ヶ滝（往復）・永源寺―採勝路―もみじ荘―鈴鹿の滝―永禅の滝―永源寺
費　用　保険代50円（交通費自己負担）
地　図　昭文社＝「45御在所・鎌ヶ岳」
係　◎岩野　明　○山本久雄
申込み　〒610―01城陽市寺田大拝10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行に限る

永源寺ダム周辺の滝をめぐります。佐目小谷では渓流シューズか地下タビが便利です（28号・56ページ参照）。雨天中止

北アルプス
燕岳から西穂高岳（難向き）

期　日　7月21日(日)～22日(月)　1泊2日
集　合　21日上高地バスターミナル6時頃（金夜20日発の夜行直行バスで各自集合ください）
コース　(21日)上高地―新中尾峠―燕岳―新中尾峠―新

谷山―西穂山荘（泊）
（22日）西穂山荘―西穂独標―西穂高岳―西穂独標―西穂山荘―王石谷園地（ロープウェイ）新穂高温泉（13時頃解散）
費用　約10000円（山小屋宿泊代・ロープウェイ代等）＊集合時徴収
＊現地までの往復交通費は各自で
地図　昭文社＝「5上高地・槍・穂高」
係　◎鷲見守康
申込み　〒504岐阜県各務原市蘇原河崎町1の19の5　鷲見まで
活火山の焼岳から穂高の人気コースといわれる西穂高の岩稜帯を歩きます。山小屋から往復しますのでサブザックを用意すると便利。雨天決行
○直行バス予約先（10日前まで）
松本電鉄バス（大阪発・京都経由）
06（346）2200
名鉄バス（名古屋発）
052（561）3781
なお、申込みハガキには集合方法も記入してください。

平日木曜ハイク23
北山・笠子山　（中級向き）
期日　7月25日（水）　日帰り
集合　JR平田駅8時40分（8時45分発耶川行きバスに乗車）
コース　平田駅（バス）平―笠子谷の登山口―笠子山―寺谷―平（バス）平田駅（解散16時30分頃）
費用　保険代50円（交通費各自）
地図　昭文社＝「47京都北中」
係　◎明中　毅
申込み　〒610―01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
笠子山は京都府最高峰。暑さ対策を十分に願います。雨天中止

伊吹山夜間登山　（一般向き）
期日　7月27日（日）夜～28日（月）前夜発日帰り
集合　27日JR近江長岡駅21時40分
コース　近江長岡駅（バス）伊吹山登山口―神社（ゴンドラ・リフト）三合目―五合目―八合目―伊吹山（仮眠後お花畑巡り）―三合目（自由解散）
費用　約4000円（大阪から交通費）保険代100円
地図　昭文社＝「44滋賀・伊吹・鈴鹿」
係　◎西田　寛　○中村信行
申込み　〒610―01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
涼しい夜間登山で伊吹山へ。お花畑めぐりもします。灯具必携。小雨決行

鈴鹿を歩く11
須谷川　（健脚向き）
期日　8月4日（日）　日帰り
集合　永源寺町正覚尾ひろせ酒店（421号線終点）9時
コース　421号線―須谷川―銚子ヶ口登山道―杠葉尾
費用　交通費各自（沢歩きのため保険対象外）
装備　渓流シューズか地下タビ　ワラジ必携
地図　昭文社＝「45御在所・鈴ヶ岳」
係　◎宮野　明　○山本久雄
申込み　〒610―01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

＊マイカー山行に限る
定員20名
暑い夏、涼を求めて深山幽谷の渓流を歩きます。谷に沿って古い登山道もありますが、できるだけ沢を歩きます。雨天中止

比良・サカ谷から蓬莱山　（一般向き）
期日　8月4日（日）　日帰り
集合　京阪出町柳駅京都バスのりば8時
コース　出町柳駅（バス）坂下―サカ谷道―小女郎ヶ池―蓬莱山―木戸峠―荒川峠―JR志賀駅（解散）
費用　約3000円（交通費・保険代）
地図　昭文社＝「46比良山系」
係　◎岩田智敏
申込み　〒615―01城陽市寺田大畔10の10　村田まで
涼風と展望を求めて南比良を縦走します。小雨決行

北アルプス・後立山連峰縦走
唐松岳・五竜岳・鹿島槍ヶ岳　（健脚向き）
期日　8月4日（日）～6日（火）　2泊3日

集合　4日長野白馬村八方尾根ゴンドラ山麓駅7時30分頃（前夜3日発の夜行バスかJR夜行便で各自集合ください）
コース　（4日）山麓駅（ゴンドラ）兎平（リフト）第1ケルン―唐松岳―五竜山荘（泊）
（5日）五竜山荘―五竜岳―八峰キレット―鹿島槍ヶ岳―冷池山荘（泊）
（6日）冷池山荘―爺ヶ岳―扇沢（13時頃解散）
費用　約18000円（山小屋宿泊代・ゴンドラ代等）
＊集合時徴収
＊現地までの往復交通費は各自で
地図　昭文社＝「3鹿島槍・黒部湖」
係　◎鷲見守康
申込み　〒504岐阜県各務原市蘇原河崎町1の19の5　鷲見まで
花の八方尾根から唐松・五竜・クサリ場の八峰キレットを越えて鹿島槍・爺ヶ岳を歩き扇沢へくだります。雨天決行
○白馬直行バス予約先（10日前に）
松本電鉄（大阪発・京都経由）
06（346）2200
○JR夜行急行くろよん（大阪発21時45分・京都発22時19分・名古屋発0時58分）が便利です。
なお、申込ハガキには集合方法も記入してください。

鈴鹿・三ツ口から鎌ヶ岳　（やや健脚向き）
期日　8月11日（日）　日帰り
集合　近鉄湯の山温泉駅8時30分
コース　湯の山温泉駅（バス）湯の山温泉街―一の公園―三ツ口谷―鎌ヶ岳―岳峠―長石谷―湯の山温泉街―湯の山温泉駅
費用　保険代50円・参加費100円（交通費各自）
地図　昭文社＝「45御在所・鈴ヶ岳」
係　◎稲垣達夫　○尾崎英五
申込み　〒519―03鈴鹿市大久保町2066稲垣まで
＊マイカーの人は申し込みハガキに「マイカー参加」と記入してください。
涼しい谷沿いの道を涼風の鎌ヶ岳へ登ります。雨天中止

越後の百名山二つ
平ヶ岳と会津駒ヶ岳　（やや健脚向き）
期日　8月14日（水）～17日（土）　3泊4日
集合　（14日朝）京都駅八条口
コース　近鉄改札口付近7時30分（14日）京都駅（バス）鷹ノ巣・清四郎小屋（泊）
（15日）清四郎小屋―登山口―下台倉山―台倉山―鷹ノ巣清水―池ノ岳―平ヶ岳（往復）清四郎小屋（泊）
（16日）清四郎小屋（バス）松枝駅滝沢橋―駒ノ八峰―中門岳（往復）―会津駒ヶ岳―大津岐峠―キリンテ（バス）松枝駅温泉・かぎや旅館（泊）
（17日）松枝駅温泉（バス）京都駅（解散19時頃）
費用　約42000円（バス代・宿泊代等）保険代2000円＊集合時徴収
地図　5万＝松長岳・八海山・燧ヶ岳
係　◎村田智敏　○山島義治
申込み　〒615―01城陽市寺田大畔10の10　村田まで

定員40名（全員に限る）
＊貸切バス使用
百名山を二つ登ります。温泉と花の山旅。雨天決行

鈴鹿を歩く12
元越谷　（健脚向き）
期日　8月18日（日）　日帰り
集合　477号線元越谷林道入り口8時30分
コース　元越谷林道―元越谷―仏谷―左俣―大谷―仏峰―猪足谷林道―元越谷林道
費用　交通費各自（沢歩きのため保険対象外）
装備　渓流シューズか地下タビ　ワラジ必携
地図　昭文社＝「45御在所・鈴ヶ岳」
係　◎宮野　明　○山本久雄
申込み　〒615―01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行に限る
定員20名
花崗岩の明るい谷はナメ滝が続く。淵や釜が鮮やかな深い淵を見せる。大岩からの眺望をたのしむ（26号・44ページ参照）。雨天中止

平日水曜ハイク4
比良・白滝谷から白滝山
（一般向き）
期　日　8月21日(水)　日帰り
集　合　京阪出町柳駅京都バスのりば8時
コース　出町柳駅（バス）坊村―牛コバ―白滝谷―大鳥流―立花滝―長滝―白滝山―伊藤新道―ウナビ大滝―坊村（バス）出町柳駅
費　用　約3500円（バス代）
保険代500円
地　図　昭文社「比良山系」
係　◎高浅次男　○岩田　昇
申込み　〒610―0―1　城陽市寺田大畑10の10　新ハイキング関西まで
白滝山を中心に谷や滝をめぐり、真夏でも涼しげな渓谷をたのしみます。小雨決行

和泉葛城山　（一般向き）
期　日　8月25日(日)　日帰り
集　合　南海岸和田駅バスターミナル①のりば8時30分
＊葛城発8時42分関空急行が便利
コース　岸和田駅（バス）牛滝山

◎井上　保　◎須磨岡　勉
（計29名）

関南アルプス
蟻通山から堂三山（地図帯を見る）
3月3日(日)　晴れ
JR草津駅8・50（集合）9・00（バス）上桂生バス停9・25～30―鮎河山11・15～30―大狗岩12・15（昼食）13・00―耳岩13・15～25―堂三山13・50～14・05―白倉峠14・15～30―柏飯峠出14・55～15・00―さかき観音15・40～45―上桂生バス停16・15（解散）
今回は初参加が14人と多かった。快晴に恵まれ、近江平野と琵琶湖の眺望を楽しみながら、地形図とコンパスの使い方の初歩を学習した。
（参加者）岡田春美　中上紀代子　林　鈴彦　川端節治　川端節子　平山尚志　細井和子　佐々藤之助　藤　嘉子　藤田明子　梅澤芳司　木村勝志　高木忠夫　橋本　栄　川上友邦　大木敏夫　里井信子　上坂建桜　北川史桜　田中二郎子　上田千枝子　○平行　登　◎須磨元一郎　（計23名）

大雲取根から小野谷峠
（京都北山歩き41）
3月10日(日)　晴れ
京都地下鉄北大路駅8・30（貸切バス）佳菅峠9・50―流谷山11・00―ロクジ谷源頭11・20～30―877m ピーク手前の広いピーク12・03（昼食）12・50―877m ピーク14・20―小野谷峠14・50―ツツビ谷試験場15・20～35―小野谷口バス停16・06～15（バス）北大路駅17・30（解散）
稜線2社以上のまっ白い尾根上にトレースをつけながら歩いた。快適な雪山歩きが出来た。
（参加者）芝野義明　吳長松美　宮本真幸　宮本悦子　里井節雄　里井信子　吉田逸宏　市瀬順子　白根治子　辻　行子　金北新一　金光真美　鈴木利明　村越みよ子　木村利雄　森澤孝博　森澤恵子　高橋源治　浅田俊男　本間俊次　北川文子　藤　嘉子　林　美智子　村上春代　田上久雄　井上真美子　前田欽郎　徳田義郎　太田耀枝子　林　鈴彦　南　寛子　中田澄子　高瀬明美　石田貴二　吉原　浩　野口　敏　石田和彦　石田輝子　宮岡孝喜　武部　剛　武部美智子　加　久子　鈴木久子　若木修一　下西　純　寺本幸男　邊見千歩子　真原満男　血原智子　辻　嘉一郎　加藤　孝　加藤信子　内海幸三郎　河原雅子　笠田吉美　城戸義幸　林　正義　林　鶴子　東森　薫　上江敦子　桜本　博　入江武史　伊沢豊子　西沢澄子　上田正子　宮原定夫　中村利子　岩本いすゞ　築山宏夫　松世野正　後藤義明　鎌原義子　山科邦彦　宮村孝次郎　平　幸子　太田欽弥　西村勝子　永井哲男　豊岡正博　林　澄子　前田幸子　河原美代子　松林登美　上坂建桜　中井ひろみ　鈴木昌子　日高史郎　山根知恵子　美村孝治　美村一夜　上江思美子　山本　郁　熊木義雄　青木一雄　高橋　寛　酒井　恵　竹内正三　中山光郎　○則定保夫
○上行　操　（計41名）

金輪寺から半国山
（平日水曜ハイク19）
3月14日(水)　晴れ
JR亀岡駅9・10（集合）9・20（バス）宮川9・30～50―金輪寺10・25～30―半国山12・05（昼食）12・45―下ヶ畑口14・00～05（バス）亀岡駅14・30（解散）
春本番を思わせるような好天に恵まれ、善ち峠と残雪を楽みながら歩いた。山頂から望見した愛宕山や北山連峰は積雪していた。
（参加者）芝野義明　橋本芳雄　川端敏子　今西平男　中村英雄　高宮信男　北浦信夫　藤田光彦　南　寛子　東　良夫　小林政男　石田輝子　荒井寛子　岡原正夫　高橋明美　宮木　清　長沢敏美　宮田美奈子　福田　芳　新谷悦子　伊藤みはる　川上久雄　辻　嘉子　辻　嘉一郎　大木久子　芝野純子　吉岡義枝　鷲見陽子　横　嘉子　谷月マサ子　村上春代　佐田宏男　高野昭一　阿部邦彦　上坂建桜　中村澄一　松木健二　日高史郎　岡田千嘉子　高等嘉治　中村利子　菊地すゑ子　熊木義雄　◎前中　敏（計16名）

嵯峨・姫越山
3月17日(日)　雨
阪急嵐山線・渡月橋・宮町通場8・30（集合・歩）紀勢町錦港10・00―姫塚口・15―姫越山11・30（昼食）12・05―高塚山・30～14・00―境界尾根14・25―銀杏15・30（解散）
雨あがりの海や空、光の変化の

山行報告
（3・4月）
新ハイキングクラブ関西

赤トンボの古里園野から的場山・亀の山
3月3日(日)　晴れ
JR新宮駅10・20―福手登山口11・05―坂瀬川分岐11・35―亀の池12・05（昼食）12・45―亀の山13・30―的場山15・05―高見坂峠16・00―鍋谷谷峠16・30（解散）
予定を変更して逆コースで出発、戦国武者たちが駆け登ったという山道を歩き、極楽の山並みを楽しんだ。下山後、鍋谷資料館に立ち寄り過去と問いものをした。
（参加者）今村　進　鳥田千枝子　飯田春子　今津省司　川端正夫子　三宅　明　野口　敏　野口志津子　前田政雄　谷野東邦　森実群美子　姫　久子　中村利子　山田けいこ　吉田逸宏　岡田　昇　岡田恵美子　中山法恵　山本　勉　堀之内紀江　金内一男　鶴見利子　下田三千子　今江群美子　元砂でるよ　川上春代子　和田美恵子

妙を存分に味わうことができました。

（参加者）本村野和　森　美香子
山本雅子　藤田和洋　石田良由美
川本　隆　大野　博　福田恵美子
大野晴紀　大野圭治　平　紳一
平　幸子　○尾崎美五
◎福田光夫　（計14名）

丹生山系・鳴川谷

3月14日(日)　◎今津省司
雨天のため中止しました。

清水平谷林道から鍋乞岳

（鈴鹿を歩く1）

3月20日(日)　晴れ
大河原・かもしか住居駐車場8・30（集合）8・50（発）大菊ヶ谷林道分岐9・10～15－清水平谷林道登山口9・45～50－植林帯を抜けたピーク11・00～15－清水ノ頭11・35－南尾ノ尾12・10－南乞岳13・20（昼食）13・20－清水ノ頭13・50－白倉谷林道15・20－大菊ヶ谷林道分岐15・30（解散）
雪原の尾根から鈴鹿の主峰を遠望した。よくしまった雪の上は歩きやすい
（参加者）森澤元博　森澤淑子
中山雄男　飯田　昇　呉井裕美
大石將夫　高橋明美　森　裕紀子
高杉　博　鈴田峰雄　池田真理子
池田繁美　鈴川昭五　鈴田真理子
岡南年彦　佐藤雪三　鈴木　市
川端　進　河辺敦男　林原寿生
坂滑　茂　藤坂　寛　藤坂昌子
高橋　寛　小林　修　馬場宏美
小林　稔　○村田智彦
○山本久雄　◎吉野　明　（計30名）

鈴鹿・藤原岳

3月24日(日)　曇り
三岳西藤原駅9・30（集合）－表登山道二合目10・00－四合目10・30－六合目10・50－避難小屋12・00（昼食）12・40－裏登山道八合目13・10－三合目14・30－西藤原駅15・15（解散）
頂上部はガスのため乳白色の世界。六合目からかなりの残雪があり、花の開花は遅れている。それでも裏道四合目でセリバオウレン、裏道六合目でセツブンソウが咲いていた。頂上部では霜のふくらんだフクジュソウを見た。
（参加者）堀　良男　林　鈴彦
真井幸生　福田勝治　福田久美子
木村朝恵　田中順子　明和成行
鍋木秀雄　山田明男　（計11名）

大峰・大日山からセト山

3月24日(日)　晴れのち曇り
近鉄八木駅8・00（集合）8・20（バス）天辻10・25－大日山11・15～25－出屋敷休12・00－白石岳12・50（昼食）13・25－セト山13・50～14・00－今井峠14・20－上関着15・30（解散）
大峰の穴場の山歩き、人っこひとり会わず、県境尾根から奥熊野・大峰の山並みの展望を楽しんだ。
清見のバスが登山口に着くまでに、初一人が他のハイカーといっしょに途中の高圧線下降りてしまったのは残念でした。
（参加者）湯浅次男　平山巨郎子
篠原昌憲　西尾富新　黒田久子
篠原英明　梅田　實　狩野東彦
和泉元一　船越利朝　船越みよ子
美恒三枝　渡辺敏一　○高岡信男
◎福本勇作　（計16名）

十三峠越

（鈴鹿山麓の古道を歩く1）

3月31日(日)　晴れ
近鉄服部川駅10・00（集合）10・30－玉垣神社10・45－水呑地蔵11・40（昼食）12・30－十三峠13・00－近鉄富田駅14・30（解散）
十三峠の塚を見学し、山桜満点々と咲く小峠峠越をのんびりとくだった。まさに春たけなわの峠越えであった。
（参加者）青木一雄　弁秋一郎
佐田次男　岡田裕美　富岡茅次郎
中村静香　上田東子　中上紀代子
下江敬子　隠　勇子　小田潤子
木村　晃　廣田政雄　岡田春美
中田茂子　石松雅子　妹尾一正
妹尾公代　山本　勉　吉岡清夫
山名正弥　佐藤基子　○村田智彦
◎寺山泉男　（計24名）

御池川林道から

残雪の御池岳南部

（鈴鹿を歩く2）

3月31日(日)　曇り
御池川林道と小文谷林道分岐広場9・00（集合）9・15－土倉尾根分岐10・30－土倉岳10・50－御池岳南端11・30－南峰12・00－天狗ノ鼻12・15（昼食）13・00－ピーク967m14・00－ブナ林尾根15・00－御池川林道15・30－小文谷分岐16・00（解散）
終日曇り空で－0.0℃がより上は濃いガスと雪が混じり合って白一色の幻想的な御池岳でした。参加された人も満足された様子で、心地よい疲れをおみやげに帰路につきました。
（参加者）森澤元博　森澤淑子
小林　稔　和泉元一　大石將夫
岡南年彦　池田真理子　吉田直二
川端　進　林原寿生　成滑　茂
西岡博徳　池田繁美　徳田峰雄
藤沢雅郎　吉原　稔　佐藤貫三
阿部邦彦　小林　修　○山本久雄
◎吉野　明　（計24名）

今畑から霊仙山西尾根新ルート

（鈴鹿を歩く3）

4月7日(日)　◎吉野　明
雨のため中止しました。

室生・大洞山と三多気の桜

4月7日(日)　◎村田智彦
雨のため中止しました。

出炭から山崎峠

（平日水曜ハイク2）

4月10日(水)　晴れのち曇り
JR西梅駅北口7・40（集合）7・54（バス）出炭8・30～45－東海自然歩道合流点9・50－ボンボン山10・10～30－釈迦岳10・50－四ッ辻11・30－鍋谷峠12・25（昼食）13・20－天王山14・15～30－山崎峠天15・10（解散）
あまり歩かれていないコースをとり、ボンボン山周辺の道に厚く雪もった落ち葉を踏みしめて快適に歩いた。3月初旬並みの寒さで午後からは冷え、解散後駅大さんの八分咲きの桜を眺えながらも楽しんだ。
（参加者）川端敏子　田中まや子
新山愛子　黄田政雄　口三茂子
三浦弘幸　白根清子　中上紀代子
辻　行子　吉田誠宏　久保田信代
稲本芳雄　大鳴弥吉　黒田久子
松本慶子　大谷雅子　愛岡克子
服口貴司　村井　武　吉野勝美
久野綾子　辻　康子　辻　孝一郎
細井和子　長沢佑美　伊藤みはる
澤野幸子　城月満幸　谷真マサ子
佐田次男　中村美雄　堅田美奈子
松田みつ　秋山美穂　千葉千枝子
川上久堅　吉岡義長　小林伊存子
原田智子　仲秋一郎　菊池すみ子
仲秋雅子　鵜　嘉子　岡田千恵子
松本健二　高橋隆子　田中俊長
中村和子　兼田幸子　押本吉生
日高史緒　○西尾広一
○岡田　昇　○青木一雄
◎湯浅次男　（計55名）

三田・千丈寺山

4月14日(日)　曇り時々晴れ
JR三田駅9・30（集合・タクシー）北畑－神社10・17－千丈寺山口・50（昼食）12・40－硯13・40－上雲野14・05（バス）三田駅15・20（解散）
数年来の少雨でかるみも乾いており難なく通過できた。里山にもかかわらず静かな山で他の登山者には全く出会わなかった。
（参加者）新出芳子　木村　晃
野口　修　吉嶺　清　吉稲ミチコ
藤村勝彦　今村　真　船越みよ子
船越利明　石田賢二　愛岡克子
山本武臣　山本金子　田中かね子
川上久堅　岡田　昇　前田幸子
○今津省司　◎井上　保　（計19名）

大峰・観音峰から法力峠

4月14日(日)　晴れのち曇り
近鉄上市口駅9・10（集合）9・15（バス）観音峰登山口10・45～55－観音峰11・35～40－観音峰12・40（昼食）13・20－法力峠14・40～50－洞川15・50（解散）
桜が満開という時季に大寒波。アイゼン持参の連絡をしたが、気温の上昇で装着の必要もなく、ススキの原から、稜線から大峰山系の雄大な眺望を堪能に楽しんで全員無事下山した。
（参加者）明神成行　小林　昇
林　鈴彦　中村和子　堀　久子
今西光男　中村静香　梅田　實
狩野東彦　羅木芳雄　竹田善英
川端敏子　布施清美
吉田誠宏　辻　行子　宮田春次郎
児玉淑子　白根清子　加藤元彦
○森澤博之　○橋田昌雄
◎福本勇作　（計23名）

比叡山縦走・坂本から大原

（平日木曜ハイク20）

4月18日(日)　晴れ
JR比叡山坂本駅8・00（集合）8・10－叡立山駅北分岐9・40～50－根本中堂10・25～35－大比叡11・02～10－玉体杉12・35（昼食）13・15～35－仰木峠14・20－大原山15・35～45－音羽ノ滝16・25～35－大原バスプール16・50（解散）
健脚指定にもかかわらずたくさんのご参加をいただき、いずれ劣らぬ（とくに女性陣の）健脚ぶりに驚目し、感嘆しました。
（参加者）児玉淑子　藤田光彦
三浦弘幸　藤木一夫　堅田美奈子
村上春代　恒任正昭　川端敏子
中村英雄　水谷周一　水見真砂子

荒井寛子　臼井輝子　城川護幸
石原若子　北原信桜　来　直美
宮坂敏彦　南　寛子　畠山信夫
瀬里静香　中川光郎　山口佳代子
本田博子　高橋明美　小林伊作子
長沢佑美　宮角孝吉　山本千鈴子
渕坂　寛　溪坂昌子　加藤元啓
高木　著　吉岡義枝　郷木美恵子
林　鴨子　上坂紅枝　辻　良子
隣　嘉子　三宅　明　豊田真理子
中村利子　伊藤理抄　谷角マサ子
仲秋一郎　川上久堅　◎前中　敏
（計47名）

高野三山

4月21日(日)　晴れ

南海橋本駅9・10（集合）9・25－滝本駅9・55－女人堂10・10～15－転軸公園10・55－11・03－転軸山11・15～20－広谷出11・30（昼食）12・20－横柳山13・00～05－座尼山13・25～40－奥ノ院14・00（解散）－丁子院バス停14・40－橋本駅15・40

高野山々上の春の訪れは遅い。すがすがしい桜林の中を気持ちよく歩いた。行き帰りの車窓からの桜は満開だった。

（参加者）木全北秀　村上春代　湯浅欣男　川端敏子　川端配治　大木欣夫　稲本芳雄　前田攻雄　横田昌憲　竹田普英　三木民子　近藤　義　岩崎宗生　伊藤節子　津留光弘　内山　亨　内山弘子　青木一雄　吉田誠宏　堤　良男　狩野貴彦　川本　隆　川本吉子　貴田久子　平瀬英子　浜谷節江　小倉孝雄　井藤正昭　橋本喜久夫　森川信之　山本　勉　平川日那子　熊原定夫　古田裕子　白神文子　高田梨久　高橋　寛　阪田真介　竹田利夫　横井恭子　佐田宏明　○園田　昇　◎奥村義治（計43名）

石上神宮から大和神社へ

（文学歴史散歩29）

4月21日(日)　晴れ

天理駅9・00（集合）9・10－熊島神社9・45～50－櫟尾の池10・40～50－石上神宮11・45～12・05－内山永久寺跡12・15（昼食）12・00－夜都岐神社14・00～10－竹之内環濠集落14・25～30－大和神社15・00～25－天理教教祖誕生地15・35～45－藤の棚・黄檗句碑15・50～16・00－天理駅16・40（解散）

淡い紫色のショウジョウバカマが顔をのぞかせていました。満開の桜の下で食べた弁当。満開で賞ったいちごがとてもおいしかった。

（参加者）新出雲子　高木忠夫　高木公子　里井節雄　里井昌子　林　冷子　杉村安代　森脇むつみ　森田順子　川合孝徳　田中富美江　東野武英　松永良平　前田太美　前田泰子　前田晃面　前田　明　○園田知康　◎松永惠一（計19名）

美濃・舟伏山

4月28日(日)　快晴

美山町役場9・00（集合）9・15（車）あいの森駐車場9・50－さくら峠10・40－みのわ平11・10－舟伏山12・10（昼食）13・00－あいの森駐車場15・10（解散）

冬雪の影響で舟伏山の春は一～二週間遅れ、春らんまんとはいかなかったものの、満開のカタクリ・キクザキイチゲ・イワザクラ・キバナイカリソウ、また各種のスミレに出会え、ますますでした。次第に登山者が増え、植物の数いにかげりが、動物たちの形も薄くなっているような気がしました。

（参加者）田中順子　鈴木広和　高木鎮夫　加藤元彦　藤澤順子　藤井健造　福田勝治　小出九三雄　田中順子　吳坪裕美　下川三千子　松田敏子　柿木克子　熊田幸子　村田智度　◎鈴見平康（計16名）

幻の塔・御金明神へ

（鈴鹿を歩く4）

4月28日(日)　快晴

神崎橋広場8・00（集合）8・10－鈴子ケ口東峰10・10－谷尻谷出合11・05－御金明神11・45（昼食）12・45－谷尻谷出合13・10－鈴子ケ口東峰14・40－鈴子ケ口三角点14・50－北峰15・25－登山道出合16・00－神崎橋17・20（解散）

絶好の登山日和、東峰を越え眼下の御金明神のある尻根へは、いったん北谷尻谷へかけくだる。紅葉の再盛を思うともったいない。四人連れの婦人と会った。御金明神は明るく切り開かれ、遠望もしっかりしていた。

（参加者）小林　稔　飯田　昇　谷　久雄　高杉　博　大石鶴美　林原寿生　藤清　茂　徳田峰雄　池田繁夫　河辺牧男　横原仁園　豊田真理子　奥村一平　○山本久雄　◎吳坪　明　（計17名）

山旅から銅市山

（京都北山歩き42）

4月29日(日)　晴れ

京都駅八条口7・30（集合）7・40（バス）山森9・45～55－林道終点登山口10・30～35－国境稜線11・20－上衣分岐手前広場11・55（昼食）12・40－上谷分岐13・00－頂市山13・10～25－稜線下山分岐14・20－林道終点登山口15・00－山森15・33～40（解散・バス）京都駅八条口17・50

芽吹いたばかりの若葉国境を歩いて頂市山頂を踏んだ。整備された登山道を往復した。

（参加者）狩野貴彦　佐田次郎　木全北秀　村上春代　新山雅子　児玉廉子　中村利子　吉田誠宏　横井　徹　横井恭子　横田久子　平松英子　稲本芳雄　青木一雄　川端敏子　竹田善英　高村孝次郎　森川信之　福浅欣男　仲秋一郎　宮本真幸　宮本悦子　仲秋敏子　和田直樹　桑澤元博　中川光郎　森澤綾子　青岡敏子　森澤綾子　永田雪美　入江武史　本田博子　河村史夫　森本真智子　岸　嘉子　中村静香　下川三千子　吳山繁三　佐藤綾子　小堂　学　久保田英次　松下　武　西岩泰治　数井聡子　稲田節子　中野栄一　○吳坪裕美　◎村田智度　（計47名（マイカー6名））

新ハイキングクラブ関西

入会のすすめ

このページの山行例会を通じて正しい山歩きを、たのしい山仲間たちと味わいませんか。リーダー（鈴鹿）はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い費代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。

あなたも新ハイキングクラブ関西に入会してたのしいお仲間になりませんか。会員には冊子「新ハイキング・別冊関西の山」（年間隔月6号分）をお届けします。会員は山行例会に優先参加できます。

入会金　500円（バッジ代）
年会費　2500円（資料費）

新ハイキングクラブ関西への入会申し込みはこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。裏面には氏名（ふりがな）及び第何号から送本せよとご記入ください。

尚、定期購読をご希望される方も会員になっていただきますと、毎号確実にお手元に届きますので便利です。

山行リーダー募集

リーダーは2か月に一～二回程度の山行計画を立案し、実施していただきます。

経験のある人や、やってみたいと思われる人は、当会本部（村田）までご連絡ください。

マニュアルを記した小冊子「新ハイ関西・リーダー必携」を送ります。

○新入会員紹介（2869まで）
原田宗治　阪口貴司　宮本保雄
瀬里静香　武部　剛　武部美幸子
水田千加　藤沢節郎　弓削美智子
荷川すみ子　瀬戸内仲子
中崎利子　豊田秀夫　阪田千恵子
瀬尾のぞみ　阿久津紀代子
本多武夫　山梨　猛　山梨かおる
寺岡あゆ子　黒澤ゆり子
武田元司　小田紗子　高田華子
小山順子　相原弘彦　前田孝一
内藤正司　斎藤綾義　斎藤佳代子
夏目信憲　黒田三郎　栗　義幸
鈴木広和　中山泰夫　中山美智恵
西口國明　横原仁園　横原かおり
久納淳子　森下雪子　加藤　孝
加藤信子　藤森　功　藤森加代子
林　令子　見馬　寛　竹内青久子
原田節子　田中啓之　宮田本佐子
黒木安男　林　良弘　林　満智子
木全佐智子　田中真冬子
小林　桂　小島和子　井上裕子
斎藤義治　金森節子　高木忠美子
平野俊夫　真鍋　昭　真鍋明美
柴原清吉　柴原恵子　中川博美
尾上大輔　森下幸則　森下靖子
日野貴夫　長塚武子　山田健一
山田通代　中野良一　中野敬子
青木英雄子　松原喜豆子
上田幸男　奥村一平　森下加代子
青木哲男　加藤伸二　桑原直志
馬場宏美　馬場宗男　佐藤立美
広瀬武彦　木寺義雄　木寺昭子
森　由理子　清水美代子
中西　寛　中西佳子　井上千代子
長沢利昌　新　喜代子
松山利雄　松山みつ　河端千雄
中村伸次　山上恵一（109名）

訂正とお詫び

28号（初夏）39ページ中段6行目「ポ・マニンゴクサ」は「ヤマエンゴサク」が正しい。

28号（初夏）81ページ中段16行目「6月2日(金)」は「6月2日(土)」が正しい。

（編集担当）

毎号お求めになりたい人へ

前もって書店に何号ほしいと「購読予約」をされますと、どこの書店でもお買い求めいただけます。偶数月の20日ごろ（奇月刊）の発売です。